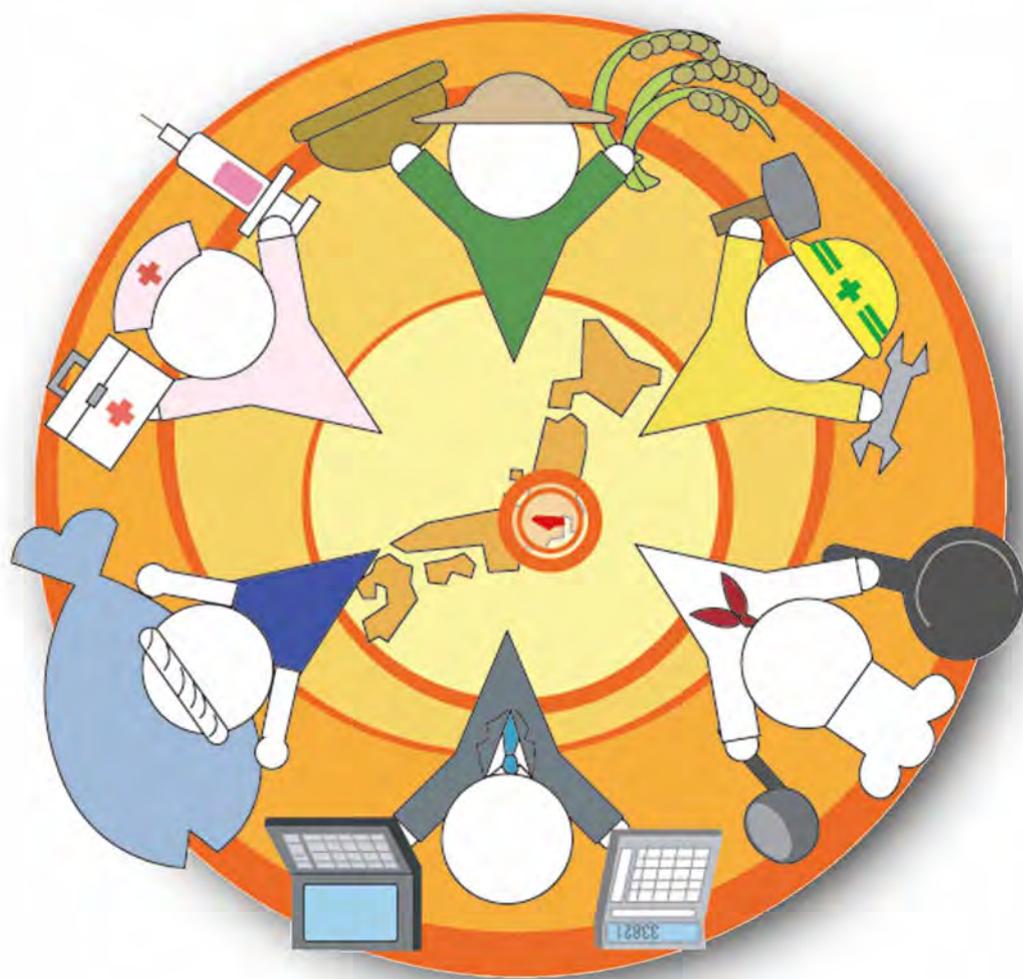


東京の産業教育

特集 「新しい日常」における産業教育の推進
—各校・各学科の取組—



令和2年度 第58号
東京都産業教育振興会

東京の産業教育 第58号 目次

巻頭のことば 「『新しい日常』で発揮する産業教育の真価」

東京都立農芸高等学校長 小堀卓二・・・1

特集 「新しい日常」における産業教育の推進—各校・各学科の取組—

- 1 「新しい日常」における産業教育の推進—専門高校における取組—
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 佐竹晶博・・・2
- 2 コロナ禍における農業教育の推進～コロナ禍から Society5.0 へ～
東京都立農芸高等学校長 小堀卓二・・・4
- 3 「感染拡大防止」・「生徒の学びの保障」を中心とした取組
東京都立田無工業高等学校主幹教諭 田中和夫・・・6
- 4 感染症対策を徹底して行った教育活動の工夫について
東京都立第三商業高等学校副校長 宮本弘・・・8
- 5 介護福祉士養成校として専門的な知識・技能習得に向けた新たな取り組み
東京都立野津田高等学校教諭 村木要・・・10
- 6 新型コロナウイルス感染症防止期間中の教育活動
東京都立晴海総合高等学校長 玉川弘文・・・12
- 7 コロナとの共存と実業高校としての新たな取り組み
東京実業高等学校副校長 小畑雅一・・・14
- 8 新型コロナウイルス感染防止期間中の教育活動
安部学院高等学校長 安部元彦・・・16
- 9 新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開までの道程とこれから—目黒区立中学校技術・家庭科の取組—
目黒区立第十一中学校長 田井俊行・・・18
- 10 「新しい日常」への挑戦～ICTパイロット校の成果を基に～
東京都立三鷹中等教育学校統括校長 藤野泰郎・・・20
- 11 “コロナ禍における学校運営”
学校法人後藤学園武蔵野栄養専門学校長 久保淳・・・22
- 12 ウイズコロナ時代における教育活動の取組
学校法人窪田学園窪田理容美容専門学校長 中村雅江・・・24
- 13 実験実習の授業再開を最優先とした学校運営とその対策
東京都立産業技術高等専門学校 荒川キャンパス教務主事 山本昇志・・・26

東京の産業界

- 1 ～「じぶんごと」からはじめよう～ 2030 SDGs チャレンジ
読売新聞教育ネットワーク事務局事務局長 吉池亮・・・28
- 2 専修学校各種学校教育の充実振興を目指して
公益社団法人東京都専修学校各種学校協会会長 山中祥弘・・・30

情報スクエア

- 1 平成30年度「キャリア教育優良学校」文部科学大臣表彰を受賞して
東京都立大島高等学校長 住 吉 貴 之・・・32
- 2 令和元年度「キャリア教育優良学校」文部科学大臣表彰を受賞して
東京都立第五商業高等学校長 小 川 孝・・・34
- 3 令和元年度「キャリア教育優良学校」文部科学大臣表彰を受賞して
北区立明桜中学校長 五 明 早 苗・・・36
- 4 第30回全国産業教育フェア大分大会 さんフェア大分2020 事 務 局・・・38
- 5 第62回全国産業教育振興大会(大分大会) 事 務 局・・・40

報 告

- 1 令和2年度 総会・講演会報告 41
- 2 令和2年度 講演会・講演要旨
「興味と関心を原動力にみずから学ぶ力を育むー博物館で新たな学びを一」
公益財団法人江川文庫理事(元文化庁主任文化財調査官) 岡 部 幹 彦 氏・・・42
- 3 令和2年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰 50
- 4 令和2年度 東京都産業教育振興会後援事業 51
- 5 令和2年度 産学懇談会 52
- 6 令和2年度 第31回東京都産業教育振興会作文コンクール
(1) 入選者一覧 54
(2) 最優秀作文 56
(3) 応募校一覧 59
(4) 応募数・応募校・入選数の変化 60
(5) 作文のテーマ別応募数一覧 61
- 7 東京都産業教育振興会ロゴマークの審査結果について 62
- 8 報告書「東京の産業教育の変革に向けた提言」について 64

本会の概要

- 1 令和2年度 事業経過報告(令和3年2月20日現在) 66
 - 2 令和元年度 決算 68
 - 3 令和2年度 予算 69
 - 4 令和2年度 東京都産業教育振興会役員 70
 - 5 令和2年度 東京都産業教育振興会各委員会委員 71
 - 6 東京都産業教育振興会会則 72
 - 7 令和2年度 会員名簿 74
 - 8 入会案内・編集後記 100
- 広告目次 101

巻頭のことば

「『新しい日常』で発揮する産業教育の真価」

東京都産業教育振興会副会長

東京都立農芸高等学校長 小堀 卓二



新型コロナウイルス感染症の拡大により社会生活全体に大きな影響が出ています。教育活動においても例外ではありません。見通しがつかない中ですが、教育活動を止めることはできません。オンライン授業や時差登校、感染防止対策を十分に行った教育環境の確保等に取り組み、教育活動を進めています。特に産業教育では、実体験が重要です。今までと違った安全、安心を模索しています。

産業教育において知識技術を修得し活用するためには個人または共同での体験的活動は欠かすことができません。しかし、人が集まることや移動すること、会話等で感染が拡大する新型コロナウイルス感染症は、治療法が確立されていないのが現状です。新型コロナウイルスの感染防止を図りながら、「コロナ禍世代を絶対に作らない」を胸に『新しい日常』の中における産業教育を教職員、生徒・保護者、地域と一丸となって推進する決意です。

『新しい日常』においては持続可能な産業社会を担う人材の育成は待ったなしです。専門知識・技術に加え、課題発見・解決能力を身につけた産業人が今まで以上に求められます。そのような人材を育成するには身の回りのことに対して「なぜ」を考える姿勢を持たせることが大切です。「なぜ」の思考はAIが高度に発展し、Society5.0で実現する社会で活躍する人材に求められる資質の一つです。学習の中に「なぜ」の機会が豊富にあり、協同し創造的な学習活動の場を提供できる産業教育は、産業社会における『新しい日常』を実現する人材を育成できる重要な教育活動であると確信しています。

東京都産業教育振興会では産業教育の発展のために令和元年度と2年度に二つの事業を形として残すことができました。

一つ目は、令和元年度に会員校の生徒・学生からロゴマークを募集し、ロゴマークを作成し商標登録をしたことです。これは、本会が産業教育の振興のために行っている広報活動のさらなる充実を図るためのものです。各学校や企業にあるように「シンボルマーク」として活用し、各方面に本会の活動を知っていただけるよう努めていきたいと思えます。

二つ目は、令和2年度に報告書「東京の産業教育の変革に向けた提言」を作成したことです。報告書は東京の産業教育の変革に向けて様々な提言をしており、関係各方面に働きかけることで、産業教育の充実と発展に寄与していきたいと思えます。

令和2年度は、新型コロナウイルス対応が求められていることを踏まえて、『新しい日常』における産業教育の推進「各校・学科の取組」について紹介します。それぞれの学校の取り組みが会員各校の教育活動並びに企業活動の参考となっていただければ幸いです。

特集 「新しい日常」における産業教育の推進—各校・各学科の取組—



「新しい日常」における産業教育の推進
—専門高校における取組—

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 佐竹 晶博

1 はじめに

都立学校においては、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、前年度から続く長期の臨時休業期間中の生徒の心身の健康状態の把握や、オンライン学習等による家庭学習への対応、臨時休業明けの段階的な教育活動の再開に向けた準備等を行ってきました。

東京都教育委員会は、令和2年5月25日に、「新型コロナウイルス感染症対策と学校運営に関するガイドライン（都立学校）～学校の「新しい日常」の定着に向けて～」（以下「本ガイドライン」という。）を策定し、都立学校における段階的再開の具体的な段取りや感染症対策予防の具体的な内容、教育活動に係る運営方法、感染者が出た場合の対応等を示しました。また、高等学校教育指導課において本ガイドラインを踏まえ、各校での徹底した感染症対策と児童・生徒等の健やかな学びの保障との両立に向けた指針として「Q&A」を作成し学校に送付しました。こうした方針をもとに、各学校では、新たなウイルスと共に社会で生きていかなければならないという認識に立ち、感染症対策を講じながら、各学校において、感染症のさらなる拡大への備えも視野に入れ、学校での授業とオンライン学習等による家庭学習を組み合わせた教育活動に取り組んでいるところでは、

今号では、実験や実習の多い専門高校におけるICTの利活用やオンライン学習の機会を拡大する取組について紹介します。

2 ICTの利活用やオンライン学習の機会を拡大する取組

学習指導要領には、専門学科高校における、各科に属する科目に担当する時数は、総授業時数の10分の5以上を実験・実習に担当し、実践的・体験的な学習活動を行うことが示されています。本来、実験・実習は、校内外の充実した施設・設備で実施するものという認識が共通しており、新型コロナウイルス感染症への対応のため、実験・実習の指導では、生徒に対してワークシートや板書を用いて、直接指示している場面が多く見られました。しかし、教室での授業等、施設・設備がない中でも、制作した動画を配信することで、家庭学習や生徒の理解が進みます。また、教員や外部人材の高い技術力による演示や示範によって、難度の高い技術の習得への意欲や安全な実習に向けた関心を喚起することにつながると考えます。各学校の工夫した指導事例を紹介します。

【ケースA】

工業系高校（旋盤加工に関する動画の配信）

- ・旋盤の使い方を解説（1回5分程度の動画をシリーズで複数回分制作）
- ・機械の名称（スイッチパネル、ハンドル等）や動作、手順や注意事項の説明

ケースAは工業の授業ですが、農業における品質や収量への影響も大きいとされる剪定や摘花（果）の方法に関する動画の配信も有効であると考えます。

農業の実験・実習では、時期を逃すと生徒に特徴的な事物・現象を示すことができなかつたり、

【ケースB】

農業系高校（家畜飼育に関する動画の配信）

- ・家畜に見分けるための印（足環等）を付ける方法の説明
- ・家畜の飼料（えさ）の種類や量に関する説明

今後の学習の見通しを示すことが難しかったりすることがあります。単元の導入時の学習の「見通し」を立てる活動や単元末において自らの学習の「振り返り」を行う活動において、生徒に観察させたいことや考察を深めるためのポイントを明確にした動画等を活用することで、学習内容の確かな理解と定着を図ることができると考えます。

ケースAやケースBでのオンライン学習を経験した生徒からは、繰り返し動画を再生することで学習内容をより確実に理解することができたといった感想が寄せられています。

文部科学省の『ICTを活用した教育の推進に関する懇談会』報告書（中間まとめ）（平成26年8月）には、ICTの活用により容易となる学習場面の例として、「思考の可視化」、「瞬時の共有化」、「試行の繰り返し」の3つが挙げられています。これらの長を踏まえ、積極的なICTの利活用を校内で検討をお願いします。

【ケースC】

商業高校（双方向オンラインで模擬株式会社の会議を実施）

- ・企業や自治体との連携事業（生徒が経理と販売担当）
- ・生徒が社員ミーティングを行い、今年度の事業内容を検討

各学校では、学習指導要領の改訂に伴い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を各教科で進めているところです。

オンライン学習は、同時双方向のやり取りを集団で行うオンライン授業型、1対1で行うオンラ

イン個別指導型、動画配信型、課題配信型、民間事業者等の教材を利用する外部サービス活用型等、様々な方法が模索されています。

感染症拡大防止に配慮しながらも、協働的な学びを実現するため、オンライン会議ツールを活用するなどして、互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させることが可能になると考えます。

なお、オンライン学習に際しては、引用した文章や図や写真の掲載に関して、著作権や肖像権への配慮が、また、実習の様子を動画として作成する場合は、完成品が市販のコンテンツを模したものとしないう留意する必要があります。また、特定の教科書を使用して作成した動画を複数校で視聴する場合は、視聴する学校が動画と同じ教科書を使用していることが条件となります。これらに留意しながら、オンライン学習の機会の拡大を図っていくようお願いします。

今後も、全ての高校等で、コンピュータや情報通信ネットワーク等の活用を図り、学習の効果を高めるための工夫について、継続して研究を重ねていく必要があります。そのとき、専門高校の取組も参考にさせていただければと考えています。

3 おわりに

1月に入り、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が再度発出されましたが、都立学校においては、感染の発生や感染拡大のリスクを低減する取り組みを徹底しながら学校運営を継続することにしました。各校におかれましては、本ガイドライン及び新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた職業に関する教科の実習等に関するQ & A等を参考に、新型ウイルスが存在する中であっても、万全の感染症対策を講じて、教育活動を継続しながらなければならないという認識に立ち、学校の「新しい日常」を定着させていただきたいと思ひます。



コロナ禍における農業教育の推進 ～コロナ禍から Society5.0 へ～

東京都立農芸高等学校長 小堀 卓二

1 はじめに

令和2年度は、新型コロナウイルス COVID-19 感染防止の中で学校運営を始めることとなった。令和2年2月下旬に文部科学省から都道府県に出された通知に基づき全国の高等学校が感染防止に取り組んだ。現在も都立学校では時差登校等「新型コロナウイルス感染症対策と学校運営に関するガイドライン」に沿った学校運営を行っている。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で「農高生の甲子園」とも言われる日本学校農業クラブ全国大会が中止となった。本校は、学校農業クラブ活動を学習活動の柱の一つに位置づけ、日頃からプロジェクト学習や鑑定・測量競技に取り組むとともに、全国大会参加を目指して活動している。

同大会は1950年から開催され中止は大会史上初めてであり、当時の江藤拓農相は閣議後会見で、「一生懸命勉強してきたことを発表する機会が失われたことは残念」と述べられた。後日、農業や地域のために主体的な学習である学校農業クラブ活動を継続し、農業や食に関わる仕事を志す農業高校生を励ますため、江藤農相から全ての同連盟加盟校に「激励状」が贈られた（写真1）。



写真1 江藤拓農相から送られた激励状

2 学校の概要

本校は、明治33年に創立され、今年で開校120年を迎える都立農業系専門高校の中で最も歴史と伝統のある学校である。全日制課程に園芸科学科3学級、食品科学科6学級、緑地環境科3学級の計12学級、定時制課程に農芸科4学級の合計16学級を設置している。

学校農業クラブ活動の根幹である地域連携活動として、都庁前広場や地元阿佐ヶ谷駅前の花壇作り、保育園児童との農業体験活動などを積極的に行っている。また、「環境教育実践宣言校」として、都市及び自然環境、食環境などの創造とゴミの減量・節電等に取り組んでいる。なお、都立高校唯一の馬術部を設置し馬術競技の練習に励んでいる。

3 長期休業・臨時休業中の教育活動の実施状況

臨時休業中の学習指導は、学習課題（教科・科目等の年間授業計画等を踏まえ、教科書及びそれと併用できる教材）の郵送、Classi（学習支援クラウドサービス）、学校ホームページ、YouTubeによる配信等により行った（図1）。その際、計画的に学習できるよう時間割を配布するとともに、家庭学習等における生徒からの質問や疑問に対応できるようにした。

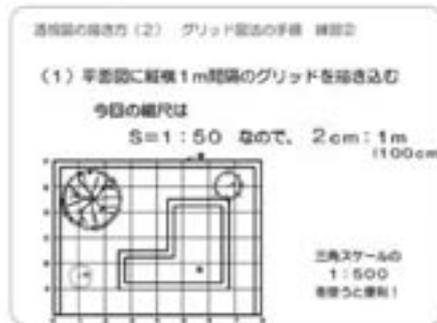


図1 YouTube 動画の画面

4 感染症対策を徹底した段階的な教育活動の実施状況

5月25日に東京都の緊急事態宣言は解除され、6月1日より、時差・分散登校を開始した。都のガイドラインのⅠ期（週1日2時間程度の登校、1週間）は、各学年を隔日で登校させた。午前の始業を10:00、午後の始業を13:30とし、ホームルーム、課題の回収を実施した。

Ⅱ期（週1～3日2.5時間の登校、2週間）は、1日の登校を3つの学年のうちの2つの学年とし、各学年ともクラスの生徒を午前、午後に振り分けて登校させた。午前の始業を9:50、午後の始業を13:25とし、課題の回収と解説を実施した。

Ⅲ期（週3～4日全日の登校、2週間）は、全学年ともクラスの半数の生徒を隔日で登校させた。始業を9:50、終業を15:15（40分授業）とした。現在は、始業を9:15、終業を15:10（45分授業）としている。

5 特色ある教育活動の取組

コロナ禍世代を作らないため、手洗い、教室の照明スイッチやドアノブ等共有部分の消毒、マスクの着用を含む咳エチケットなど通常の感染対策に加え3密対策を徹底し、コロナ禍以前の授業と同様な授業を目指している。

知識・技術の習得のため農業系高校において実習は欠かせない。食品科学科では密集を避けるため1テーブルの定員を2名とすることに加え、生活用のマスクと実習用のマスクを分けるなど、衛生にも注意を払い実習を実施している（写真2）。



写真2 1テーブルの定員を2名で実習を実施

農業系高校の特色の一つに地域連携活動がある。園芸科学科では、マスクおよびフェイスシールドの着用に加え、生徒に距離を確保して作業するよう注意喚起しながら都民広場の花壇植栽を実施した（写真3）。熱中症対策としてこまめな水分補給と休憩を心がけた。



写真3 マスクとフェイスシールドを着用しての花壇作成

農業系高校において学習成果の発表機会を設けることは学習の定着と生徒の成長に欠かせない。日本学校農業クラブ全国大会の中止を受け、関東ブロック大会も中止となったが、東京都連盟は、プロジェクト発表会をビデオ審査、意見発表会を書類審査、そしてフラワーアレンジメント競技会は画像審査で実施し、本校もそれらに参加した。

6 今後の課題

公立学校では、臨時休業中及び分散登校時に、これまでにない規模でICTを活用した教育が実施された。これは、新型コロナウイルス感染症対策による学びを止めないための緊急措置であり、現在においては、第3波への備えということになる。ICTを活用した教育はコロナ対応に留まらずSociety5.0の時代にも必須である。一人一台端末、高速通信環境などのハード面及び統合型学習支援クラウドサービス、教員の授業スキル、生徒・保護者の情報リテラシーの育成などのソフト面での対策が急務である。一方、産業教育の要ともいえる現場での技術指導も着実に進めていくため、コロナウイルスについての知識を深め、弛まぬ感染対策の徹底を続ける必要がある。



「感染拡大防止」・「生徒の学びの保障」を中心とした取組

東京都立田無工業高等学校 主幹教諭 田中 和夫

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症対策により、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等が令和2年3月2日から全国一斉の臨時休業になった。その後、4月7日に緊急事態宣言が発出され、5月25日に解除されるまで臨時休業は続いた。都立学校においては、臨時休業は5月31日までとなり、実質、学校が再開されたのは6月からであった。

かつて経験したことのない環境下で、感染症対策を講じながら、教育活動をどのように展開していくかが、全ての学校に求められた。

東京都立田無工業高等学校においても、様々な模索をしながら、「感染拡大防止」・「生徒の学びの保障」についての取組を、全校的に進めていくための方策を検討・実行してきた。本稿では具体的な取組内容について報告する。

2 学校の概要

東京都立田無工業高等学校は、昭和37(1962)年に創立され、令和4(2022)年には60周年を迎える工業高等学校である。東京都の多摩地区・西東京市に立地しており、各学年機械科2学級、建築科2学級、都市工学科1学級で構成されている。建築科は多摩地区の高等学校で唯一、都市工学科も独立した学科として都内で唯一である。「社会の有為な形成者として必要な資質を培い、実践力を身に付けた技術者を育成する」を教育目標に掲げる本校は、「モノ・イエ・マチで未来を創る！」をキャッチコピーに、地域に根ざした専門高校として、様々な教育活動を展開している。進路状況は例年、就職8割、進学2割となっている。

令和元年度から2年間、西部学校経営支援センター特別指定校に指定され、「ものづくり」を通じた障害者・高齢者への理解教育の推進に、3年生の「課題研究」を中心として、教科横断的に取り組んできた。「使う人の立場に立ったものづくり」の実践を、持続可能な取組につなげている。

3 臨時休業期間中の教育活動の実施状況

緊急事態宣言を受け、4月・5月は大半の教員が自宅勤務に切り替えたことから、都や国の通知および本校の対応について、全教員に随時メールを発信し、情報共有に努めながら、以下の取組を組織的に進めていった。

①臨時休業期間中の自粛要請、教務部・保健相談部による感染拡大防止策、登校時の健康管理体制の企画・立案。

②年間行事計画の再検討、動画も含めた家庭学習課題の作成要請・取りまとめ・配布。

③生徒・保護者への定期的な情報提供。

家庭学習課題については、春季休業期間中に教務部で取りまとめ、2、3年生は4月6日の始業式に配布した。新入生は、翌日の入学式が中止となり、そのまま臨時休業となったことから、4月8日に学年からの文書とともに家庭へ郵送した。

長期にわたる臨時休業の間、生徒の生活状況の把握や心のケアを行うため、担任が定期的に家庭へ電話連絡を行い、生徒本人と直接話すようにした。必要に応じて医療関係機関などと連携して対応を図る体制についても養護教諭と確認した。

緊急事態宣言の延長に伴い、5月11日以降も臨時休業の延長が決定されたため、再度教務部で

家庭学習課題を取りまとめ、全生徒の家庭へ郵送した。また、1日のスケジュールや1週間の見通しを提示するという観点から、時間割を同封した。臨時休業期間中の「学校からのお知らせ」は、全て学校ホームページ（HP）、公式 Twitter で行うこととした。見ることができない家庭は、学校へ連絡するように書面を同封したが、学校への連絡は1件もなかったため、何らかの方法で閲覧が可能であると判断した。

学校 HP、公式 Twitter では、生徒・保護者に対し、学校からのお知らせと家庭学習に役立つ各種情報を、定期的に発信した。

4 感染症対策を徹底した段階的な教育活動の実施状況

6月1日からの学校再開が示され、本校では5月最終週の5日間、学校の段階的再開に関する情報を、毎日公式 Twitter で発信した。

6月当初は、1日当たり1つの学年を午前と午後で半分に分けて登校させた。その後、クラスを出席番号の偶数・奇数で分け、登校日を週3日程度にする分散登校形式で授業を開始した。

6月29日以降は分散登校を終了し、40分×6時間を基本に、時差通学のみ実施している。

教育活動は、東京都教育委員会から示された「新型コロナウイルス感染症対策と学校運営に関するガイドライン」に則り、実施している。

具体的な取組は以下の通りとなっている。

生徒登校前：教室の消毒と、校舎内換気のため扉・窓を開ける作業を、複数の教員で実施する。

生徒登校時：昇降口で手指の消毒とサーモグラフィによる体温チェックを、分掌・科ごとに当番を割り振り、全教員で対応。生徒は登校前に家庭で検温と健康観察チェックを行い、健康観察表に記入し、担任がホームルームで確認する。

授業終了時：使用した教室の机・椅子・機器類等の消毒作業を、全教員で協力して実施する。

また、デジタルサイネージを活用し、3密の回避、正しい手洗い、咳エチケット、マスクの着用

等の指導・注意喚起を徹底している。

5 特色ある教育活動の取組

5月中旬以降、「生徒の学びの保障」への取組として、オンライン学習に向けた準備に着手した。

まずは各教科で作成した5～10分程度の学習動画を YouTube にアップし、学校 HP 内に作成した校内限定ページから視聴できるようにした。

6月からは、動画配信に加え、Microsoft Teams によるオンライン学習を開始し、分散登校で自宅学習日の生徒の学習活動を支援した。学習動画は、6月末までで約120本となった。

生徒は授業日数の不足を補うため、導入部分を事前に動画で視聴し、実際の授業に臨むという形式で、実習等の授業でも動画を積極的に活用した。なお、オンライン学習を行うにあたっては、情報モラルについても指導を行っている。

西部学校経営支援センター特別指定校としての取組においては、複数の特別支援学校・高齢者福祉施設と Zoom 等を活用したオンラインによる交流を複数回実施するなど、「新しい日常」に対応した教育活動を展開している。

6 今後の課題

全校生徒を対象として、4月・5月の臨時休業期間中および6月前半の分散登校期間中の学習活動に関する調査を、Microsoft Forms で実施した。

学校に求める支援としては、オンライン授業が最も多かった。学習動画については「すべて見た」「いくつか見た」が全体の約7割で、「すべて見た」生徒の約7割が、理解が深まったと回答した。引き続き、オンライン学習の充実を図っていく。

令和2年10月の時点で、東京都内の新規陽性者数は増加傾向にある。感染拡大防止に向け、感染症対策と注意喚起の徹底を継続していく。

最後に、新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束を、心より祈念する。



感染症対策を徹底して行った教育活動の工夫について

東京都立第三商業高等学校副校長 宮本 弘

1 はじめに

本校は、昭和3年1月に東京府立第三商業学校として創立、昭和18年に東京都立第三商業学校、昭和23年に現在の東京都立第三商業高等学校と改称され、今年度で創立93周年を迎えた伝統校です。校歌に「希望は燃ゆる若きわれら、日本の富を担うわれら」という通り、日々新たな伝統を積み重ねています。

2 学校の概要

本校は江東区越中島の豊洲運河に隣接しており、JR京葉線「越中島」駅から徒歩8分、東京メトロ東西線、都営大江戸線「門前仲町」駅から都バス5分、東京メトロ有楽町線「豊洲」駅から都バス8分と、交通の便に恵まれ、周辺には越中島小学校、深川第三中学校、東京海洋大学、芝浦工業大学があり、学園都市の様相を呈しています。

教育目標は①互いの人格を尊重し合うとともに基本的な生活習慣を身に付け、自他の個性の伸長に努めることができる豊かな人間性を持つ生徒を育成する。②日本の経済社会を担う経済人としてビジネスに関する優れた知識や技能を習得し、これからの国際社会で活躍する国際人として自ら行動できる教養と見識を持つ生徒を育成する。③地域産業の発展並びに文化の向上に貢献し、規範意識と良識ある都民としての自覚と責任をもつ生徒を育成する。④優れた伝統を継承し、社会の変化に即応しながら誠実な態度をもって常に積極的に前進する志と意欲を持つ生徒を育成する。であり、教育目標の実現に向け取り組んでいます。

3 長期休業中・臨時休業中の教育活動の実施の状況

新型コロナウイルス感染症により、本校でも今までに経験したことのない対応と取組を行ってまいりました。今年1月頃から本校周辺の状況を振り返ってみることにします。

まず、令和2年に入ってから新型コロナウイルス関連の情報が聞こえてきました。そして令和2年1月29日付「新型コロナウイルスに関連した肺炎にかかる職員の安全確保について（通知）」により令和2年2月20日付で本校として保護者向け文書を発出し、手指消毒・咳エチケット等による健康管理のお願いをいたしました。

次に令和2年2月21日付「都庁における新型コロナウイルス感染症対策に係る会議及び出張の抑制について（通知）」・令和2年2月26日付「新型コロナウイルス感染症にかかるサービス上の取扱いについて（通知）」・令和2年2月26日付「新型コロナウイルス感染症に関する学校における対応について（通知）」・令和2年2月28日付「新型コロナウイルス感染症対策本部の要請に基づく都立学校の対応について（通知）」等を受け、本校としても令和2年3月2日から春季休業日までの臨時休校といたしました。この期間生徒達は自宅学習としました。新入生については、3月24日に密を避けた教室にて実施しました。ここで本校の説明と教科書を自宅に発送するための手配をすることができ、PTAの役員選出準備も行いました。これらにより4月からの学校活動に備えることができました。そして春季休業、次年度に向け準備を行いました。

令和2年4月1日付「都立学校の休業の措置等について（通知）」を受け、春季休業日の翌日から5月6日（水）までの臨時休業となり、現時点で4月7日に入学式を予定していましたが、保

護者の参列について変更が生じたため保護者向け文書を発出し、周知と同時にホームページにも掲載しました。

令和2年4月6日付「新型コロナウイルス感染症対策における「緊急事態宣言」の検討に伴う都立学校の対応について（通知）」を受けて、入学式を延期することにし、すぐに新入生、保護者等に連絡をすると同時にホームページに掲載いたしました。

令和2年4月10日付「新型コロナウイルス感染症対策における「緊急事態宣言」に伴う都立学校の対応について（通知）」により生徒の学習について検討し、各教科にて課題作成の依頼をしました。新入生はクラッシーがまだ行き届いていなかったため、担任団が電話にて分担して連絡をしたのですが、回線が3つしかなく、全員に連絡をとるのに時間を要しました。しかし新入生説明会にて教科書の配付が済んでいたため、各教科からの課題については大きな混乱もなく作成できました。

そして郵送する際の梱包等は、教職員が団結して対応したので、新入生全員分の課題配布が半日程度でできました。2、3学年につきましては、クラッシーを駆使して、各教科の課題を担任団が集約して配信しました。

令和2年4月23日付「5月7、8日の都立学校の対応について（通知）」を受けて、前述の電話による生徒連絡手段を見直し、これまでの間に本校でもツイッターを開設し、情報の発信手段をホームページ、ツイッター、クラッシーの3つの方法にまとめ、5月7、8日に生徒を登校させない日という内容と共に、保護者向け文書を出し周知しました。これにより、新入生の担任団が電話を使用して情報を発信せずに済み、問い合わせの対応のみとすることができました。

令和2年5月5日付「新型コロナウイルス感染症対策における「緊急事態宣言」の延長に伴う都立学校の対応について（通知）」を受けて、臨時休業が5月31日までとなりました。

新年度からは約2か月教職員が自宅勤務を行っている中、動画配信のためのアカウントを申請し、オンライン学習のための準備をしました。

4 感染症対策を徹底した段階的な教育活動の実施状況

令和2年5月25日付「新型コロナウイルス感染症対策における「緊急事態宣言」の解除に伴う都立学校の対応について（通知）」により6月1日から段階的に再開となりました。

令和2年5月28日付「新型コロナウイルス感染症対策と学校運営に関するガイドライン（都立学校）～学校の「新しい日常」の定着に向けて～」の策定について（通知）」により、6月から「新しい日常」が始まりました。

まず分散登校により週3日、クラスを2分割して午前と午後で30分3時間授業による時差通学としました。次段階は10日間で5日登校、クラス2分割による40分6時間授業、時差通学としました。そして6月29日からは一斉登校、時差通学、40分6時間授業とし、現在は45分授業での時差通学を行っています。登校前の検温と校内入口のサーモグラフィーの設置、校内でもマスク着用、手指消毒のためのアルコールを各教室に配置、ソーシャルディスタンスの指導、教室使用後の消毒や教室内のゴミ箱を撤去し、廊下に1セット配置する等、感染症対策を校内あげて徹底して行っています。

5 特色ある教育活動の取組

本校の特色ある教育活動として、「地域連携リーディング校」事業としての取組があります。これは地域と学校が連携・協働して地域づくりに貢献する活動です。また商業コンソーシアム東京と連携してビジネスに関する授業を展開しています。

6 今後の課題

新型コロナウイルス感染症対策を徹底して教育活動を実施していく関係上、少ない回数で授業の効果を高めるため、今後はICT機器の活用を推進していく体制作りをしていきます。



介護福祉士養成校として専門的な知識・技能習得に向けた新たな取り組み

東京都立野津田高等学校 教諭 村木 要

1 はじめに

全世界的に起こっている新型コロナウイルス感染症は社会経済のみならず、教育現場においても多大なる影響を与えている。これまで行われてきた教員と生徒の対面式の教育方法や、アクティブラーニング等における主体的・対話的で深い学びにおいても、感染症の予防の観点から取り組み方法を考えていく必要性が求められている。

しかし、こうした状況下でも ICT 教育の活用の面においては、パソコンやタブレットの有用性が再確認され、学校や生徒へ配置の整備が進んできている。近年、新しい社会様式が模索されているが、教育現場においても生徒へのより良い学びを考え、邁進していく必要がある。こうした状況下だからこそ教育現場でも協働し、新しい教育現場を構築していく必要がある。

2 学校の概要

東京都立野津田高等学校は、平成8年、既存の普通科に加え、「健康スポーツコース」「看護福祉コース」を設置した。

その後、「看護福祉コース」は、平成10年に東京都ホームヘルパー養成講習事業要綱及び東京都ホームヘルパー養成講習指定要綱に基づく講習の指定を受け、ホームヘルパー3級取得の講座を開講し、平成12年度からは、ホームヘルパー2級の資格を取得できる講座を開講した。

そして、平成18年度、「看護福祉コース」を「福祉科」とし、「介護福祉士養成課程」の設置に至っている。設置当初の福祉科は、専門科目34単位、1190時間であったが、現在は「医療的ケア」の基本研修の修了が、資格取得の必須要件になったことに伴い、専門科目54単位、1890時間の授業

を行っている。

介護福祉士養成課程設置の構想から、卒業生の8割以上に資格を取得させることができるようになるまでに20年以上の歳月を要してきた。地域産業振興のため、本校では一人でも多くの生徒の資格取得と、質の高い介護福祉士の養成を目指している。

3 長期休業中・臨時休業中の教育活動の実施状況

介護福祉士の受験資格取得の認定は厚生労働省が管轄している。臨時休業中は授業を課題に置き換えることが認められたため、本来の授業時間に実施する内容を書き込み式の課題として作成し、生徒に提供した。必要なテキストなどの参考資料はオンライン上で閲覧できるようにしたため、課題の提出率は100%であった。

1年生で履修する「介護福祉基礎」という科目における課題は、インターネット上の動画サイトから自身が興味ある「福祉」「介護」に関する動画を閲覧し、その内容や感想を書くこととした。しかし、1年生との面識がほとんど無かったため、生徒の状況や実態が把握できず、どのような課題内容であれば取り組めるか手探り状態であった。本校生徒の多くはスマートフォンを携帯しており、その中で特に動画サイトの閲覧率が高いことは把握していたが、その携帯率や閲覧率については100%ではないため、実施できなかった生徒については、後日学校のパソコンを使用し、取り組めるような配慮を行った結果、全員の生徒が閲覧出来、感想を書くことができた。

4 感染症対策を徹底した段階的な教育活動の実施状況

介護福祉士としての必要な能力に、「利用者に対する会話を通し、考えや思いを引き出すためのコミュニケーション能力」と、「様々な疾患による生活上の困難さを支援するための介護技術」がある。コミュニケーション能力については、グループディスカッションが大切であるが、飛沫による感染を考え、実施を制限する必要があった。

当初はクリアボードの設置を考えたが、設置準備期間と費用とを合わせて考えると、設置は厳しい状況にあった。生徒に対しては、この機会を活かしてグループディスカッションにおける感染リスクや、介護職として利用者への感染対策についての理解を促し、日常的なマスク着用の必要性や重要性に気づかせることができた。また、介護技術については、ベッドからの起き上がりや移乗・移動の指導を実施したが、生徒同士による直接的な接触や車いすなどの物品を共有するため、当初は介助用モデル人形での実施を検討した。しかし、一体当たりの費用が高額であったため断念せざるを得ず、実施時期を遅らせる対応をした。

授業においては、消毒の徹底を通し、感染症のリスクを軽減させることを常に意識させた。生徒自身に物品の消毒をさせることで、積極的に身の回りの消毒を実践することの大切さを身につけさせることができた。また、換気を徹底することで、同様に生徒の自発性を促すことができた。

新型コロナウイルス感染症対策としてとられているマスクの着用や消毒、換気などについては、介護福祉士として絶対に持つべき必須の意識であるため、それを授業に取り込みながら予防を実践していくことによって、生徒や家族に感染症の発症はみられていない。

5 特色ある教育活動の取組

介護福祉士養成校の教育課程には「介護実習」という科目がある。

内容としては、高齢者・障害者施設で行う実践を通して、介護技術・知識の習得を目的としたものである。しかし、感染防止のため家族などの面

会を中止している施設が多く、実習の実施については状況を見守っていた。厚生労働省からは校内で行う実習で代替可能と指導された。しかし、施設という「現場」で学ぶ内容は、校内に比べるとはるかに量と質が異なるため、施設と協議を重ね、施設実習2週間前からの検温と、外食や接客などの密な環境を避けることで受け入れが可能となった。これは、実習中の巡回を行う我々福祉科教員にも同様の条件が与えられている。生徒にとっては厳しい条件だが、高齢者の方々の安全を第一とすることを説明し、生徒も十分に納得し、施設実習を実施することが出来た。

終了後、校内で行った報告会では、生徒から様々な感想が報告され、実りのある「介護実習」を行うことが出来た。



「報告会の様子」

6 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の終息についてはまだまだ先が見えず、対策は継続していく必要がある。しかし、産業教育としての質を落としてよいわけではない。地域社会産業を支える人材育成の使命を担う私たち教員は、生徒の学びを保障する必要がある。介護福祉士を養成するに当たって、感染症対策それ自体を教育に活かすことも可能である。そのためには、介護福祉士として援助を必要とする高齢の利用者のことを常に意識することで、何が大切かをしっかり見極める力をつけさせなければならない。

学校は、常に変化する社会状況を把握し、教員同士の情報共有を行うことで、種々の状況に合った対策を講じることができるようである。日頃よりしっかり連携を図ることが、今後の対策につながると思われる。



新型コロナウイルス感染症防止期間の教育活動

東京都立晴海総合高等学校長 玉川 弘文

1 はじめに

5GやAIなど新しい技術が開発され、日常生活や学校教育に変革をもたらしている。デジタルへの転換は、世界の大きな流れであり、その動きはコロナ禍が拍車をかけた。テレワークを行い、無駄な会議時間を減らし、出張回数の削減と、働き方改革の後押しにもなり、人と時間の資源の有効活用で教育活動の向上が加速化している。

コロナ禍を生き抜くために、令和2年度10月末までに、晴海総合が実践した教育活動を、本校の概要、長期休業中・臨時休業中の教育活動の実施状況（4月1日以降、教育活動が再開されるまでの取組）、感染症対策を徹底した段階的な教育活動の実施状況（教育活動をどのように再開してきたか）、特色ある教育活動の取組、（オンライン学習や実験・実習の工夫など）今後の課題（新型コロナウイルス感染症の第2波以降に備えた教育活動等）の順に記す。未来において、想像がつかないことが起きた時の一助となればと思い記録に残すこととする。

2 学校の概要

本校は、平成8年4月東京都で初めての総合高等学校として誕生し、本年、創立25年目を迎えた。総合学科高校が低迷している中、開校以来、都立総合学科高校のパイロットスクールの役目を果たすため、「ルネサンス晴海」を合言葉に、教職員が一体となり、特色ある学校づくりに邁進している。本校は、「自立心や主体性を培い、自己責任能力を育てる」「感性を磨き、創造力・思考力・表現力を育てる」「コミュニケーション能力を高め、共に生きる姿勢を育てる」を教育目標とし

て、人間尊重の精神を基盤に社会的変化に主体的に対応できる、個性的で創造性や国際性に富む感性豊かな人間を育成している。また、Society5.0とSDGsの達成に向けた教育活動を進めている。2学期制で学年を年次と言い、1学年7クラス計21クラス、6つの系列、約130講座を開講している。

3 長期休業中・臨時休業中の教育活動の実施状況（臨時休業中の学習のフォローについて）

令和2年度4月6日の前期始業式は、2・3年次、時差登校で実施した。午後は7日入学式の準備だったが、教育委員会からの入学式延期連絡が入り、1年次担任が、電話及びHPで対応した。また、全年次の生徒・保護者に、4月8日から5月6日までの臨時休業のお知らせの通知文を発送した。想像のつかないことを想像しなければならない年度のはじまりであった。

臨時休業中の動画配信、課題配信、HPを活用した連絡等の事例を紹介する。

(1) 自習課題を全講座で2回以上課す

①月ごとに最低1回ずつ、全講座で課題を課した。
②課題一覧を本校Webページ、Classi（学習クラウドサービス）、紙での郵送で周知し、前期の中間考査は中止とした。家庭学習の成果を評価に入れることとした。講座によっては、Classiで課題を提出させ、添削等のやり取りを行う。小テスト機能があるので、活用した講座もあった。

クラス担任は学習記録の機能を活用し、心のケアを行うとともに、課題の質問を教科担任とやり取りしながらコミュニケーションを図った。

(2) YouTube（晴海チャンネル）の開設

約 230 講座を作成し、反転学習、授業、自習課題の解説、振り返りに活用した。

長期休業中は、3 年次のみが進学や就職対策の遅れを取り戻す補講と補習を 2 週間行った。

4 感染症対策を徹底した段階的な教育活動の実施状況

5 月 7 日付「新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業延長」の通知により、5 月 31 日まで臨時休業の延長にはなったが、緊急事態宣言解除後の学校再開への準備は進めていた。学校再開は、4 段階設定し、各年次の登校と下校の出入口が同じにならないようにした。時間差による登校も行った。教室の十分な換気のため、扇風機 30 台を購入した。

(1) 第 1 段階（全校生徒の 1/6 目安）

5 月 29 日・6 月 1 日は、各年次が奇数・偶数番号別に登校し、LHR のみ 2 時間とした。1 年次は約 2 か月、在校生は約 3 か月のブランクがあることから、生徒の心身の健康状態の把握と登校に順応する日とした。

(2) 第 2 段階（全校生徒の 1/3 目安）

6 月 2 日～6 月 12 日は、1 年次と 2・3 年次との登校日は同じ日にしないこととした。また、1 年次と 2・3 年次、奇数・偶数番号別登校、30 分 3 時間授業とした。1 年次は奇数が 10 時・偶数が 13 時開始、2 年次奇数は 10 時・偶数は 14 時開始、3 年次奇数は 11 時・偶数は 13 時開始とした。

(3) 第 3 段階（全校生徒の 1/2 目安）

6 月 15 日～6 月 26 日は、全年次が奇数・偶数番号別登校、40 分 6 時間授業、10 時登校 16 時完全下校とした。

(4) 第 4 段階（地下鉄の通勤時間のピーク時間を調査し、学習指導・進路指導・部活動等の特別活動の遅れを取り戻す）

6 月 29 日からは、全校生徒登校 8 時 30 分始業、16 時 30 分完全下校とした。

12 月末までの学校行事は、延期又は中止とした。

5 特色ある教育活動の取組

(1) 学習活動・進路指導・部活動・諸連絡

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、通常の授業を行うことが困難となり、YouTube や Zoom 等のオンラインを活用した。

体育は、ソーシャルディスタンスで整列、エアタッチなど接触しない授業を行っている。

(2) 職員間の会議・P T A 総会

skype や Zoom での教員間の会議や P T A 総会・月 1 回の役員会を行い、業務が止まることがないようにした。はじめてのことで、マニュアルもなく、操作方法をお互い教え合いながら行うことで、不安を解消しながら、人間関係を築いた。

(3) 広報活動：受検生と保護者への学校紹介

高校入試を控えている受検生や保護者に、学校紹介の方法を検討した。5 月からは YouTube による学校紹介をホームページ等に U P、学校見学会や学校説明会は、完全予約制でスタートした。

6 今後の課題

(1) 全教員が、当事者意識をもって行動

教育委員会では、Society5.0 に向けて、「TOKYO スマート・スクール・プロジェクト（学び方・教え方・働き方の三大改革）」を推進しており、令和 2 年 11 月から統合型学習支援サービス（Microsoft Office 365）の本格運用を開始する。オンライン学習は一部の教員に負担をかけ進めている現状があり、「ムダ、ムリ、ムラ」の「ムラ」が働き方改革に影響している。

(2) 動画や課題の配信型授業の長短を共有

学校での授業は、双方向で行い、同年齢間の「コミュニケーションの取り方」を学ぶ。また、喜怒哀楽にあふれた日常の出来事から、思いやりや優しさ、痛みや温もりなど「心の教育」を行う。しかし、配信型授業は一方通行の学習であり危惧する点がある。

様々な課題の解決は、一言でいえば、全教員が「研修に参加しスキルアップの時間を確保すること」可言えよう。



コロナとの共存と実業高校としての新たな取り組み

東京実業高等学校副校長 小畑 雅一

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症は本校にも様々な影響をもたらしました。3月3日に実施した卒業式への保護者参列は、最後の最後まで検討を重ねました。そして苦渋の決断として生徒のみ、各教室での放送による卒業式となってしまいました。ただ、卒業生たちは母校を巣立つ悲しみと希望の思いを直接教職員や同級生と交わすことが出来、変則的ではありましたが充実した卒業式になったと思います。また、4月7日に実施を予定していた令和2年度入学式も、準備万端整え、後は新入生を迎えるだけという前日の夕方、都立高校などでの入学式中止の連絡を受け、本校でも急遽中止を決定し、新入生並びに保護者へお詫びと共に連絡を入れました。それからは5月末まで約2か月の臨時休業。いつもとは違う非日常の学校が始まることとなりました。

2 本校の概要

本校は明治の三大数学者の一人と言われる上野清先生が創立した東京数学院（現在の東京高等学校）の兄弟校として、1911（大正11）年に創立された実業高校です。実学を学ぶ男女共学の学校として現在は工業系の機械科と電気科（電気コース・ゲームITコース）、そして普通科（文理コース・ビジネスコース）の3科4コースを有する総合学園として889名の生徒が学んでいます。学校の校訓は「不撓不屈」と「親和誠実」。特に「不撓不屈」の精神を大切にして、意志が強く心がくじけたりひるんだりせず、踏まれたり、摘まれたりしても負けずに生きる雑草のごとく強い人間を育て、社会に出ても役に立つ人材を送り出す教育を建学の信条にしています。

また、本校ではキャリア教育に力を入れており、教育の柱として、「社会力の育成」、「統率力の育成」、「実践力の育成」、「人間力の育成」、そして「国際力の育成」を大切にしており、キャリア教育全般の活動が評価され、平成29年1月にはキャリア教育推進校として文部科学大臣表彰を受賞しました。また本校では、1963年よりアメリカ合衆国コロラド州のボルダー高校と姉妹校契約を結び、1967年より交換留学を行っています。さらに1978年からは、ボルダー教育委員会に所属する6つの州立高校が参加。交換留学生は、それぞれの学校で授業に参加するほか、約6週間のホームステイを通じて、言語・文化・生活習慣を体験します。

3 臨時休校期間中のこと

臨時休校中の約2か月は各教科担当が課題を作成し、返信用のレターパックを同封した上で計4回にわたり課題を生徒の自宅へ郵送しました。と同時に、電話での連絡とは別に、少しでも生徒とコンタクトを取るため、Zoomを使ったホームルームをクラス単位で行いました。また、各教科担当者が工夫し、15分程度の講義映像を作成しYouTubeで配信したりと、手探りではありますが様々な工夫によりオンラインによる学習のサポートを行っていきました。学校再開の見通しの立たない臨時休業の2か月はとても長く感じました。しかし、幸い6月からは学校再開となり、6月1日には在校生はオリエンテーションを、新入生は入学ガイダンスを実施し、翌6月2日には新入生と教職員だけによる入学式を「密」を避けるために2回に分けて実施。これでやっと令和2年度の学校がスタートしました。

4 分散登校から一斉登校、短縮授業から平常授業へ

令和2年度がスタートしたといっても、通常の学校生活はまだ先の話で、まずはクラスを2班に分け、なおかつ通勤ラッシュの時間を避けた「時差、分散登校・短縮授業」から始まりました。生徒たちは午前または午後、35分授業を3時間ほど受け、部活動なども行わず速やかに下校。これが約2週間続きました。その後は「時差、一斉登校・短縮授業」に移行し、これも通勤ラッシュを避け10時前に登校し、昼食をはさんで15時には全員下校。この時点でも部活動はまだ実施出来ませんでした。先生方は登校時に生徒の体温チェックと手指の消毒を行い、放課後には教室の机や椅子をはじめ、ドアノブなどの共用部分の清掃消毒も行っていました。結局6月一杯はこの変則授業が続き、7月1日にやっと平常授業を実施することが出来ました。また、従来約6週間の夏期休暇はお盆期間を挟んだ2週間に短縮され、クラブなどの合宿も一切禁止となり、生徒たちにとっては物足りない夏休みになってしまったと思います。

5 各科における取り組み

機械科では「ものづくりを通して、先端分野でも即戦力となる知識と技能を養成する」を目標に専門教科・実習に取り組んでいます。実習においては、入室時の手指の消毒とマスク及びフェイスシールドの着用、机の間隔を開ける、レバー・ハンドル・スイッチ等の使用後の消毒、換気にも留意し、退出時に手指の消毒を行い、「感染しない、させない」を徹底して予防しながらモノを構想しカタチにする喜びを学んでいます。

電気科では多くの資格取得を目指し、資格合格に向けた講習会を電気科教員全員で長期間（約半年）に渡り取り組むことで、多くの合格者を輩出し、生徒に学習の自信を持たせる教育を実践しています。そして全国工業高等学校長協会のジュニアマイスターにおいても、毎年多くの生徒がゴールド、シルバー、ブロンズの称号を授与されています。感染予防への取り組みとしては、全員にフェイスシールドを配布し、必要に応じて着用させるとともに、実習室入口でのアルコール消毒、部屋

の換気の徹底などを行ってきました。コロナ感染拡大の第二波に備えた課題としては、電気工事、電気工作など、生徒の自宅ではできない実習科目を除き、生徒のオンライン環境などに配慮しながらオンライン授業の展開を計画しています。

普通科、特にビジネスコースでは、各自のキャリアにつながる選択科目を用意し、学習理解や専門知識の習得を徹底サポート。また、簿記や会計だけでなく、ビジネスマナー、情報処理、マーケティング、プレゼン能力など実社会で通用する知識・技術を習得し、多様な実践力を養成しています。そして、Macパソコンを導入し、情報の編集、加工などの能力の幅を広げています。ただし、コロナ禍においてはパソコンのキーボードやタブレットの消毒など、普段行っていないワークも様々発生しましたが、教員と生徒が協力して、感染の防止に努めています。

6 まとめとして

今回のコロナ禍は、本校にとっても全く予想できない事態で、教職員は臨時休業期間とその前後において、国や地方自治体からの指示に右往左往しながら「学校として生徒に対して出来ることは何か」を常に考えながら対応に当たってきました。生徒たちにとっては登校できなかった約2か月は、不安と焦燥の日々であったと思います。特に新入生は4月以降も一度も登校することなく、この間自宅での生活と学習を強いられました。また顔も合わせたことのない新担任は、様々な工夫をして新入生とコンタクトを取り、家庭での様子や学習の進展などを確認していきました。6月1日の新入生ガイダンス当日、高校の制服を着て初めて登校する新入生には緊張の中にも笑顔が見られましたが、教職員も初めて見る新入生の制服姿にホッと胸をなでおろしました。

今振り返ってみると、臨時休業中に学校としての対応に反省すべき点もたくさんあります。それらを総括しながら、普通教科だけでなく、たくさんの専門教科の実習を含む実学を教える高校として、今後来るであろう第二波、第三波に備えて「生徒のために何をどのようにすればよいのか」の検討と準備を進めていきます。



新型コロナウイルス感染防止期間中の教育活動

安部学院高等学校長 安部 元彦

1 はじめに

令和2年(2020年)2月から、国内で新型コロナウイルスが発見・拡大する中で、本校が取り組んだ活動を紹介させていただきます。

2 学校の概要

昭和15年(1940年)に安部元章により創立され、今年度は創立満80年を迎えました。

創立以来、一貫して「商業科のみの女子高校」として歩んで参りました。

卒業の進路としては、以前は就職が95%も占め、進学する生徒は殆どいませんでしたが、ここ20年ほどは逆転して、専門学校を中心に進学をする生徒が多くなっています。

勉強の成績も大切ですが、将来、社会人となった時に大事で必要とされる「挨拶」の指導を重視しています。

また、商業科の学校ということで、様々な検定試験の取得も重視しています。

3 臨時休校期間中の活動

昨年度末の3月のことでは、3年生の卒業式の日時を変更したり、保護者・御家族の参列を中止し、2・1年生の登校日を減らすこととしました。

4・5月の2ヶ月間は臨時休校の措置を採ることとなり、在校生は自宅待機の状態が続き、各教科担当教員が課題・プリントを作り、3回にわたって課題を生徒宛てに郵送し、同封したレターパックにより生徒は課題を提出しました。

その際、各クラスで設定された時間割も添えて、時間割通りに学習し、規則正しい生活を送る意識付けも行ないました。

他には、学年毎に曜日を分けて、すべての生徒の家へ電話をかけ、生徒や保護者の方と話をし、家庭での様子などを確認しました。

生徒・保護者の方への連絡としては、フェア・キャスト(一斉配信連絡網)やホームページも併せて利用しました。

4 段階的な教育活動

6月1日(月)から学校が再開し、感染対策として学年毎に時差を設けて、「在校生の始業式」「新入生の入学式」「オリエンテーション」を日毎に行ないました。

その後の2週間ほどは、曜日によって登校する学年を分ける「分散登校」の形態を採りながら授業を始めました。

授業は当初から時間割通りに行い、昼食・昼休みも入れました。

昼食時の生徒の机は、授業時と同じ並び方のままとし、私語もしないように監督するため、クラス担任教諭が教室へ行きました。

6月22日(月)からは、「全学年の一斉登校」に切り替えました。

生徒の登下校は、朝夕の公共交通機関のラッシュアワーを避けるような時間帯を設定し、最終下校時刻も17:00としました。

毎日の登校に際しては、学年毎に分けて設営したテントで、1人1人の検温を行ない、予め配付した「健康観察シート」の記載事項を確認した上で、入室を



させます。

発熱や体調不良が見られる生徒は、下校措置も採ります。

アルコール消毒液は昇降口・廊下・各教室の前…等に設置し、生徒が下校する際には自分の机・椅子を消毒し、教室以外の消毒は教職員が分担して行なっています。

生徒・教職員にはフェイスシールドを配付し、英語の授業で発音の練習をするなど、発声する場面で使用します。

5 授業・行事等の取り組み

検定試験は、学校が再開した6月から申込・受験したものの、当初は希望制で行ないながら、当該学年の生徒が受験するようにしました。

ただし、年度初めの2ヶ月が休校となったことの影響は大きいものがあります。

行事の変更や見送りの相次ぎ、前年度末の3月に予定していた修学旅行を始め、新年が始まって以降の球技大会や移動教室などが変更や見送りとなりました。

例年と違い、1学期の終業式、2学期の始業式、夏期休暇の時期も変更することとし、夏期休暇は1学期の終業式の前に設けたり、8月5日(水)～18日(火)の2週間程度の短期間となりました。

夏期休暇

明けには、生徒同士の飛沫防止として、普通教室の各生徒の机や特別教室の机に段ボールとPETを組み合わせた衝立型のシールドを設置しました。



8・10・11・12月の中学3年生や保護者の方を



対象とした学校説明会は、基本的には「来校型・対面型」としましたが、感染拡大によって実施が難しくなった場合を想定して、zoomを使っての説明会の方法も準備しました。

10月中旬からは、マイクロソフト社の「Teams」を導入して、生徒のスマートフォンから必要事項を回答する方法により、毎日の健康観察を始めました。

6 まとめ

1年前の同時期には想像も出来なかったことが、令和2年から起こってしまい、今でも対応に苦慮しています。

幸いにも、12月24日(木)に第2学期の終業式を行なった時点でも、在校生・教職員に感染者は1人も出ていません。

これは、感染防止への在校1人1人の意識だけでなく、毎日の健康観察に御協力くださった保護者の方の存在が大きかったと感じています。

今後の感染拡大状況は不明ですが、この良い流れが続くことを願っています。

教育活動という面では、「オンラインでの教育活動」という面では遅れており、速やかに取り組んでいかねばならないと考えています。

他方で、パソコンや電卓を使った授業では、「実技」という一面もあり、「対面式の授業」と「オンライン式での授業」のどちらかに偏るというのではなく、双方のバランスを取ることも大事と考えています。



新型コロナウイルス感染症に対応した 学校再開までの道程とこれから

—目黒区立中学校技術・家庭科の取組—

目黒区立第十一中学校長 田井 俊行

1 はじめに

秋から冬を迎えようとしている現在、新型コロナウイルス感染症罹患者が再び各地で激増し、第3波の様相を呈している。学校では、感染防止に引き続き努めるとともに、生徒や職員が感染した場合への備えを試行錯誤しているところである。

2 学校の概要

本校は、目黒区の南西に位置し、大田区と世田谷区に隣接している。西に自由が丘、南に東京工業大学を擁すが、大部分は閑静な住宅街である。各学年2学級、生徒数199名の小規模校である。

3 長期休業中・臨時休業中の教育活動の実施状況

(1) 臨時休業中の経過

新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、休業期間中の対応は刻々と変化した。学校再開までの間、本区では8回校長会が行われ方針等が示された。以下に、時系列で休業中の経過を示す。

4月1日時点では、4月6日から学校再開の予定であった。しかし、翌4月2日には、5月6日まで臨時休業、4月6日に始業式、4月7日に入学式、4月8日以降は毎日1学年ずつ登校日を実施するよう変更になった。

4月6日、始業式実施、入学式は5月8日に延期、4月7日は入学手続き及び教科書等配布のみ実施、また、4月10日までの登校日中止を決定

4月7日、7都府県に緊急事態宣言、臨時休業期間中の登校日を5月6日まで全て中止に変更

4月8日、学校Webサイトで、教員の作成した家庭学習課題を配布開始

4月13日、家庭向け一斉メールのアンケート機

能を活用した健康調査実施、以降毎週月曜日実施

4月16日、緊急事態宣言の対象が全国に拡大

4月21日、各家庭のICT環境調査開始

4月23日、区教委が学習サポートサイト開設

4月28日、臨時休業を5月10日まで延長、5月8日としていた入学式を5月12日に延期

5月4日、緊急事態宣言を5月31日まで延長

5月8日、臨時休業を5月31日まで延長、体育館で職員会議、5月12日としていた入学式を当面の間再延期、ICT機器貸出申込開始

5月11日、健康状況の確認等を個別に短時間で行う「連絡日」を週1回設定、昇降口で実施

5月18日、「連絡日」を教室にて実施

5月22日、区教委が6月1日以降段階的に教育活動再開、6月2日に入学式、6月19日から通常授業実施を発表

5月25日、緊急事態宣言解除、「連絡日」実施

5月29日、「3年分散登校」を試験的に実施

(2) 区内各校の臨時休業中の家庭学習課題の工夫

家庭ごとにICT環境が異なり、直ちにオンライン学習を行うのは困難だったため、大部分が登校日に課題を渡す方式であった。以下に、休業中の課題で特色あるものを紹介する。

「マスク・フェイスシールドの製作」



家庭にある材料を使ったマスク・フェイスシールド製作と、市販品との比較についてレポートを

課した。製作に当たり、参考 Web サイトを例示し取り組みやすくするとともに、自分なりに工夫させた。本題材は、材料の入手が容易なことや、作成後は実際に使用できるなどの利点がある。

「ステイホームだからできる課題」

ステイホームだからこそできる課題を設定した。第3学年幼児の生活では、「自分の幼かった頃調査」として、家族等に協力を得ることもできる内容にした。第2学年の食生活「家族のためのごはん作り」第1学年で学んだ栄養バランスのよい食事作りをもとに、週1回家族のために食事を作り、レポートにまとめさせた。

4 対策を徹底した段階的な教育活動の実施状況

5月22日、6月1日以降の教育活動について、段階的に再開することを区教委が発表した。内容は、6月1日から6月8日までの第1段階は、1学級を2グループに分け、4時間授業で3日に1回登校の「分散授業日」、6月9日から6月12日までの第2段階は、サイクルを短縮し2日に1回登校の「分散授業日」、6月15日から6月18日までの第3段階は、毎日登校の「午前授業」、6月19日以降の第4段階は通常どおり、というものであった。再開スケジュールは変更されることなく、6月2日には入学式を挙行、6月23日には部活動も再開した。その後、現在に至るまで日常の配慮として、高使用頻度箇所の毎日の消毒、分散給食等を継続している。

5 特色ある教育活動の取組

「フェイスシールドの着用」



臨時休業中の課題で作成したフェイスシールドを、再開後の学校の授業で着用させた。

「飛沫感染防止用アクリル板の設置」



互いに一定の距離を保つのに困難な実習室では、飛沫感染防止用アクリル板を設置した。

「その他技術室における感染症対策の工夫」

工具や細かい部品の準備等に個別の皿や碗などを使用し、貸し借りによる接触や密になる場面を避ける。片付けの時間短縮にもなった。



6 今後の課題等

課題としては、「再度休校となった場合、確実に授業時数が不足」、「技術分野では、製作中休校になった場合、必要な工具が家庭にないことが多く、製作が困難」、「家庭分野では、授業再開後も感染リスクから調理実習が未実施」等があげられる。

他方、今回の対応を通じて、授業時数確保のための工夫や精選が大きく進んだことや、急加速したGIGAスクール構想によるICT環境整備により、例えば実習に必要な技能の要点を映像コンテンツで予習し、学校では実習時間を最大限確保する反転授業等、新たな授業スタイルの実現が期待できる。

いずれにせよ、相反する要求の折り合いを付け最適な解決策を考えることが技術分野ならではの学びとすれば、「コロナ」とどう折り合いを付けていくか迫られている、まさに今が実生活において「技術の見方・考え方」を最大限働かせる機会であるともいえる。



「新しい日常」への挑戦 ～ICTパイロット校の成果を基に～

東京都立三鷹中等教育学校 統括校長 藤野 泰郎

1 はじめに

令和2年3月以降、新型コロナウイルス感染症対策を講じるために、本校において取り組んだ安心で安全な学習活動及び特別活動等について紹介する。

2 学校の概要

本校は、創立11年目を迎えた都立中等教育学校である。6年間の中高一貫教育を通して、他者を思いやることのできる豊かな心を持ち、「胸は祖国に置き、眼は世界に注ぐ」の精神の下、国際社会で日本の良さを語り、人間性豊かな社会を構築する「思いやり・人間愛を持った社会的リーダー」の育成を図っている。

平成28年度から4年間、都教育委員会から「ICTパイロット校」の指定を受け、全ての生徒と教員にタブレットパソコンを貸与し、授業や家庭学習だけでなく、学習発表会などの学校行事や生徒会活動などの特別活動で活用している。

3 長期休業中・臨時休業中の教育活動の実施状況

本校は、臨時休業期間となった令和2年3月から全ての生徒に対して、Classiやスタディサプリ等の学習支援ソフトを活用し、各教科の課題等を提示することで、自宅学習に取り組むよう指導した。



オンラインによるホームルームの様子

令和2年3月からSkype等の遠隔会議システムを活用し、担任と副担任の協働による学級活動及びホームルーム活動を実践した。週3日の実施から徐々に週当たりの日数を増やした。生徒と教員が顔を見合わせて話をするすることで、生徒の表情や発言から健康状況等を把握し、生活指導や学習指導を充実させた。また、自宅にいる保護者に対しても学校や教員の様子等を知ってもらう良い機会となった。

4月中旬から教員も自宅勤務となり、教員は自宅から生徒の端末にアクセスした。繋がらない生徒には電話で状況を確認するなど徹底した。教員の自宅からの電話費用についても自律予算から支出することとした。



オンデマンド学習支援（生徒撮影）

教員は、自宅や学校においてパワーポイント等を駆使して、講義を撮影したり動画を生徒に配信したりするなど、オンデマンド型の学習支援やZoomを活用したりリアルタイムの授業を開発した。

4月にはZoomを活用した授業をより効果的に実践するため、教員による教員研修を複数回開催することで全ての教員がZoomの活用法を習得し、実際に授業を行った。

その後、5月初旬から、体育や技術・家庭等の

実技教科を含む全ての授業について、45分（単位時間）の授業を6時間、全ての教員がオンラインによる遠隔授業を毎日、実践することができた。

また、臨時休業期間中、教員は自宅勤務となっていたため、自宅から遠隔授業を発信した。保健体育や芸術などの実技教科は、本校から授業を行うこととした。



体育の遠隔授業

遠隔授業では、制服の着用及び体育の授業での体操着の着用を義務付けたことで、授業を受ける心構えや学校への帰属意識を高めるとともに、通常登校時に近い基本的な生活習慣を身に付けさせることができ、保護者からも支持を得た。

4 感染症対策を徹底した段階的な教育活動の実施状況

5月25日(月)に非常事態宣言が解除されたが、本校ではオンラインの遠隔授業が確立していたことから、6月1日(月)になって生徒の登校を開始した。



教室における遠隔授業（20名定員）

約3ヶ月の間、生徒は登校しておらず、通学と集団活動を主目的に週2～3日登校させ、他の日は遠隔授業を継続した。登校時には、教室の定員を通常の40名から半数の20名とすることで密集を避け、教員による消毒作業も実施した。

6月15日(月)から週4日、登校による午前授業を開始し、週1日を遠隔授業とした。前期課程では給食、後期課程では放課後の部活動を開始した。

6月29日(月)から登校による課程別6時間授業を開始した。1クラスの定員を半数の20名とし、前期課程が登校した際は、後期課程が自宅でオンラインの遠隔授業を実施した。

7月13日(月)、通常授業を開始したが、新しい生活様式により体調を崩す生徒も少なく、不登校傾向のある生徒が登校できるようになるなど、臨時休業期間に継続してオンラインで生徒とコミュニケーションを図る取組を行った成果と言える。

5 特色ある教育活動の取組

本校の2学年以上の生徒には、タブレットパソコンが貸与されていることから、オンラインによる遠隔授業が円滑に実施できた。1学年については、事前に家庭のICT環境調査を実施していたこともあり、保護者の協力の下、全ての生徒がオンラインの遠隔授業に参加できる体制が整った。実験や実技を伴う教科においては、協働する生徒の人数や扱う器具の個数、割り当てなどについて、原則1人、最大2人の実験等、密にならないよう配慮して授業を行っている。

6 今後の課題

昨年度は、各教科全ての教員が生徒のタブレットパソコンの動画配信機能等を活用した「反転授業」を実践し、開発資料とすることを目標に授業研究を重ね、報告書にまとめることができた。

今年度から、「Society 5.0に向けた学習方法研究校」の指定を受け、デジタル教科書の使用等により可能となる多様な学習等における活用の研究や事例の蓄積、デジタル教科書の学習履歴データの分析及び効果のある指導等の開発に向けた研究を実践し、都立学校へ還元することを目指す。



“コロナ禍における学校運営”

学校法人後藤学園
武蔵野栄養専門学校長 久保 淳

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症は、現代社会に生きるすべての人の生活に様々な困難を与えている。そしてその戦いは未だ出口が見つからない。当専門学校でも全職員の英知を絞りコロナ対策を行ってきた。以下に上げる内容はその取り組みの一端である。文部科学省傘下の学校には具体的なマニュアルもあり、取り組み方法も自治体ごと共通に行うことができるが、専門学校の場合、厚生労働省からの通達があったものの判断は学校単位に任せられ、進め方には校内での慎重な議論が余儀なくされる。以下の文面から、当学園が苦慮しながら日々学校運営を進めたことをくみ取って頂ければ幸いである。

2 学校の概要

本学は、昭和45年4月武蔵野栄養専門学校を設立、食と栄養に関する技術と知識の両面から「真のプロ」の育成に取組み、以来14,000名を超える卒業生を輩出している。平成26年度には文部科学省より職業実践専門課程に認定され、より一層実践的な職業教育の質の確保に取り組んでいる。令和元年10月「高等教育の修学支援制度」において無償化の対象校に認定された。

3 長期休業・臨時休業中の教育活動の実施状況

本校のホームページ内に「ニュース」欄があり、2月から5月末までの休業期間中、変更点・注意点を学生、保護者、入学希望者に配信している。

- 2/17 新型コロナウイルスに関する注意喚起
- 2/21 卒業式の会場変更
- 3/24 4/8 入学式の中止
- 4/8 4/7 緊急事態宣言による本校の対応

- 4/9 体験入学の中止
- 4/10 校長メッセージ
- 4/15 WEB相談会のお知らせ
- 4/22 教科書等の配送に関する通知
- 4/27 今後の授業再開の予定
- 4/28 休校延長 5/31 まで
- 5/8 体験入学の中止
- 5/21 オンライン授業の取り組み
- 5/26 6/1以降の授業について

この期間を振りかえると「中止」「日程変更」を繰り返し、3か月を過ぎた。学生はこの間自宅待機となり、とくに入学生は入学式も無く、他のクラスメートにも会うことなく不安な毎日を送った。一方、教職員のこの間の労力は大きであった。4月当初自宅待機期間は4月中旬までと想定しており、学生への指示もいくつかの課題提出にとどめていたが、徐々に状況は長期化へと変化中、専門学校としてもオンライン、オンデマンド授業の必要性が叫ばれはじめ、本校でも4月末からその取り組みが始まった。当初の職員の自宅待機を変更させ、出勤日を合わせるなどの措置が始まった。本校ではまず学生のWEB環境を調査した上で“Google Classroom”なるアプリを活用し、教員の授業動画や音声の入ったパワーポイントをオンデマンド形式で配信した。専任の教員だけでなく、非常勤の講師にも来校してもらい協力を仰いだ。その甲斐あって、5月中には学生全員がそのアプリを活用し、6月からは正規の授業として配信を始めることができた。

4 感染症対策を徹底した段階的な教育活動の実施状況

本校では、東京都のガイドラインに沿い、5月

末までを自宅待機期間、6月1日から分散登校を開始した。実習の授業は学校に来て対面授業で行い、その他の座学は自宅にて配信された動画等で1コマ分の授業とした。最初の2週間は、週3回、午前・午後の2時間の登校という設定で進めた。実習の時間はクラス人数を半分にし、2週間で1週間分終了する方法をとった。また調理実習も他との接触を避け、一人で完成できる内容のものにした。座学の授業は一クラスを2教室分の広さに変え、密にならないよう配慮した。6月中旬からは週3登校を4回にするなど回数を増やしていった。(専門学校は年間の授業回数が前期15回、後期15回合計30回と定まっている。コロナ禍においては柔軟な対応も認められたが、同レベルの内容を維持するよう通知があった。) 7月1日からはすべての授業を学校登校、対面授業で行った。また言うまでもなく、登校時の検温、手洗い習慣、マスクの着用などの感染対策は全員徹底させた。

5 特色ある教育活動の取り組み

(1) 大量調理実習の継続

本校の取り組みとして、学生が毎日クラス単位で学生、教職員400人の昼食を作るという、大量調理実習を行っている。コロナ禍の中、6月当初はこの授業を取り止め、全面登校になった7月も規模を縮小(100食)し進めたが、学生からの要望も強く全面実施に戻した。ただし実施するには様々な調整が必要であり、以下の方法で行うこととした。

- ア、給食時間をこれまでの1時間から1時間半とした。そのために1・2年の始業時間をずらし、給食時間が重ならないようにした。
- イ、6人掛けのテーブルにアクリル板を2か所置き3人以内で使うようにした。
- ウ、「私語をしない」、「速やかに食べ退出する」を徹底させた。

(2) 校外実習の変更

2年の必修単位に、1週間ほど給食調理などの現場で実際に従事する「校外実習」がある。しかしながらコロナ禍の情勢により、多くの事業所か

ら「受け入れ困難」の通知があり、担当者が頭を痛めた。そこで学校として校外実習を行わず、厚労省の通達にも明記されている「代替え措置」で単位認定する方法に切り替えた。週2単位時間を校外実習の時間に当て、事業所から担当の方を招き説明して頂いたり、学生同士で実習を想定した業務内容日誌を作らせたり、“校外実習”に匹敵する内容を行った。

(3) 管理栄養士受験準備講座のオンデマンド配信

例年管理栄養士を目指す卒業生等を対象に受験対策講座を行っているが、今年度はその授業をすべて動画やパワーポイントによる授業に切り替えオンデマンド配信して行っている。

(4) オンラインでの体験入学

年間で20回ほど予定している体験入学であるが、オンラインでの参加を促し、双方向のやり取りをしながら本校の特徴をアピールしている。多くの高校生が利用している。好評である。

6 今後の課題

本校で予定していた体育祭、研修旅行、学園祭はみな中止あるいは規模の縮小という形にした。いつまでこの対応を続けるかは今のところ誰にも分らない状況である。現在まで学園内でウイルス陽性になった学生教職員はいないが、いつ発症者が出るとも限らない。その場合にも濃厚接触が多くならないよう、日ごろの実習、授業での感染対策を徹底しなければならない。全教職員、全学生、緊張感をもって毎日の取り組みに臨む所存である。





ウイズコロナ時代における教育活動の取組

学校法人窪田学園

窪田理容美容専門学校長 中村 雅江

1 はじめに

本校は、昭和25年4月に東京公衆衛生技術学校として創立者・窪田金一郎先生が東京都中野区に開校致しました。現在も開校時の「忍耐・創造・独立」を校訓として掲げ、更に具体的な教育目標として、

- ① コミュニケーション能力
- ② 協調性・調和性を重んじ、問題解決する能力
- ③ 向上心と技術力
- ④ 人間的魅力

に重点を置き、学生の能力向上に努めています。

今年、創立70年を迎え、卒業生は延べ3万5千人を越え、関係業界および地域社会の発展に寄与できる職業人を実践的に養成・輩出して参りました。

また、開校以来、社会人として必要な徹底した躰・マナー教育を実践し、資格取得だけの養成学校ではなく、同業界で活躍できる素養と実践力を身に付けさせ、理容・美容業界で一生涯、活躍できる人材の育成に取り組んでいる学校です。

2 学校の概要

本校は、衛生専門課程として4つの学科を設置しています。

- I. 理容学科（職業実践専門課程認定学科）
 - ・本科コース
 - ・認定エステティシャンコース
- II. 美容学科（職業実践専門課程認定学科）
- III. 美容学科トライチェンジコース（職業実践専門課程認定学科）
- IV. テクニカルスタイリスト科
 - ・ビューティーコース
 - ・アーティストコース (Wライセンス科)

現在の理容・美容を取り巻く職業・職種の多様化は特筆すべきものがあり、激しく変動している業界の中で、法令遵守を念頭に置き、時流に合わせた社会的・業界的ニーズに対応した理美容サービスを提供できる普遍的な実践力が要されます。その為には、企業や各種団体との連携は不可欠であり、企業や業界団体と連携した授業は全学科で常に行っています。

3 長期休養中・臨時休業中の教育活動の実施状況

本校では、4月臨時休校の決定と同時に、郵送による課題学習に取り組みました。教職員は、5月より遠隔授業を開始するにあたり、在宅で授業研究に努めました。

5月は、1日平均3時間の遠隔授業を実施致しました。遠隔授業の内容は、ツールを活用して各クラス出席確認を行い、ホームルームを実施。その後、動画による講義、講義に対しての質疑応答、Google フォームを用いた演習問題を出題、提出後集計し、理解度の確認というかたちで取り組んで参りました。

実習授業に関しては、導入部分として、実習のデモンストレーションを遠隔操作で教示し、反復練習を行いながら、繰り返し実習動画を確認させ、自宅において習得した技術を自己採点することで成果を確認致しました。また、教員は、作品の写真等により評価、今後の課題提示というかたちで継続的な学習に取り組んで参りました。

4 感染症対策を徹底した段階的な教育活動の実施状況

6月からは、遠隔授業を継続しつつ、学年で午

前、午後に登校を分散し、対面授業を再開致しました。7月中旬まで習得内容等に応じて遠隔授業と対面授業を組み合わせ、実習等の効果が得にくい科目等を優先的に、対面授業を実施致しました。

感染症対策として、登校時には、正門にて教職員が検温を行い、入館の際には手のアルコール消毒とマスクの着用を徹底致しました。また、密を防ぐ為に登下校の動線は、常に教職員が誘導し、教室に於いては、感染リスクに配慮した座席配置(2教室を1クラス)を整え、各教室に換気時間を掲示し、換気の徹底に努めました。



学生の感染防止への意識も高まりましたので、7月下旬からは、学生食堂を再開し、半数は従来の6～7時間授業、そして残りの半数は遠隔授業と対面授業を組み合わせ授業を行いました。時差登校をする事で分散登校時同様、席をあけてソーシャルディスタンスに配慮した教室を確保し、時間差による休憩時間の設定により密を防ぐ事も出来ました。また、学生食堂では同一方向着席のテーブルに空席を設け着席位置を指定、クラス毎に利用時間を設定し、都度、消毒の励行に努めました。

5 特色ある教育活動の取組

(1) ハイブリッド授業による継続的学習の成果

技術指導では、遠隔授業により「やってみせる」、「説明する」、自宅で「やらせてみる」、自己評価による「確認する」を行い、対面授業では「追加指導・課題提示」を繰り返し行う事でより個別化した指導が可能になり、技術能力の向上に繋がりました。

(2) 相モデルによる実習授業

実習授業は、感染防止のために極力相モデル

を避け、人形でのトレーニングを多く実施致しました。技術を習熟した後の相モデル実習では、学生同士が施術箇所直接接触れる場面もあり、手指や用具の消毒、マスク、フェイスシールドの着用等、徹底した衛生措置をとっています。



(3) オンライン就職説明会

新型コロナウイルスの影響により、関心がある企業の説明会に自由に参加できる録画配信型の説明会を実施致したことで、時間や距離の制約にとらわれず、企業の情報をより幅広く、効率的に研究することが出来ました。

6 今後の課題

『新しい日常』における教育現場の意識は慌ただしい形で変化しておりますが、遠隔授業により学生の単位修得の意識は高まり、動画を配信する事で理解できなかった所は何度も内容が確認できるようになりました。また、学生一人ひとりの理解度をチェックしたり、集計したりすることも容易に出来ることで教員が学生個々の到達能力を把握し易くなりました。

しかし、ネット環境が整わない事等から、遠隔授業に対し、授業時間内にきちんとしている人と差がない事への不公平性を感じる学生もいます。また、教員に際しましては、遠隔授業に対し、暗記型、その場しのぎ型の勉強に依存しているという考えもあり、教師の役割や守備範囲が変わっていくことへのより深い理解が要されます。ハイブリッド授業では、対面授業、遠隔授業とも学習環境が違うので、新たな方法を考えていく必要もあり、実現不可能な授業活動をどうするか、また、より有効な授業スタイルを考えることが必要だと考えています。



実験実習の授業再開を最優先とした学校運営とその対策

東京都立産業技術高等専門学校
荒川キャンパス 教務主事 山本 昇志

1 はじめに

2020年度当初から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症により、当校も4月から学生を自宅に待機せざるを得ない状況に陥った。休学処置は感染症の拡大を防ぐとともに、学生の健康を第一に考えた適切な対応であるが、一方で感染状況を判断しながら学校再開の準備と具体的な教育方法を早急に検討することが求められた。特に当校は多くの実験や実習を通して、即戦力となる技術者を社会へ輩出することを使命とした教育機関であるため、少しでも対面型の実習を実現する方策が必要不可欠である。そこで、本報告では、休業から遠隔授業への展開、そして分散登校による実習再開に至るまでの運用と具体的な実施事例について述べる。

2 連絡網の確保と座学授業の遠隔実施

緊急時の授業運用体制を確立する上で、新年度4月の一週間が大変重要な期間であったと考える。この時期にまず我々が着手したのは連絡網の確保である。元々、当校は各学生にGoogleメールを与えていたため、このメールを活用して、遠隔授業ツールであるGoogle Classroomを早期に立ち上げることができた。また、パソコンだけでなくスマートフォンも併用することで、ほぼ全学生に資料等を配布する手段を確保した。新入生に対しては入学式を簡便化するとともに、登校禁止が発令される前にガイダンスを行い、メール受信の確認とClassroomの使い方指導までを一斉に行った。運用までに上級学生より少し時間がかかったが、保護者の協力も得ることで、無事、連絡網を確保することが可能となった。

続いて行ったのは4月中の自学課題の配布と教員による授業コンテンツの準備である。自学課題はプリント等の配布に限定したが、遠隔授業のコンテンツは自宅でも授業内容が理解できるような工夫が必要となる。当初、講義授業の動画配信などを検討したが、学生の通信状況を鑑みると、なるべく配信データ量を減らすことが大切である。そこで、図1に示すような、静止画+音声を含む授業コンテンツの作成を各教員に依頼することとした。1時間程度の動画配信に500MB程度の通信量が必要になる従来手法に比べ、本手法では約1/10程度で授業が運営可能であり、コンテンツのデータダイエットを実現することが可能である。



図1 データダイエットを適用した遠隔授業例

3 実験実習授業の再開準備

次に、授業再開を想定して、授業内容の見直しと実際の実習時における感染防止策を行う重要である。内容の検討としては実験実習の説明や理論的な事前検討、レポート指導などをなるべく遠隔授業として振り分け、最低限の実習時間で習得す



図2 飛沫飛散防止のための敷居設置例

べき技術等を獲得できるように、シラバスの改定を行った。一方、実験環境の構築においては、図2に示すような飛沫飛散防止のための敷居設置など、入手可能な市販品で対応を行った。

4 感染防止を徹底させた実習授業の運営

感染者数が減少する傾向が現れた6月初旬から、実習授業を中心とした分散登校による学校運営が可能になった。登校は週に1～2日、学年/クラスを限定して、全20クラスのうち8クラス/日に限定して授業を運用した。これは収容人数が多い大教室が4部屋、そして飛沫飛散防止を施したパソコン室が4部屋確保できるためである。登校時の授業は実験の他に、プログラミング、製図、卒業研究等の実習科目を優先した。



図3 感染防止を施した実習授業の様子

実験においては、図3に示すように、学生数を半分にわけて実習とレポート作成をそれぞれ時間差で行うなどの工夫を行った。また、実習時の待機位置の指示や徹底した換気など、作業内容を見直すことで感染を防止する工夫を行っている。なお、使用機器や工具の洗浄までは困難なため、作業ごとに手洗いをさせるなど、作業手順にも工夫を組み込んだ。

このような分散登校は学生の感染リスクを低減しつつ、実習授業を運営可能である。しかし、登校した学生は実験以外の座学授業を学校で受ける必要があるため、学生居室スペースやパソコン総数の不足などが発生している。このため、貸与可能なパソコンの緊急入手を、現在進めている。

更に実習において、グループワークを伴うエンジニアリングデザインやアクティブラーニングなどの授業運営がかなり困難であった。これらは学生同士が議論を行うことでアイデアを創出する授業であるが、お互いの意図を感じ取った議論展開や、協調・共同作業などは対面ならではのメリットが多く存在する。そのため、遠隔授業でどれだけ対面と同等のリアリティを作り込めるかが重要な課題だと考える。

5 まとめと今後の進め方

7月に入り、当校は全員が登校して通常授業を行う一斉登校に移行した。いまだ感染の勢いが止まらないが、これまでの対策を厳密に踏襲することで、現時点でも教職員や学生の感染なしに学校運営を行うことができている。

一方で、対面授業の不足により教育の質の低下が生じないような工夫を更に検討していかなければならない。そのため、補習等での対策も必要不可欠であるが、本質的には対面（新たな知識を教授・理解）と遠隔（復習を含む自学自習）を有益に組み合わせた授業運営で、感染を防止しながら教育の質を低下させない、フレキシブルな手法の検討が必要だと考える。

東京の産業界



～「じぶんごと」からはじめよう～ 2030 SDGs チャレンジ

読売新聞教育ネットワーク事務局事務局長 吉池 亮

1 多彩なメディア

読売新聞は1874年（明治7年）創刊で、題号は江戸時代の「読みながら売る」かわら版に由来します。2019年11月現在の朝刊部数は795万4126部（日本ABC協会報告）。発行部数世界一の新聞としてギネスブックにも認定されています。

本紙のほか10代向けの読売中高生新聞、小学生向けの読売KODOMO新聞、英字新聞The Japan Newsの4紙を発行。日本テレビ放送網やBS日本などを傘下に持つ日本テレビホールディングスも読売グループの一員です。

2 読売新聞教育ネットワークとは

2014年10月、読売新聞創刊140周年の記念事業として創設されました。「社会はまるごと学校」を合言葉に、企業と学校を結びつけ、小中学校・高校での出前授業や、様々な教育イベントなどを実施しています。20年10月末現在の参加者は、教員や学校司書1万5206人、学校・企業や研究機関など1099団体、一般個人を含め計1万7645人・団体。教育に関心のある人なら誰でも無料で参加登録でき、情報を受け取ったり、イベントに参加したりできます。

読売新聞教育ネットワーク（教育NW）の情報は、ウェブサイト（<https://kyoiku.yomiuri.co.jp/>）でご覧いただけます。参加申し込みも受け付けています。

3 特色ある事業

（1）SDGs学ぶ中高生を紹介

活動の柱の一つは、国連の定めた「SDGs」（持続可能な開発目標）と教育関連の情報提供です。SDGsは2015年の国連総会で採択された目標で、30年までに達成すべきだとして「質の高い教育をみんなに」「働きがいも 経済成長も」「つくる責任 つかう責任」など17項目を掲げています。

教育NWでは、「2030 SDGs チャレンジ 『じぶんごと』からはじめよう」をスローガンに掲げ、SDGsを「他人事（ひとごと）」とせず、できることから始める「自分事」として取り組もうという思いを込めて活動しています。



学校に協力して「読売中高生SDGs新聞」を発行し、「活字の学び」を広める取り組みを行っています。20年3月には、東京都千代田区の正則学園高校の生徒たちが、自ら取材、写真撮影、

記事作成を体験。琵琶湖周辺を覆うイネ科植物「アシ」(ヨシ) 群落を修学旅行で訪れ、地域の人たちと一緒にアシ刈り参加した様子などをタブロイド判カラー4ページの新聞にまとめ、SDGsの取り組みとして情報発信しました。

授業で役立ててもらうための教材として、新聞記事を活用した「読売SDGs新聞」を発行し、希望する全国の小中学校に配布しました。20年10月には、本紙日曜版で好評連載中の漫画「猫ピッチャー」と一緒に、SDGsの目標について楽しく学べる小冊子「猫ピッチャーだってSDGs」を作成し、教育現場の取り組みを支援しています。

読売新聞の紙面では、毎月第1水曜日に「SDGs@スクール」コーナーを掲載し、目標達成に向けて活動している中高生らを紹介。教育NWのサイトでは、教育的な方策を探る「SDGsリレートーク『じぶんごと』からはじめるために」などを掲載しています。

(2) 出前授業、研修を実施

もう一つの柱は、読売新聞の記者や社員が出向く授業・研修です。「新聞@スクール」と称し、全国の小中高校で親子出前授業を実施しています。



社会人や大学生対象の「新聞のちから」研修は、講義や論文作成で「書く力」「読む力」「会話する力」を伸ばすプログラムです。教育NW参加企業・団体の教育プログラムを、教育現場のニーズに合わせてコーディネートする活動もしています。

(3) 新聞を題材にした教材を配信

教員向けには、読売新聞の記事を使った学習教材「読売ワークシート通信」を無料配信していま

す。小中学生が家庭で学べる個人向け通信教材「新聞でチャレンジ! 作文添削教室」(有料)は、新聞を題材にしたトレーニングシートと提出用の作文添削シートを月1回郵送する事業です。

(4) 多彩な教育イベントを実施

参加団体との連携プロジェクトも展開しており、医師を志す高校生が医療チームに密着する「高校生向け医療体験プログラム」を実施しています。中学生、高校生や大学生がそれぞれ「おすすめの本」について発表を行い、聴衆が最も読みたくなった本を決める知的書評合戦「ビブリオバトル」では、全国大会を開いています。「全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」、作家らを招いて読書の魅力を伝える「読書教養講座」など教育関連の様々なイベントにも力を入れています。

4 青年へのメッセージ

皆様は新聞をどのように読み進めていきますか。見出しを追いながら、気になる記事があると目をとめつつ、パラパラとページをめくっているのではないのでしょうか。こうした新聞の賢い読み方に気づいていない青年が、最近は多いようです。

新聞の強みとは何か。それは、政治から経済、社会から文化、スポーツまで、様々なテーマごとに日本だけでなく世界中で起きた出来事を、限られた時間の中でまんべんなく吸収できることです。

紙面スペースの制約から、インターネットと違って自分が好きなテーマばかり際限なく読み続けることはできません。でも、好物ばかり食べていては体に悪いのと同じです。新聞とは、限られた時間内に様々なニュースを摂取できるサプリメントのようなものです。

若いころから新聞に目を通す習慣が身に付けば、野菜を毎日食べるように、社会に出るために必要な「栄養素」が自然と身に付くはず。どうぞ新聞ななめ読みの極意を身に付けて、社会にこぎ出してってください。



専修学校各種学校教育の充実振興を目指して

公益社団法人東京都専修学校各種学校協会会長 山中 祥弘

1 はじめに

当協会は、東京都内の専修学校および各種学校により組織された公益法人です。

昭和36年に「社団法人東京都私立各種学校協会」としてスタートした当協会は、その後、昭和51年の専修学校制度創設に伴って「社団法人東京都専修学校各種学校協会」へ、さらに公益法人制度改革により平成24年には「公益社団法人東京都専修学校各種学校協会」へと二度にわたる名称変更を経ています。しかし、設立から現在に至る約60年間の当協会の歴史において一貫しているのは、常に「専修学校各種学校教育の充実振興」を中心に据えて活動してきたということです。

現在も会員344校の連携、協力のもと、この目的のためにさまざまな事業を推進しています。

2 主な事業内容

当協会の目的である専修学校各種学校教育の充実振興を通じて産業経済社会に貢献する産業人育成のために、次の三つの公益目的事業に体系づけて各種事業を実施しています。

- ①専修学校及び各種学校における教育の充実向上を図る事業
- ②進路や職業教育に関する情報収集、研究調査及び情報提供等を行う事業
- ③教育訓練、職業訓練、就労支援等の提供を行う事業

詳細は「【表1】当協会の公益事業体系」をご参照ください。

【表1】 当協会の公益事業体系

| | |
|------------------------------------|--|
| ① 専修学校及び各種学校における教育の充実向上を図る事業 | |
| 1 | 研修会等 (1) 管理者研修 (2) 教職課程研修 (3) 准教員研修 (4) 教員実践研修 (5) 学校会計研修 (6) 学生カウンセリング研修 (7) 留学生受入れ及び在留手続と申請等取次研修 (8) 留学生生活指導関連事業 (9) ボランティア活動支援事業 (10) 専修学校各種学校教育研修 (11) 学校事務職員研修 (12) 就職等進路に関するセミナー (13) 防災セミナー (14) 主権者教育研修 |
| 2 | 生徒作品の発表イベント (1) ビギーズスペシャル (2) 専門学校映像フェスティバル (3) 東京都専門学校アート&デザイン展 |
| 3 | 学校評価の普及啓発 (1) 学校評価の普及啓発 |
| ② 進路や職業教育に関する情報収集、研究調査及び情報提供等を行う事業 | |
| 1 | 調査統計 (1) 在籍者・納付金・就職状況等に関する調査 (2) 専門学校の振興に関する調査研究 (3) 専修学校振興構想懇談会 |
| 2 | 研究会等 (1) 専門学校教育研究会 (2) 南関東ブロック会議 (3) 高等専修学校進学研究会 (4) 日本語学校・専門学校連携事業 (5) 日本語教育にかかる調査研究 |
| 3 | 相談会等 (1) 外国人留学生のための専門学校進学相談会 (2) 日本留学フェア (3) 高等専修学校合同説明会 (4) 進路指導に関する相談会 |
| 4 | 資料頒布等 (1) 「東専各協会報」の発行 (2) 「分野別名簿」の発行 (3) 「路」の発行 (4) 「キャリアエデュ」の発行 (5) 「専修学校教育白書」の発行 (6) 「就職要点手帳」の発行 (7) 「東京都高等専修学校概要」の発行 (8) 「高等専修学校進学ガイド」の発行 (9) 「高等専修学校リーフレット」の発行 (10) 「東京都専門学校概要」の発行 (11) 「学生・保護者・社会人のための専門学校ガイド」 (12) キャンペーン事業 (13) 情報ネットワーク事業 |
| ③ 教育訓練、職業訓練、就労支援等の提供を行う事業 | |
| 1 | 就労支援事業 (1) 高校生対象キャリア支援事業 |

3 専修学校、各種学校の教育

(1) 専修学校、各種学校とは

ところで、一般には「専修学校」より「専門学校」の方に馴染みがあるかもしれません。制度が少しわかりにくくなっているのです、ここで簡単に解説します。

専修学校にはつぎの三つの課程があります。

- ・ 専門課程（高校卒業生対象の課程）
- ・ 高等課程（中学校卒業生対象の課程）
- ・ 一般課程（入学資格に制限がない課程）

このうち、専門課程を置く学校を「専門学校」、高等課程を置く学校を「高等専修学校」とも呼びます。専門学校は大学と同じ高等教育機関、高等専修学校は高校と同じ後期中等教育機関です。

三つの課程のうち学校数、生徒数ともに大多数を占めるのが専門課程（専門学校）で、全国 2,805 校で 597,870 人の生徒が学んでいます。高校卒業生の進路状況をみると全体の 16.3%が専門学校に進学しています（令和元年度学校基本調査）。

(2) 専修学校、各種学校教育の特長

専門学校をはじめとした専修学校および各種学校は日本の産業教育の中核として産業経済社会の発展に多くの貢献をしてくれました。

その教育の特長の一つは「実践性」です。専門的な知識・技能を中心に社会ですぐに役立つ実践的な教育をしています。

もう一つの特長は「専門性」です。専修学校各種学校では、実に様々な分野の専門的な教育をしています。

実は、この「実践性」「専門性」という二つを可能にしているのがもう一つの特長である「多様性」です。専修学校各種学校は制度上、教育課程の編成等の面で自由度が高く、各学科に関連する業界のニーズに即応できる強みがあります。そのため各学校は企業等との連携を図り、実社会の現場における最新の知識・技術を教育に反映する努力をしてきました。

平成 26 年には、専門学校のうち企業等と密接に連携して最新の実務に関する知識、技術及び技

能について組織的な教育を行う学科を文部科学大臣が認定する「職業実践専門課程」制度も創設され、多様な分野で実践的な教育を提供する専門学校教育のさらなる充実が図られています。

4 青少年の皆様へ

職業を通して社会に貢献する目的を達成するための職業目標を持ち、それを実現するために今何をしたら良いかを考えていただきたい。

誰も子どものころは、いろいろな職業への夢を持っていたと思います。しかし、多くの方がいつのまにかこの夢への熱意を失ってしまいます。特に高校ではいまだ大学進学偏重の傾向もあり、本来なら夢（目的）に近づくための大学・専門学校への進学（手段）であるべきですが、いわゆる「大学」へ行くこと自体が目的として混同されてしまっているケースが多いのは残念です。

成長とともに「将来のなりたい自分」の中身が変わることはあっても、これを持ち続けることで、前向きな自分らしい人生を歩んでいくことができるのではないのでしょうか。

5 生涯学び続ける時代

現在専門学校では、社会人も多く在学しています。職業上必要な知識・技能の修得を目指して実社会に出てから学び直しをしている人が多いのです。従来は「通過型教育」で、卒業後に学校に戻る人はごく少数でしたが、今後は社会の急激な変化に対応するために、実社会に出た後に再び専門学校・大学等に戻って知識や技術を学ぶ「循環型教育」が浸透していくと考えられます。

これまでも、専修学校各種学校は社会の変化に対応し、その時々社会が求める教育を提供してきました。今後も、変わりゆく社会のニーズを的確にとらえて、専門職教育を通じて社会経済の発展に貢献するとともに、専修学校各種学校で学ぶ人々の人生が豊かなものとなるよう、教育の充実に全力で取り組んでいきたいと考えています。

情報スクエア



平成30年度「キャリア教育優良学校」 文部科学大臣表彰を受賞して

東京都立大島高等学校長 住吉 貴之

1 はじめに

本校は戦時中の昭和19年、文部省から「東京都大島六か村学校組合立東京都大島農林学校」の設立を認可され、同年開校した。昭和25年に東京都立大島高等学校と校名を変更し、令和2年で開校77年を迎える。全日制課程に普通科6学級、農林科と家政科の併合科として3学級、定時制課程に普通科4学級の合計13学級を設置している。

島の産業と生活を支える教育のために農林科及び家政科の2科2学級で始まった本校であるが、昭和25年に普通科が設置されて3学級体制に、昭和46年には高度成長期の日本の世相を受けて普通科が増学級となり、農林科と家政科が併合科として1学級にまとめられることとなった。

生徒の状況として、一時期は、元気すぎる生徒がエネルギーを持て余していた時代もあったが、地域の教育力をお借りして、現在では元気で人当たりがよい生徒がほとんどである。平成25年の台風第26号による土砂災害にあたっては、生徒から復旧活動に当たりたいとの申し出があり、地域の皆様に少しは恩返しのできたのではないかと考えられる。その中で現在の生徒については、第一に学力の幅が非常に広いこと、第二に併合科生徒のキャリア意識の未醸成が課題としてあげられる。これは島で学ぶことを選んだ場合に、高校の選択肢がないこと、学科の特性が地域の理解を十分に得られていないというところに原因があると考えられた。

この現状を踏まえ、全校生徒の進路実現100%を目標の基盤に据えたうえで、そのために、①多様な進路実現に応えられる組織体制、②併合科生徒のキャリア意識の向上を目指す取組の充実を方策に、課題解決の意識を持って活動できる人材の

育成に取り組んできた。今回、これまでの取組が評価され、平成30年度キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰を受賞したので報告する。

2 取組内容

本校は前述の生徒の現状を踏まえ、進路選択の幅を広げるための職業観、勤労観とキャリアプランの育成に重点を置いている。ハローワークと連携した職業相談や職業講話の実施や、島内外の企業や公的機関と連携したインターンシップなどを高校生活の早期の段階から実施しているが、最も特徴的な内容は、普通科・農林科・家政科がそれぞれの強みを活かした地域・社会や産業界の多様な関係者と連携した取組を実施できている点である。とりわけ平成28年に、教育機関として世界初の「国際優秀つばき園」に認定された農林科の取組は、島内の産官学の連携として注目され、認定後も生徒の主体的な活動や進路実現につながっているため、この内容を中心に説明する。

伊豆大島は、ヤブツバキ約300万本が自生する椿の島である。近年は観光客の減少と過疎化・高齢化が大きな課題になっている。ヤブツバキの里山も放置林化し、荒廃が進んでいるが、ツバキは花だけでなく木材も実も利用でき、捨てる場所がないと言われる有用植物である。そこで本校では、ツバキの活用に取り組んでいる。

(1) 「国際優秀つばき園」の活用

平成25年10月の土砂災害からの復興と観光振興を目的に、島内の産官学連携として、東京都立大島公園椿園、民間の観光施設と合同で「国際優秀つばき園」認定の申請を行い、平成28年2月に認定された。認定後の平成29年の椿まつりには、来島者数は前年比約140%を達成した。

授業で椿園の管理作業や、ツバキの新品種作りなどを学習教材として、地域資源であるツバキを活用している。特に、椿まつりの時期には



海外留学生へのツバキの説明

生徒による椿ガイドを実施し、それぞれ生徒が興味関心に基づき、ツバキについて調べたことを説明している。また、海外からのお客様には、英語での椿ガイドも行っている。

平成30年度は第10回高校生観光選手権に初出場し、「伊豆大島 TSUBAKI 三味の旅」として島の象徴であるツバキを存分に味わっていただくと共に、伊豆大島の豊かな自然と文化を楽しんでもらう滞在型観光プランを発表し、「金賞」を受賞した。この結果は地域でも大きな反響を得た。大島町長から栄誉を称える感謝状を頂いたほか、地域の海運会社や旅行者からツアーの実現に向けた提案があり、生徒の実業意欲向上につながった。

(2) 環境保全

防災や地域資源の活用という意味合いで、所有者が管理できなくなった林地の保全ボランティア活動をおこない地域の里山の整備・再生に取り組んでいる。平成29年には地域のNPO法人と連携して地域の巨木「仙寿椿」を管理、再生し、日本ツバキ協会の優秀古木認定を達成した。民間会社が取り組んでいるプロジェクトにも協力し、島内外の参加者と共に里山の再生活動をおこない、炭や油の原料を確保している。都内にある同社の工場見学もおこない、椿の種子から椿油がどのように製造、商品化され、流通するか学習することもできている。ツバキの活用と地域振興をテーマに、環境活動に係るコンクールに出場して全国大会で審査員特別賞を受賞した生徒は、都内の四年制大学の農業系の学部に進学し、現在地域振興について研究しており、いずれは伊豆大島に戻って地域資源の活用に取り組むことを志している。

(3) 関係機関との連携

地域の業者と連携した椿油づくりや、東京工業大学と連携した椿炭の研究（伊豆大島椿炭プロジェクト）、日本ツバキ協会や地域のNPO法人

との連携を通じて、伊豆大島のツバキの魅力を発信している。国際優秀つばき園認定後は海外からの来園者も来るようになり、国際ツバキ協会や東京都大島支庁と連携して対応するケースもあり、国際交流や海外も視野に入れたキャリア教育の場にもなっている。国際優秀つばき園認定に大きく関わった男子生徒は、四年制大学の国際系の学部に進学し、将来は伊豆大島と世界の架け橋になりたいという志をもっている。

このように、これらの取組は地域との連携の中で進化を重ね、生徒の進路意識の涵養に大きな意味合いをもつようになり、生徒の成長のみならず地域の活力にもなっている。

3 成果と課題

今回の取組の成果としての第一は、生徒の課題解決力の伸長を契機として、進路開拓力の育成が可能になった点である。これまで学習に対してうまく取組むことができずこなかった生徒、学習に関心をもつことができなかつた生徒に対して、興味・関心をもたせ、探究活動をとおして得られた成果により、自己効力感を得ることができた生徒は、進路についても自己の課題意識や志に基づいて進路選択ができるようになっていった。

第二に、学校の取組によって地域との連帯感が醸成され、地域との連携の道が開けることにより、生徒の職業観や勤労観育成の場が広がった点である。地域の酪農会社、農林水産試験場、洋装品店や給食センター、町役場など幅広い職場の見学や体験は、生徒のキャリア意識の醸成に一役買っている。

今後の課題としては、現在の本校における教育活動を平成30年3月に告示された新学習指導要領の内容に沿った指導に改善することである。普通科を含めて、本校の教育財産を活用して「新しい学び」の実践を深め、将来を「逞しく生き抜く力」を育成していく教育課程を形成し、それを創立100周年に向けた土台としてマネジメントしていく学校を確立していく。



令和元年度「キャリア教育優良学校」 文部科学大臣表彰を受賞して

東京都立第五商業高等学校長 小川 孝

1 はじめに

本校は、昭和16年に東京府立第五商業学校として、東京都中野区鷺宮の地でスタートした。以来、昭和19年4月に現在の地に移転を完了し、昭和23年4月から新学制により東京都立第五商業高等学校と改称、今に至る。来年度で全日制創立80周年、定時制創立70周年を迎え、これまで27,000名を超える卒業生は実業界をはじめ様々な業界で活躍するなど、多くの有為な人材を輩出している。本校の教育目標は、「知性と感性に富む創造力豊かな人間を育てる」「明朗にしてたくましい心豊かな人間を育てる」「平和を愛し、国際社会に貢献できる人間を育てる」であり、教職員は「国立に五商あり 人づくり夢づくりの(まなびや)」を合い言葉に、日々一丸となって教育活動に取り組んでいる。

平成30年度より、都立商業高校全日制課程7校はビジネス科へ学科改編され、今年度はその3年目に当たる。改革の中、本校では平成29年度からノーチャイム制、平成30年度から7時限45分授業を実施、週35コマの時間割を編成し、ビジネス科としての教育課程をスタートした。

また、2022年からの新教育課程に向け、ブランドデザインの策定や目標達成評価基準(ループリック)の完成に向け、昨年9月から様々な研修や研究授業を行っている。さらに、以前より生徒の主体的な学習を支援するため、クラウドサービスのeポートフォリオシステムを全学年に導入し、生徒が自らの学習活動の記録を残し、新たな『気付き・発見・行動』につなげるだけでなく、新学習指導要領にともなう「大学入学共通テスト」など様々な進路活動に活かしている。

2 本校のキャリア教育の取組

次に本校の特色あるキャリア教育の取組について、以下に紹介する。

(1)「東京のビジネス」での取組

1年次の「東京のビジネス」では例年企業研究を行っている。平成30年度はJ P X(株式会社日本取引所グループ)の教材を用い、起業に関する知識を学習し、12月に株式会社かつや、キリンビバレッジ株式会社より講師を招き講演会を実施した。令和元年度も前年同様12月に日本通運株式会社より講師を招き、物流に関する講演会を実施した。



「東京のビジネス」の授業風景

(2)「ライフデザイン・社会体験学習」での取組

本校では、1年次に学校設定科目として「ライフデザイン・社会体験学習」を配置し、進路指導部と学年担任12名体制でその指導にあたる。主な内容は、例年4月に地域を学ぶ「くにたち桜守」、5月に「進学ガイダンス」「業界研究」をそれぞれ講師を招いて実施する。また、「自己PR文・小論文の書き方」を年度末までに学ばせ、内容ある文章を書くために、何が大切なのか、報告書作成の方法などにつなげている。「くにたち桜守」では、地域の中で、何を大切にして、どう生きていくべきかについて真剣に考える機会をつくり、「進学ガイダンス」では、自己の進路、特に大学への興味・関心を深め、「業界研究」では2

学期に行うインターンシップについて具体例を通して学ばせている。

(3) インターンシップでの取組

令和元年度は本校がインターンシップ事業に取り組みながら11年目となった。当初は希望制であったが、平成26年度からは「国際ロータリーと東京都教育委員会との連携」によるインターンシップ事業を活用し、毎年11月に1年生全員210名が3日間のインターンシップに参加している。この事業は国際ロータリー第2750地区との連携により、受入先への協力依頼や生徒の希望調査を含め約半年間かけて展開しており、毎年100社を超える企業や事業所に御協力を頂いている。後日、受入先の方々を招きインターンシップ実施報告会を開催し、自らの体験を報告する。報告会では、他者の体験を通じて得た成果も学年全体で共有し、今後の学校生活や進路活動に活かしている。

インターンシップ事業所アンケートでは、勤務態度や挨拶、身だしなみ等9割以上の生徒が高い評価を受け、生徒アンケートでは、体験学習から学んだこととして、①挨拶や言葉遣い、マナーの大切さ②人間性やチームワークの大切さ③働くことの大変さが毎年あげられる。これらの体験は、生徒がこれからの社会をよりよく生きていくため、必要な力を身に付けていかねばならない気付きとなり、体験を通して実感した働く人の気持ちや挨拶、気配り、笑顔の大切さ、コミュニケーションの難しさ等、将来の自己の望ましい職業観や勤労観が着実に養われ、これからの学校生活における態度等について生徒自身が主体的に考え、行動の指針を得る機会となっている。



インターンシップ報告会の様子

(4) ビジネスアイデアでの取組

2年次の「ビジネスアイデア」では、1年次での学びを基盤に、地域商店街やNPO、一橋大学等と連携した取組による地域の特性を踏まえた実践的な学びを深めている。令和元年度は4月から9月まで、将来を担う若者の創業マインド向上を目的に全国の高校生を対象にした、日本政策金融公庫の「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に応募するため2年生210名を54チームに分け、講義やグループ学習を実施した。10月からは一橋大学教授と大学生を招き、「国立旧駅舎再築」をテーマに、新しいビジネスを考え、さらに、12月から年度末までは株式会社オリエントコーポレーションのスタッフとともに「キャッシュレス決済」について学習し、発表を行った。これらの取組は、生徒の社会人として求められる実践的な資質・能力の育成をはかり、ビジネスについての学びを深められるよう、組織的、計画的に推進している。



ビジネスアイデアの授業風景

3 おわりに

今後は、2年後の令和4（2022）年度から年次進行で始まる新教育課程や来年度の本校創立80周年に向け、より一層教育活動の充実に努める。

また、国立という地で「地域と連携した地元密着型のビジネス教育の推進」を核とした教育活動を通し、多彩な学びを重ねながら、多様化した社会の中で、将来の国際社会を担う人材として、必要な知識と技術、勤労観・職業観、道徳心、社会性、コミュニケーション能力など、生徒の柔軟な力を総合的に高め、末永く地域や企業に必要とされる商業高校となれるよう、今後も3年間を見通した特色あるキャリア教育を意図的・系統的に展開していきたい。



令和元年度「キャリア教育優良学校」 文部科学大臣表彰を受賞して

北区立明桜中学校長 五明 早苗

1 はじめに

本校は平成19年に北区立豊島中学校、清至中学校、豊島北中学校を統合してできた中学校である。通常の学級に加え、特別支援学級、日本語学級を設置している。生徒数は541名で区内においては大きな学校といえる。義務教育最後の教育の場であることを意識し、生徒一人一人の美点を見出し、磨き、将来の夢の実現に向けて、ひたむきに努力する生徒の育成に取り組んでいる。

学区は、ほとんどが住宅地でマンション・団地などの集合住宅が多い。前身の三つの中学校を含めると親子三世代で、同じ中学校の出身者も多く、地元の愛校心や期待は大きい。

そのため、地域とともに行う行事も多い。特に本校を会場にした地域行事が年2回行われていて、生徒もボランティアで係として参加している。

母体となる小学校は王子第一小学校、豊川小学校、柳田小学校、としま若葉小学校の四校である。

北区には「北区学校ファミリー構想」という施策があり、本校は校区内の四校と共に「明桜中サブファミリー」を形成して、9年間を見通した「キャリア教育」の充実に取り組んできた。

キャリア教育を独立した教育活動として捉えるのではなく、学校におけるさまざまな教育活動の場面の中で、計画的に意識して指導していく。そして、子供たちの「生きる力」を育て、勤労に誇りと喜びを感じる社会人の育成を目指す。

小学校、中学校においては、各キャリア発達段階を踏まえた課題を設定して、それぞれの学校の児童・生徒の実態・成長・発達に応じて、円滑な接続を意識した教育活動に取り組んでいる。

2 特色あるキャリア教育の取組

本校の取組は、平成27年度から平成31年度まで5年計画で行われた。この取組では、校区内の四つの小学校と連携して「キャリア教育」の視点を意識した「授業研究」を行い、学力向上を目指してきた。

(1) 研究主題

研究主題は「キャリア教育を中心とした学力向上」である。児童・生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて、その基盤となる能力や態度、及び自立した社会人として「生きる力」を育む授業づくりを目指して、小・中合同で授業研究を行う。研究を推進するために次の四つの柱を設定した。

- ① 各校及びファミリー全体であいさつ運動を重点に円滑な連携を図る。
- ② 学習意欲の向上を図り、子供たち自身による学びの深まりを目指す。
- ③ 今の自分を見つめ、次の目標に向かって努力できるようにする。
- ④ 9年間の小中一貫教育の推進により、教育内容の一層の充実を図る。

(2) 取組方法



本校と連携する四つの小学校と共に12の教科・領域分科会を設置し、年間3回の小中連携の研究授業と事前検討会を行う。

- ① 設置した教科・領域分科会
 - 国語 ○社会 ○算数・数学 ○理科
 - 英語・外国語活動 ○保健体育 ○芸術・技術系教科 ○道徳 ○総合的な学習
 - 特別活動 ○特別支援 ○養護
- ② 検討項目
 - 小中の学びのつながりに関する児童・生徒の課題と対応策。
 - キャリア教育の観点から授業を見直した課題。
- ③ 授業研究の視点

「基礎的・汎用的能力」を構成する次の四つの要素を意識して、授業に取り組む。

 - 人間関係形成・社会的形成能力
 - 自己理解・自己管理能力
 - 課題対応力
 - キャリアプランニング能力

授業研究の時には、どの要素をどの場面で育成するのかを指導案に明記し、「基礎的・汎用的能力」を意図的・計画的に育成する。

(3) 工夫した点

- ① 指導案検討会の中では、どのような学習活動が「キャリア教育」の視点とつながり、効果的となるのか、意識した。
- ② 各分科会は、教員経験の浅い教員からベテランの教員まで、校種や男女、年齢など多様な教員で構成することで、様々な角度から授業研究を深めていった。

(4) 成果

- ① 「キャリア教育」について小・中の教員が同じ視点で児童・生徒と向き合うことができたようになった。
- ② 「キャリア教育」の視点が学校生活の中に浸透していった。
- ③ 小学校から中学校への学びのつながりについて理解を深めることができた。

- ④ 具体的な教材・教具についても、中学校教員の専門性を生かした情報交換を行うことができた。

3 おわりに

学校の中で一番多く費やされている時間は「授業」である。その「授業」を通して「キャリア教育」を推進していくことで、「将来の職業や進学先を考えること」だけの「進路指導」とは違う「生き方指導」としての「キャリア教育」の考え方が学校全体に浸透していった。

「授業」の中に「キャリア教育」の要素を意識的に取り込んだことにより、「生きる力」の育成や「キャリア教育」を日常的に身近な教育として捉えることができるようになったのである。

小学校と中学校の教員が同じ視点から「キャリア教育」を行うことは、発達段階の違いから、難しい場面もあったが、勤労観・職業観を育むための教育を系統的・計画的に行う、という視点を両者でもつことが出来るようになったことは大きい。

小学校1年生の時の「将来の夢」と中学校3年生の時に抱く「将来の夢」は、9年間の成長過程の中で変化していることが多い。その変遷のプロセスを、支え、見守り、後押しすることが本校の「キャリア教育」の核になっている。

人生100年時代と言われている今、自分の生き方を長いスパンで考えられる生徒の育成のために、義務教育の9年間を通して「生きる力」をつける「キャリア教育」を今後も推進していく。



第30回全国産業教育フェア大分大会 さんフェア大分2020

事務局

第30回全国産業教育フェア大分大会(さんフェア大分大会2020)は、10月24日(土)、25日(日)に大分県で開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を考慮して、一部規模を縮小し、参集型開催とインターネット開催を融合させた新しいスタイルで開催されました。

1 参集型開催

日時 令和2年10月24日(土)

場所 別府ビーコンプラザ

参加者 県内を中心に約2千人

内容

① 総合開会式・総合閉会式

② 全国作品展示

全国の専門高校等の実習・課題研究等で制作した作品等の展示 展示作品数97作品



都立芝商業高等学校



都立葛飾商業高等学校

③ 開催県作品展示

④ 開催県デモンストレーション発表

⑤ 展示販売

⑥ 作品・研究発表

⑦ 意見・体験発表

⑧ スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業発表会

⑨ 大分県紹介、参加・交流イベント

⑩ 国東・宇佐地域世界農業遺産の研究発表・展示

2 インターネット開催(特設ホームページで開催)

① 動画配信

期間 令和2年10月中旬～令和3年3月末日

内容 開催県デモンストレーション発表、大分県紹介・参加・交流イベント(生徒実行委員会)、作品・研究発表、意見・体験発表、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業発表、国東・宇佐地域世界農業遺産の研究発表等

② ネット販売

期間 令和2年10月中旬～令和2年10月末日

内容 全国及び県内の専門高校等の実習等で制作した作品、製品、生産物、実習取扱商品等のネット販売

3 作品・研究発表

日時 令和2年10月24日(土) 11:30～12:30

場所 別府ビーコンプラザ

配信期間 令和2年10月中旬～令和3年3月末日

内容 全国及び県内の専門高校等の生徒による学習や実験・実習等で作成した作品、研究の成果及び感想等についての発表

全国9発表(農業1、工業1、商業1、水産1、家庭1、看護1、情報1、福祉1、総合学科1)のうち、商業の発表を都立の商業高校7校が行

いました。

4 都立商業高校7校の発表

【発表テーマ】都立商業高校における「ビジネスアイデア」の取組

【発表校】

東京都立第一商業高等学校、東京都立第二商業高等学校、東京都立芝商業高等学校、東京都立江東商業高等学校、東京都立第五商業高等学校、東京都立第四商業高等学校、東京都立葛飾商業高等学校

【はじめに】



こんにちは。東京都立芝商業高等学校3年の東穂香です。石澤杏です。北山志穂です。小島廉です。今回の作品・研究発表は、東京都立商業高校7校による合同の発表です。この7校は平成30年度に商業科からビジネス科に学科を改編しました。私たち3年生はビジネス科1期生で、2年生の時に学校設定科目「ビジネスアイデア」を学習しました。この科目は、マーケティングに関する専門的な知識と技術を習得しながら、ビジネスについて創造的に考える力と態度を養うことを目標としています。

今年の2月8日土曜日には各校の取組を共有するため「ビジネスアイデア実践報告会」が開催され、それぞれの代表生徒が一年間の学習成果を10分間で発表しました。今回の映像は、その様子をダイジェスト版に編集したものです。どうぞ御覧ください。

【都立葛飾商業高校の発表】

私たち企画班は「日常のあるあるから新商品を企画する」というテーマで活動しました。

突然ですが皆さんはゴミの処理が面倒だと思ったことはありますか？このグラフを見ての通り、

ゴミの処理が面倒だと思っている人は圧倒的に多いようです。では、なぜゴミの処理が面倒なのでしょう。そこで面倒だと答えた人の中の主婦の声を聞いてみたところ、腰が痛い、手が汚れる、結びにくいといった多数の意見が出ました。

私たちは少しでも解消したいと思い、ミルフィーユ巾着ごみ袋という商品を考えました。

このごみ袋は既に行った時点で一枚一枚が別々



になっているのではなく、十枚重なっている状態です。この状態はまるでミルフィーユのように何層にもなっているので、ゴミがいっぱいになったら新しいごみ袋を付け替える手間を省くことができ、使い勝手がいい商品となっています。

巾着の紐の部分引っ張り結ぶことでゴミをまとめることができます。ゴミを取り出した後も層になっているので一回一回ごみ袋を取り替える必要はありません。このごみ袋を捨てた後でも残り9回楽をすることができます。このミルフィーユ巾着ごみ袋を使って快適な生活を過ごしましょう。

【おわりに】

各校の「ビジネスアイデア」の取組は、いかがでしたでしょうか。今後はこの授業で身に付けた力を、3年生で履修している「課題研究」等の授業に生かしていきたいと思います。以上で、東京都立商業高校7校による合同発表を終わります。御清聴、ありがとうございました。

第62回全国産業教育振興大会（大分大会）

第62回全国産業教育振興大会（大分大会）は、参集型開催をせず、産業教育の振興のための決議を
書面で行うことと致しました。決議文は、産業界と教育界の強い連携の下、専門高校の一層の充実・発
展に全力を尽くして取り組むことを謳っています。

【決議】

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の専門学科及び総合学科を設置する高等学校（以下「専
門高校」）は、職業に必要な専門的知識、技術・技能を身に付けた職業人を育成し輩出することにより、
我が国の社会や経済の発展に大きな役割を果たしている。

今日、我が国では第4次産業革命が進展し、AIやIoTなどの急速な技術発展により、産業構造も劇
的に変化するとともに、併せてグローバルな競争も激化してきている。このような中、職業に必要とさ
れる知識・技術も高度化してきており、これに対応した人材育成が強く求められている。また、一方で
は、人口減少や高齢化の進行により、特に地方においては地域産業の担い手の減少とともに地方経済の
縮小など多くの課題を抱えている。さらには、今年は「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大により
学校での教育活動や経済活動も含めた社会全体が危機的な状況に直面し、生活様式や就労形態などの社
会システムの変容が迫られる状況となっている。

このような状況の中、我が国が将来にわたり発展・繁栄し、豊かな社会を築いていくためには、自ら
の将来の仕事に対し、明確な目的意識をもって専門高校で学ぶ生徒達の力は必要不可欠であるとする。

「全国産業教育振興会連絡協議会」では、産業界と教育界の強い連携の下、専門高校の一層の充実・
発展に全力を尽くし、次の事項の実現に向けて取り組むことを決議する。同時に、現在、国において「新
時代に対応した高等学校教育の在り方について」の議論が進められているが、専門高校の重要性を、あ
らためて明確化していただくとともに、国及び地方公共団体等におかれては、我が国の持続的な成長・
発展に欠かせない専門高校の充実・発展に格段の御理解と御支援をお願いする。

一．産業界が必要とする知識や技術・技能を身に付けた職業人を育成する上で欠かせない施設・設備を
緊急的に整備をするため、国庫補助による格別な支援及び公立学校に対する地方財政措置の拡充、産業
界が中核となり地方自治体等と連携した職業人を育成するための取組の推進とその支援

一．少人数指導を可能とする専門教科担当教職員定数の改善、養成・採用・研修等の充実、社会人実務
経験者の積極的な任用など、専門高校における教育実施体制の充実・強化

一．資格取得等のための検定試験、各種発表会やコンクールなど、専門高校生が取り組む活動への支援
並びに小・中・高等学校等における職場体験やインターンシップ等の体験活動を取り入れたキャリア教
育の一層の推進とその支援

一．就職における採用枠の拡大、地元企業等への雇用機会の拡大、女子採用の促進、学業を優先した健
全な学校教育を担保する地域の実情に応じた就職制度の適切な運用

一．専門高校での学びを積極的に評価する大学等入学者選抜の実施・拡大、高等学校専攻科からの大学
等への編入学の積極的受入、専門高校生（専攻科生徒を含む）の保護者の経済的負担軽減を図るため、
就学支援の充実及び大学進学後の奨学金の拡充・充実

一．専門高校についての理解・啓発を図る「全国産業教育フェア」等への支援、中学校における技術、
家庭の免許を持った教員の配置拡充、専門高校と小・中学校及び大学等との連携した取組の推進とその
支援

一．ICT教育環境の整備、オンライン学習環境の整備など、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡
大に対応した教育環境の整備、「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大の影響による就職活動及び
大学等入学者選抜における配慮とその支援

以上決議する。

令和2年10月24日

第62回全国産業教育振興大会（大分大会）

報 告

令和 2 年度 総会・講演会 報告

令和 2 年度の東京都産業教育振興会総会及び講演会は 6 月 30 日（火）に開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から、総会は書面による開催、講演会は中止とさせていただきます。

会員各位の慎重なる御審議の結果、報告事項 5 件及び議案 6 件は原案通り承認されましたので御報告いたします。

- ・報告事項 (1) 令和 2 年度 会長、副会長の選任結果について
- ・報告事項 (2) 令和 2 年度 教育庁内の東京都産業教育振興会役員について
- ・報告事項 (3) 令和 2 年度 産業界会員功労者（永年会員）の表彰について
 - 株式会社秋月電子通商
 - エス・イー・シーエレベーター株式会社
 - 株式会社読売新聞社
- ・報告事項 (4) 東京都産業教育振興会のロゴマークについて
- ・報告事項 (5) 「東京の産業教育の変革に向けた提言」について
- ・第 1 号議案 令和元年度事業報告（案）
- ・第 2 号議案 令和元年度決算書（案）
- ・第 3 号議案 令和元年度監査報告
- ・第 4 号議案 令和 2 年度東京都産業教育振興会役員（案）
- ・第 5 号議案 令和 2 年度事業計画（案）
- ・第 6 号議案 令和 2 年度予算書（案）

総会資料は会員企業、学校等に配布済みです。続きまして、本年度の役員を紹介いたします。

会 長 西澤 宏繁（留任）
副 会 長 金子 昌男（留任）
同 小林 治彦（留任）
同 小堀 卓二（新任）
（東京都立農芸高等学校長）

理 事 長 藤田 裕司（留任）

常任理事 谷 恵理子（新任）

同 落合 真人（留任）

また、同日開催を予定しておりました講演会は会誌「東京の産業教育」第 58 号で紙上開催とさせていただきます。

講師：岡部幹彦氏

公益財団法人江川文庫理事
（元文化庁主任文化財調査官）

演題：「興味と関心を原動力にみずから学ぶ力を育む—博物館で新たな学びを—」
（講演要旨は 42 ページから 49 ページに掲載）

なお、総会終了後、産業界会員功労者（永年会員）として表彰された株式会社秋月電子通商様、エス・イー・シーエレベーター株式会社様、株式会社読売新聞社様に表彰状と記念品を届けました。



株式会社 秋月電子通商様



エス・イー・シーエレベーター株式会社様



株式会社 読売新聞社様



講演会・講演要旨

「興味と関心を原動力にみずから学ぶ力を育む
—博物館で新たな学びを—」

講師：岡部 幹彦 氏

公益財団法人江川文庫理事（元文化庁主任文化財調査官）

令和2年6月30日に予定しておりました東京都産業教育振興会主催の講演会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止としました。講演会の講師をお願いしておりました公益財団法人江川文庫理事の岡部幹彦様に講演要旨をご執筆いただきましたのでご紹介いたします。（事務局）

1 挑戦する学び—《みずから学ぶ力》《考える力》
そして《実行する力》—

新型コロナウイルスの急激な拡大にともなう深刻な情報が日々飛び交う中、ひとときわ明い話題があった。小惑星探査機はやぶさ2が地球からおよそ3億キロメートル離れた小惑星リュウグウのサンプルを採取し、分離されたカプセルが無事に回収されたニュースだ。

しかし、この壮大な挑戦の成功のおよそ2週間前に、もう一つのロマンあふれる挑戦の成功が報じられていたのをご存じだろうか。「成層圏から奇跡の帰還『思い描いていた映像が撮れた』長野県の高校生の気球8年ぶりに発見」（SBC信越放送2020年11月21日配信ほか）というものだ。旧長野県飯田工業高等学校（現長野県飯田OIDE長姫高等学校）の機械科に属していた8人の生徒たちの快挙だ。

2台のカメラやGPS機能を用いるためのスマートフォンなどを搭載した気球を飛ばし、パラシュートで降下した機材をスマートフォンの位置情報を利用して回収しようとするものであった。残念なことに降下地点が電波の圏外であったため当時は

回収できなかったが、発見され届けられたカメラには、およそ32000メートルの高度からの映像が鮮明に記録されていた。

授業の課題として取り組まれたという。こうした大胆な挑戦的課題を指導した教員の方の指導力も高く評価されるべきと思う。具体的にどのようにこの課題への挑戦が生徒たちによって進められたか詳しい情報を得ていない。しかし、彼らがいくつもの問題解決を図っていることは容易に想像される。機器類をどうするか、機器類の重量と浮力を得るために必要な気球の体積、予定高度まで破裂しない気球の素材や構造、破裂後に自動的に作動するパラシュートの仕組み、回収のための降下位置情報をどうするかなどなど。これらのすべてを高校生が、理論的かつ技術的そして実践的に解決して気球として作り上げるのは想像以上に困難なことであったと思う。そして8年というタイムラグを隔てではあるが、彼らによって練られた綿密な計画が誤っていなかったことが証明された。さらに私はこれらとは別な点でも彼らの計画の周到さに驚いた。それは気球を福井県永平寺町まで運んで飛ばしたことだ。理由は人口の密集地や空港に降下するのを避けるためであったという。機器類に係わる事柄のみならず社会的な影響をも視野に入れて検討を重ねて実行されたのであった。

回収され、映像が確認されたことで、自分たちが成し遂げた挑戦の成功にあらためて大きな喜びを覚えるとともに心の底から湧き出てくるような自信がもたらされたものと思う。

この高校生たちのいくつもの問題解決を積み重

ねる持続的な思考力の強靱さとそこに発揮される高い能力。

こうした課題に取り組む授業があることにあらためて驚くと同時に、彼らが職業学科に籍を置く高校生であることを確認し深く納得できるものがあった。

この8人に限らず職業学科の高校生たちは、日々じつにさまざまな実践を行っている。航海実習や漁業実習、製品や作物の生産実習から新種の開発や品種改良、高付加価値農産物の開発、インターンシップによる実務実習まで、自然や、実際のものや状況を対象としながら、現場での経験を重ね、現場で考え、経験からみずから学んで現場での課題に対応し遂行する能力を身につけていく。彼らの学習の最大の特徴は、いずれも実際のモノやコトを対象とした現場での学びを行っている点である。抽象的な理論や知識のみが求められるのではなく、実際の現場に立ったときに成果を生み出すために必要な能力や技術を身につける学習である。そのためにモノやコトを観察し、考え、計画を立て、シミュレーションを行い、実際に取り組み、経験値を上げてゆく。指導教員などのサポートやアドバイスもあるのだが、あらかじめ用意された「答え」を頭で理解するのはまったく異なるプロセスだ。

自身の高校生活を振り返り、こうした学びを具体的に想像できる人は多くはないだろう。そこでは教科書と参考書と問題集とノートの中で完結する学びではけっして得られない、経験をとおして《みずから学ぶ力》《考える力》そしてそれらを《実行する力》を身につける学びが学校教育の枠組みの中で実現されている。このことこそ職業学科生たちの最大の強みである。気球の高校生たちの示した能力は、こうした学びの集大成と言える。

2 疑問という興味と関心—学びの原動力—

《みずから学ぶ力》《考える力》《実行する力》を

学校の正科を離れたところで身につけた高校生が高い能力を発揮した例も少なくない。最初のきっかけは「なぜ」「どうして」という疑問からスタートし、その答えがないからみずから探求する。疑問というかたちで課題を見つけ、解決方法を模索し、その過程で《みずから学ぶ力》《考える力》《実行する力》を身につけ、答えに到達する。少し気をつけていると、こうした高校生たちの活躍が見えてくる。

疑問の答えを見つけ出し国際的な賞を得ただけでなく、さらには企業と共同で世界初の商品化に成功した例がある。愛媛県の高등학교のクラブ活動である。愛媛県立長浜高等学校にある水族館部という珍しいクラブ活動に参加する高校生だ。

カクレマノミがイソギンチャクを住みかにながらイソギンチャクの刺胞に刺されないのはなぜか。この疑問を探求し、その理由がカクレマノミの体表粘液のマグネシウム濃度の高さにあることを解明。つまりイソギンチャクは海水よりもマグネシウム濃度が低い対象にのみ刺胞での攻撃を行うことを解明したのだ。これ自体が画期的な成果だが、さらに後輩たちが研究を続け、その原理を応用した世界初の《クラゲ除けクリーム》を企業とともに製品化した。高校生レベルを超えたなどというのは、彼女らの探究心の強さを評価していない表現だ。もちろんこのクラブ活動を指導した教員の指導力もあったろう。しかし、教員が答えを持っていたのではない。

ほかにもこの2年間ほどの間にニュースとなった高校生の例をいくつか挙げてみよう。ダンゴムシとワラジムシ。よく似ているのに違いがあることに気づいて小学1年生で飼育を始め、さらに弟の飼うナメクジのケースにはカビが生えるのに、ダンゴムシのケースにはカビが生えないことに気づいた。そしてダンゴムシを11年間研究し続け、高校1年生でフンの中の細菌に防カビ力があることを究明した島根県の高中生。また、セミの成虫の1週間寿命説は

俗説に過ぎず1か月は生存することを、捕獲、マーキング、解放、再捕獲をつうじて証明した岡山県の高校生。住宅地図にも載らず、使われずに放置された古い石橋を調査し、石材を縦方向に組む珍しいリブアーチ型の石橋であることを突き止めた福岡県の高校生。どれもその疑問の解明に注がれたエネルギーは並大抵のものではなく、到達した「答え」もじつに価値のあるものとなっている。

興味と関心をもった対象に対して彼らが発揮し、また、そのプロセスを通じて獲得した能力の高さ。いずれも誰かがあらかじめ用意した「答え」をなぞったものではない。

もちろん仲間や家族や教員のサポートなどダングムシの高校生は島根大学の機材を借りて細菌のDNAを解析一の環境も大いにプラスに働いていることはこれらのニュースからも見て取れる。しかし、「なぜ」「どうして」「どうなっているのか」と問いを重ねて、前進しつづけた原動力は彼ら自身の中にある。誰かに聞いたら答えが返ってくる、答えが返ってこなければそこで終わりということにしていないのは紛れもなく彼ら自身だ。疑問というかたちの興味・関心。学びの大きな推進力を生み出すエンジンである。しかし、ともすると教える側は疑問を解消するのが自分の使命であるかのように思い込んでいないだろうか。ときには疑問をより明確に自覚化させるのも深い学びにつながるサポートである。

3 あらかじめ用意された「答え」—教育のイメージ—

生涯学習を考えると、それぞれの興味と関心が原動力となって学びが進む。そう考える私はこうした高校生をはじめ多くの子どもたちの主体的な学びのニュースに接するとメモを残している。しかし、その一方で、みずから学び、みずから考えることと学びとを結びつけることができずに、

あらかじめ用意された「答え」を受け入れることが学びと捉える多くの人々の存在も気になっている。そしてそれは「学習」あるいは「教育」についての誤ったイメージが原因だと考えている。

そこで私は博物館教育を扱うとき、つねに《学び》という言葉を使っている。「教育と学びは同義か否か」といった論点からではない。「教育」という言葉を用いたときに、受け手の多くがほぼ同じイメージをもって受け止めていることに気づいたからである。同じイメージとは、学習すべき対象・内容はつねに整理されて用意され、与えられるものであること、そして教育を受ける側は、それを懸命に努力して忠実に受け入れるというものだ。

なぜこうしたイメージをもつことになるのか具体的に分析する機会を得られずにいる。しかし、多くの人にとっての「学習」あるいは「教育」のイメージは、ほとんど学校教育のみによって形成されているのではないだろうか。確かに学校教育では、学ぶべき事項とそれをどのように理解するかがあらかじめ定められている。そして基礎的な事項を学ぶ初等教育においてはそれがより厳格に行われているように感じられる。

こうした思いは私の個人的な経験によるのだろうか。小学校の理科で昆虫を学んだ。その体のつくりの特徴とともに、卵を産み、幼虫からさなぎ、そして成虫へと変化することを学んだときに、「昆虫にも卵を産まないのもいる。銀バエのお腹には小さなウジが入っている」と、ハエ叩きで潰れた銀バエを紙でつまんで捨てたときに見たたくさんの小さなウジを思い出していた。半世紀も前のことだが、「例外は教えないのだ」と同時に例外を知っていることに少し後ろめたさを感じた。むろん発言などしてはいない。「触れてはいけないこと」と自分の中で処理したことを覚えている。

この授業の進め方に問題あったわけではない。基本や基礎を学ぶとはそういうものだろう。多くの教員の方々が、児童・生徒たちの興味や関心を引

き出し、主体的に授業に取り組めるように心血を注いでいる。そうした個々の教員の方々の努力にもかかわらず、単元や学期ごとのテストや試験、さらには入学試験のための学習が「学習」や「教育」のイメージの形成にもっとも強く関わっているのではないだろうか。試験のたびごとに繰り返された試験勉強の経験が、そして入学試験を突破してきた実績とみずからの学習方法に対する安心感が、試験勉強や受験勉強としての学習を肯定的に受け止める作用をしているのであろう。そうした学習は、求められる模範的解答を準備するためのものであり、学びの力や考える力を育むものではない。

前述した「学ぶべきものはあらかじめ整理したかたちで用意されている」というイメージは、学校教育というよりも、むしろ試験勉強、受験勉強によって形成されているのかもしれない。

4 モノを見ること・モノから学ぶこと

学びのイメージについて記したのは、それが原因と考えられる残念でならないことがあるからだ。博物館・美術館の展示を見る人々の視線の動きだ。展示物の前に進みながらチラとモノに視線を投げかけ、近づいてキャプション（題簽）を読む。解説パネルがあれば、これも丁寧に読む。そして多くの場合、もう一度チラと視線をモノに向けて確認すると、次の展示物へと進む。モノに視線を向けている時間よりもキャプションや解説を読むことに多くの時間を費やしている。展示を見る行為には二つの側面がある。一つは、モノそのものに主体的に向き合い、能動的にこれを見てそこから気づきあるいは感興を得る行為である。そしてもう一つがモノについての情報を得る行為だ。この二つの側面のうち、後者、つまり主として情報を得る行為のみを熱心になさっている方々を私は肯定的に受け入れることができない。むしろ「残念」と感じている。なぜなら、実際にモノそのものを見ることは博

物館でしかできないからだ。

モノそのものを観察しみずから思いを巡らせて気づきを得るよりも、それをどう見るべきかが用意されることを前提として観覧している。熱心に学習しようとする人ほど、熱心に文字を追ひ、そこにあらかじめ用意されているであろう情報をただひたすら受け入れようとする。結果としてモノに意識が向けられていない状況が作り出されている。

博物館・美術館もこうした人々の「ニーズ」に応えようと「努力」している。「説明が少ない、不親切」との指摘を受けてより詳しい説明を用意する。ときにはそれが「文字が小さくて読めない」となり、結果として展示物が説明パネルに主役の座を譲り説明に埋もれてしまう。そうして、観覧者は説明パネルを読むことにいっそう集中し、モノそのものに視線を向ける時間がさらに短くなる。根底にあるのは、繰り返しになるが、学習すべき事柄が整理され提示されていることへの期待にはかならない。みずからのもつ既存の知識とモノそのものを観察することによって得られる新たな気づきをジグソーパズルのように一つ一つ繋いでゆくことに関心が向かない。答えがすぐに与えられないと満足できない。たとえ既存の知識が少なくても、得られる気づきが乏しくても、自由に想像を広げることにはできるはずだ。あるいは「こちらはなんとなく好き」「こちらはつまらなそう」と感じている自分自身を対象として考えてみることも可能だ。モノを見ることはまずはモノと自分との対話なのだから。

博物館でモノを見るよりもキャプションや解説パネルなどを読むことに集中する、つまり整理された情報を得る学習が博物館でも行われている現状について記した。学芸員もまた学術的に整理された情報を正確に分かりやすく伝えることのみを専門職としての使命と考えてしまっていないか。私自身が博物館施設で働き始めて長い間、みずからが専門を学んだ職員として、社会教育施設の職

員として、「より豊かで正確な情報を分かりやすく伝えること」のみを考えていたのも、私自身がそうした教育のイメージを持ち続けていたことにはかならないだろう。

こうした自身の反省を踏まえて、博物館教育を論ずるとき《学ぶ》を用い、「教育とは知識を伝えること」というイメージを払拭しようとしている。実際に今日の博物館での学びは、学びの内容も学び方もじつに多様である。みずからの眼でモノをじっくり観察し、気づきを得て楽しんでいる観覧者も着実に増えてきている。

私は国内外の博物館・美術館に足を運んで自身の目で見るとしている。比較的まとまった日数を取れるようになった退職後は、ヨーロッパの地方博物館を巡り歩いている。既に訪れたことのある大規模博物館も無視はしないが、むしろ地方館で活動が活発な館、展示や教育活動に特色のある博物館に焦点をあてている。

現地で得た情報で訪問先を決めることも少なくない。だから日程も現地で変わる。ホテルもネットと電話で確保する。シニア・バックパッカーと自称する旅である。こうした旅で、ここに記した残念な見方を払拭するための工夫のされた展示に出会った。

主体的にモノと向き合うよう、見えているのではなく、見るためのアクションを求める展示や、キャプションを前面に出さず、何よりもモノを見ることを求める展示。さらに説明をいっさい加えない展示についても紹介しておこう。

5 見せない展示と説明しない展示—主体的に学ぶ工夫—

ヨーロッパの博物館は、その歴史が長いだけに、展示にも興味深いさまざまな工夫がなされている。その中で今回のテーマにふさわしい二つの展示方法を紹介しよう。一つは展示品を見えている状態

にして展示をするのではなく、観覧者に見るための行動を求め、行動を起こすことによって始めて見ることのできる展示だ。もう一つは展示品とキャプション・解説パネルとの間に隔たりを作る展示、つまりモノとその情報を離しておく展示だ。したがって、観覧者はまずはモノと向き合うことになり、その後に情報を得ることになる。

例えば前者の展示には、小さくコインロッカーのように仕切られたケースのガラス面がシートで覆われ、観覧者が手の届く距離まで近づいてシートをめくって見るもの。少しだけ隙間を空けた抽斗式のケースに展示品が収められ、観覧者はそれを引き出してはじめて見ることが出来るものなどである（いわゆる収蔵と展示を兼ねる収蔵展示ではない）。通りすがりに離れていても「見えている」ことによって「見た」つもりになってしまうことを避け、まずは観覧者が近づいて、見るための行動をとって「見る」展示である。言い換えれば、観覧者がモノを見るように仕向ける展示だ。

映像展示でもスクリーンやモニターに映っているのではなく、双眼鏡のようなレンズを覗いて見るものもある。

これらの展示に共通するのは、見るための行動をとらせることにより、自然に観覧者が見ることに集中できるように、そして主体的に展示物と向き合うようにと誘うのである。

後者のモノとその情報を離しておく展示の例を挙げると、展示品がなんの表示もなくただ整然と並べられたケース。そしてキャプションや解説はケース下部の抽斗の中のパネルにイラスト付きで記されているもの。あるいは仕切られたケースとケースの間に収納されたパネルを引き出すとそこに解説があるというものなど。

これらの工夫は、まずはモノそのものを予断を排して観察し、観察を通じてみずからの気づきを得させようとするものだ。観覧者の先回りをするように情報を提供することをあえて避けているのだ。

さらには説明をあえてしない展示がある。文字や音声による説明がまったくない。では、説明をせずに何が提供されるのか。それはよく考えられ工夫された体験型の展示物をみずから動かして（場合によりみずからが動いて）体感する、経験することを通じて、不思議さや面白さ楽しさ、自然界にあるものや人間の叡智の素晴らしさに気づくそうした展示だ。

ポーランド出身の偉大な天文学者に因んで名付けられたコペルニクス科学センターという博物館施設がワルシャワにある。2010年に一般公開されてすでに10年を経過するが、予約チケットを持たないと入館できない日があるほどの盛況だ。家族連れから、子ども同士、青年のグループやカップル、お年寄りの団体など、じつに多くの来館者であふれている。そして誰もが一心に体験型の展示に身を乗り出して取り組む姿は、他の博物館ではなかなか見られない光景だ。空間の連続する広い展示室には、400以上の体験型展示物があり、見るだけの展示はごくごく一部分に限られる。文字で知識を与えようとしていない。みずから触り、動かし、体験して、何よりもまず《不思議さ》《素晴らしさ》《楽しさ》をしっかりと感じ取ることに重点を置いた展示である。「わぁっ、えっ、どうして、すごい！もう一度」という声が聞こえてきそうな、夢中で取り組む姿があふれている。

例えば人間の骨格や関節の動きが、来館者が自転車を漕ぐとその姿と動きが自転車と平行に置かれたハーフミラーの大型液晶画面に映るとともに、動きをシンクロさせた全身骨格が映し出される。もちろん、その大きさや動き



は自転車を漕ぐ人物に合わせてあり、まるでレントゲン写真を見るようになっている。自転車を漕ぐ動作で骨格や関節がどう動いているのかが一目瞭然であり、関節の自由でスムーズな動きの素晴らしさがわかる。

また別の一画には、浅い2段のプールが作られていて、水車、アルキメデス式スクリュープポンプなど、何種類もの揚水装置があって、来館者がハンドルを手で回して稼働させる。大学生らしい二人の男性が何ごとかを論じ合いながら真剣に取り組む姿もあった。



これらの体験型展示物には、いずれもA4判ほどの大きさの説明ボードが置かれているが、そこに原理や理論の説明はいっさいない。あるのは操作方法の説明のみだ。科学に関する人間の叡智をつうじて、自然と人間双方の素晴らしさ、不思議さ面白さをまさしく説明抜きに体感し、感じ取ることに集中させる。知識を伝えるのではなく、各自の中に興味と関心を目覚めさせることに重点を置いている。

帰国してあらためて近隣の都市の科学館を訪れてみたが、体験型の展示にも背後の壁面にイラスト入りの丁寧な解説がされている。全体として「このことを学習してほしい」という教える側の姿勢が目立つ展示であった。

コペルニクス科学センターの提供する学びは、まさしくみずからが主体的に取り組む、気づきを得て、興味と関心を深める。もちろんそこに「なぜ」という問いも含まれるだろう。自由に出入りでき

るラボもあり、さまざまな機材器具が用意されていて、さらに学びを深めることも可能となっている。

6 教える者のいない学び—学びの手法としてのワークショップ—

画一的な答えの用意されていない学習は国外の博物館ばかりでなく国内の博物館でも行われている。その一例として、近つ飛鳥博物館の小学生向けのアウトリーチ（出前授業）の「こぶん人になりきってみよう」を取り上げる。私がこのプログラムを知ったのは20年ほど以前のことだが、同館のウェブサイトを見ると、少しかたちを変えて今でも続けられているようだ。

その進行は、①銅鐸・銅鏡に描かれた絵などを見る、②古墳時代の生活の様子を思いつくまに話し合う、③各児童が話し合いを参考に4コマ漫画に描く、④ストーリーを作り短い劇にする、⑤配役、せりふ、動きを決める、⑥博物館が用意した衣裳や道具を身につけ演じる、⑦博物館への質問、となっている。

古墳時代人を想像するというのは、みずからがその具体的なイメージを紡ぎ出す点において主体的な行為にほかならない。もちろん他の児童の発言に触発されることもあるだろうが、児童たちが銅鐸・銅鏡の絵などから古墳人の生活の様子を想像し共有する。想像は、未知なるものへの興味・関心を育む。想像は、絵をヒントにした自由な気づきでもあるだろう。

この時点で、児童の想像がどれだけ史実に即しているかなどまったく重要ではない。想像というプロセス自体が、古墳人とその暮らしに興味・関心を育む大きな契機となっていることが大切だ。この児童たちは、その後さまざまな形で古墳時代に関する情報にふれるだろう。そのときに、興味と関心が芽生えていた彼らは古墳時代人のことをより豊かに学ぶに違いない。そして誤った想像は

そのときに修正されるだろう。想像が興味と関心を芽生えさせ、興味と関心が主体的な学びの原動力となって学びが進んでゆく。こうした、興味と関心を育む教育をこの例のほかにも多くの博物館が実践している。

あらかじめ用意された答えのない学びについて縷々記してきた。ここであらためてワークショップという学びの手法について確認しておきたい。なぜならこれこそが凝縮されたかたちの「あらかじめ用意された答えのない学び」だからだ。

一般に体験型で何かを作ったり協同で作業をしたりする講座は広くワークショップと呼ばれているが、ここで取り上げるワークショップはそれではない。講師や指導者といった教える立場の人を置かない学びだ。教える側と教えられる側という関係をいっさい作らず、ファシリテーターと呼ばれる司会・進行役のサポートのもとに、参加者自身が学習や問題解決に主体的に取り組むものである。ファシリテーターは結論を押しつけることをせず、先走りすることなく、個々の発言や取り組みに評価を下さず、参加者の学習や問題解決のプロセスを必要に応じて支援する。まさしく参加者の自由で主体的な学びである。

あらかじめ用意された答えどころか、そもそも教える側が存在しないのである。なんらかのテーマに関して、討論や実際の作業や行動をつうじて、参加者同士が経験と知識を共有する主体的な学びだ。参加者自身が《気づき》を得、他の参加者と《気づき》を共有しながら、学びを進めていくものだ。《気づき》の自覚は喜びと満足感を伴い、《気づき》の共有は喜びと満足感の共有でもある。

先の「こぶん人になりきってみよう」も子どもたちの自由な想像を尊重し共有することをつうじた学びであり、大きく捉えるならワークショップとみることもできるだろう。

7 まとめにかえて

ここまで見てきたように、本来、博物館は展示活動でも教育活動でも、人々の興味や関心に基づいた自由で主体的な学びを実現する場である。そうした視点であらためて博物館を捉えなおして活用する機運がしだいに高まってきている。とくに若い人たちの学びに関わる教員の方々には、ぜひ博物館ならではの機能を活かした利用を増やしていただきたい。

総合的な学習の時間の段階的な導入が開始された平成12年度は、のちに博学連携元年とされている。ここから博物館と主として小・中学校との間でさまざまな連携事業が展開されてきた。しかし、その多くが教科単元の学習に博物館を利用するかたちであった。これに対して学校と博物館の役割の違いをふまえて、博物館の特性を活かした連携事業を進めようとするさまざまな試みがこの10年ほどの間に徐々に広がりを見せている。

博物館の特性を活かした連携事業については、何よりも教員の博物館理解が前提となることから、教員を対象とした展示解説や説明会も開催されてきた。その代表的な例として《教員のための博物館の日》が挙げられる。国立科学博物館を中心とする全国の博物館・美術館が、博物館に親しんでもらうこと、学習資源としての博物館を知ってもらうことを目的として開催している。今年度は新型コロナウイルスのため、開催館が昨年より減少しているが、昨年度は23都道府県の37の美術館・博物館で開催されている。科学系の博物館も歴史系の博物館も美術館も参加しているので内容は各館さまざまだ。

このほかにも、各館が独自に取り組む教員のための講座や見学会などが実施されているが、中には教員と博物館の継続的な連携から実践事例を開発しようという山梨県立博物館の《かいじむティーチャーズクラブ》というものもある。実践事例と

しては、高校2年生を対象とした「古文書を読む」という出前授業がある。扱われた古文書は離縁状だ。離縁状の性格や甲斐国で離縁状が多い理由の事後学習も行っている。高校生の関心は予想以上であったという。

小学校では今年度から、中学校では来年度から、高等学校では再来年から始まる新しい学習指導要領では、どのように学ぶかとして《主体的な学び》《対話的な学び》《深い学び》が挙げられている。これまで述べてきたように、こうした学びを学校の教室の中だけで達成するのはなかなか困難なことと思う。教室の外に目を向けていただき、博物館という学びの場をぜひ活用していただきたい。

とくに東京都は全国でもっとも博物館の数が多く、また種類も多い地域である。博物館の方でも、新指導要領を意識した新しい学びの方法を教員の方々とともに作り出そうと準備をしている。幅広い興味と関心を、さまざまな学びの可能性を、博物館というモノと向き合う場で広げていただきたい。

【おうちミュージアム

—おうちでたのしくまなべる—のご紹介

ステイホームが求められる状況の中、全国各地の博物館・美術館およそ220館が参加して、さまざまなアイデアで、ミュージアムを楽しむプログラムを用意しています。ウェブサイトやSNSで探してチャレンジしてみてください。

検索ワード「おうちミュージアム」

令和2年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

令和2年度公益財団法人産業教育振興中央会の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会の「中学校技術・家庭科教育功労者」「専修学校産業教育功労者」に対する表彰式は令和2年11月13日に予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止といたしました。

今回の受賞者は次の方々です（順不同・敬称略）。

I 御下賜金記念産業教育功労者（29名）

| | | |
|----------------|-----------|---------|
| 東京都立農産高等学校 | 主 幹 教 諭 | 遠 藤 和 彦 |
| 東京都立農業高等学校 | 校 長 | 齋 藤 義 弘 |
| 東京都立農業高等学校 | 主 幹 教 諭 | 宍 戸 寿 |
| 東京都立中野工業高等学校 | 校 長 | 橋 本 広 明 |
| 東京都立中野工業高等学校 | 主 任 教 諭 | 北 爪 武 幸 |
| 東京都立中野工業高等学校 | 主 任 教 諭 | 富 永 公 一 |
| 東京都立中野工業高等学校 | 主 任 教 諭 | 藤 松 幸 雄 |
| 東京都立北豊島工業高等学校 | 主 任 教 諭 | 高 橋 徹 |
| 東京都立足立工業高等学校 | 校 長 | 小 堀 隆 |
| 東京都立足立工業高等学校 | 主 任 教 諭 | 浅 賀 一 義 |
| 東京都立足立工業高等学校 | 教 諭 | 松 本 好 生 |
| 東京都立葛西工業高等学校 | 主 任 教 諭 | 酒 井 祐 治 |
| 東京都立町田工業高等学校 | 主 任 教 諭 | 片 岡 等 |
| 東京都立六郷工科高等学校 | 統 括 校 長 | 佐々木 哲 |
| 東京都立六郷工科高等学校 | 主 幹 教 諭 | 野 澤 幸 裕 |
| 東京都立芝商業高等学校 | 校 長 | 林 修 |
| 東京都立葛飾商業高等学校 | 校 長 | 昼 間 一 雄 |
| 東京都立葛飾商業高等学校 | 副 校 長 | 黒 谷 邦 男 |
| 東京都立葛飾商業高等学校 | 主 幹 教 諭 | 木 村 和 久 |
| 東京都立江東商業高等学校 | 主 幹 教 諭 | 小 倉 俊 悦 |
| 東京都立青梅総合高等学校 | 専修実習助手 | 鈴 木 利 津 |
| 東京都立つばさ総合高等学校 | 主 任 教 諭 | 志 村 晃 |
| 東京都立つばさ総合高等学校 | 実 習 助 手 | 佐 藤 聖 一 |
| 東京都立橋高等学校 | 主 幹 教 諭 | 大 坪 靖 幸 |
| 東京都立橋高等学校 | 主 任 教 諭 | 井 上 仁 |
| 東京都立橋高等学校 | 専修実習助手 | 萩 原 則 之 |
| 東京都立橋高等学校 | 非 常 勤 教 員 | 中 林 秀 夫 |
| 東京都立産業技術高等専門学校 | 教 授 | 奥 平 鎮 正 |
| 東京都立産業技術高等専門学校 | 教 授 | 山 口 知 子 |

II 中学校技術・家庭科教育功労者（12名）

| | | |
|---------------|---------|-----------|
| 中央区立日本橋中学校 | 副 校 長 | 磯 田 耕 司 |
| 新宿区立落合第二中学校 | 副 校 長 | 宇 野 頼 子 |
| 世田谷区立上祖師谷中学校 | 校 長 | 柄 澤 茂 之 |
| 豊島区立西池袋中学校 | 主 任 教 諭 | 藤 澤 美 子 |
| 北区立十条富士見中学校 | 校 長 | 松 本 洋 人 |
| 足立区立第七中学校 | 校 長 | 佐 藤 秀 直 |
| 足立区立東島根中学校 | 校 長 | 宮 下 みどり |
| 葛飾区立立石中学校 | 副 校 長 | 湯 通 堂 由加里 |
| 葛飾区立一之台中学校 | 校 長 | 入 山 賢 一 |
| 東村山市立東村山第六中学校 | 校 長 | 大 堀 浩 |
| 国分寺市立第二中学校 | 校 長 | 花 田 茂 |
| 稲城市立稲城第一中学校 | 校 長 | 跡 邊 昭 枝 |

III 専修学校産業教育功労者（なし）

受賞者を代表して

受賞者を代表し、一言御礼申し上げます。

我々 41 名は、校種や職種は異なりますが、それぞれの立場で生徒一人一人に、豊かな人間性を育み、我が国の産業人材育成に微力ですが貢献させて頂きました。

これからの産業教育では、先端的技術力のあるグローバル企業と学校が連携して子供たちを育て、地方創生に貢献できる情報科学系産業人材の育成が求められています。その基盤となる society5.0 が示す社会が既に到来しており、これまでの教育内容や方法が大きく変化して情報科学の知識やスキルが無ければ立ち行かない働き方になります。更に今年はコロナ禍の影響を受けその動きは加速しています。

今後、情報科学系企業と学校をどの様に繋いでいくのか、東京都産業教育振興会の立ち位置や役割は益々重要になるものと確信しております。

我々は、在職中に培った技術や経験を伝承し、後輩たちの授業革新に向けた果敢なチャレンジを支援していく所存です。

結びになりますが、今後も産業教育のますますの充実・発展をお祈り申し上げ、受賞者代表の謝辞にかえさせていただきます。ありがとうございました。

令和 2 年 11 月 13 日

東京都立六郷工科高等学校 統括校長 佐々木 哲



令和 2 年度 東京都産業教育振興会後援事業

下記の事業に対し後援を行いました。

- 1 第 36 回葛飾区産業フェア 工業展・商業展・観光展・農業展・伝統産業展
- 2 東京都立六郷工科高等学校他 3 校の企業連携教育成果発表会
- 3 第 8 回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会
- 4 令和 2 年度第 27 回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表会

令和2年度 産学懇談会

令和2年11月27日(金) 15:00～16:00
中央工学校

今年度の産学懇談会は計3回を計画しましたが、新型コロナウイルスの感染予防の観点から例年の形態で実施することが困難になりました。

コロナ禍の中で、如何に開催するかを模策しつつ実施方法を検討しましたが、第1回、第2回は新型コロナウイルスの感染状況から中止せざるを得なくなりました。

そこで第3回の開催を目指し、ネットワーク通信の可能性を探り、実施可能なオンラインのZoomを利用して開催することにしました。

第3回の開催に当たり、専門学校中央工学校(以下、中央工学校)学校長の松田正之氏に全面的なご協力を頂き開催の準備が整いました。

中央工学校教務部長の土田俊行氏には運営手法の準備を、教務課長の若泉栄氏には進行内容などの具体化をして頂きました。

参加者は事前に中央工学校のホームページを閲覧いただいた上で、オンライン会議に参加していただきました。



教務部長の土田俊行氏(右)、教務課長の若泉栄氏(左)

■中央工学校の概要

中央工学校は、明治42年(1909年)実務的な技術者の養成を目的に設立され、校歴112年を数え、一貫して「誠実で豊かな社会性を有する技術者の育成」のため、教育方針を「厳しい実務教育」と「人間涵養教育」としています。この間の卒業生総数は11万人で、それぞれの分野で活躍している実績があります。また新たに、文部科学省から

認可を受けた職業実践専門課程は、企業と連携して最新の知識・技術を身につけ、専門分野の継承と実践的な匠の技などを加えた改善、技術の継承に努め、人材育成を推進しています。

また、中央工学校はJR京浜東北線、営団地下鉄南北線の王子駅前に立地し、建築・木造・設備、インテリア・家具、舞台TV美術・イベント設営、土木・測量・造園、機械CADなどの分野があります。そして、学校グループは、教育分野の専門学校3校・各種学校1校を有し、各分野に多数の学科を有する専門学校です。

■中央工学校のホームページ閲覧(学校見学)

参加者にはオンライン懇談会に先立ち、事前に中央工学校のホームページの閲覧をお願いして懇談会に参加して頂きました。

ホームページには、生徒の授業風景の動画が多数掲載されており、専門学校の生き生きとした授業風景が映し出されていました。



中央工学校 ホームページ

■中央工学校の施設設備について

また、ホームページ閲覧により建築系施設を見学させていただきました。

他校と違った教員室(Teacher's Studio)を紹介し、Studioの名称は各実習室でも使われて

いました。教員室の固定デスクはなく、パソコンや資料は各自が持ち込んで使用するそうです。スタッフ同士のコミュニケーションも豊かになり、様々な発想、情報共有が出来る部屋になっています。

建築設備実習室 (Facility Studio) は初心者から経験者まで視覚的に配管レイアウトの塔槽類やポンプなどのプラントを構成する重要機器まで学べて、深い配管知識を求める研修活用も可能でした。



学校内の建築系教員室・建築設備実習室

■第3回産学懇談会

今回の産学懇談会は、中央工学校をオンライン会場として開催しました。

当校の教務部長の土田俊行氏、教務課長の若泉栄氏にオンラインのZoomをセッティングして頂き、URL、ID等を提供して頂きました。参加者は、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて15名の方々に参加を頂きました。



第3回産学懇談会の参加者

懇談会では、本会会長の西澤宏繁の主催者挨拶に続いて、参加者の自己紹介が続き、意見交換を行ないました。

■コロナ禍の授業対応

現在のコロナ禍の授業展開について、教務課長の若泉栄氏から、生徒の3密を避ける時間割を工夫した点について解説を頂きました。参加者からは学生への安全配慮と授業の展開について、質問が寄せられました。



中央工学校 コロナ禍の生徒時間割

■参加者のアンケートから

○コロナ禍での中央工学校様はじめ、ご参加になられた専門学校の皆様の教育活動について具体的に知ることができました。(産業界)

○皆さんがおっしゃっていたように、施設を直接見学できなかった点があるものの、コロナ禍における会議の在り方を模索することができたと感じた。(高校)

○各職場でクラスターがいつ発生するともわからないことを踏まえれば、当面の間はオンラインによる開催に「慣れておく」ことが望ましいのではないかと。(行政)

○コロナ禍において産学懇談会が開催できたことは良かったと思います。オンライン開催は通信環境やパソコンの性能、その他の機器(カメラ、チェンジャーなど)によって変わると思いました。(高校)

コロナ禍での第3回産学懇談会の開催に当たり、中央工学校の関係者の皆様には多方面でお世話になりました。心より感謝申し上げます。

令和2年度 第31回東京都産業教育振興会作文コンクール

(1) 入選者一覧

令和2年度の「作文コンクール」の応募作品数は、中学校の部では16校108作品、高等学校・専修学校の部では高等学校が21校130作品、専修学校が1校1作品で、全体総数では38校239作品でした。

昨年度（令和元年度）の応募作品数が、中学校の部では29校183作品、高等学校・専修学校の部では高等学校が16校105作品、専修学校が2校10作品で、全体総数では47校298作品でしたので、全体としては応募校、応募作品数ともに若干減少しました（応募校9校減、応募作品59作品減）。

今年度の応募数の減少には、コロナ禍の中での学校の職業体験の機会が設定できないなど、作品応募への体験活動が行なえなかったことや、夏休みの期間が短く長期にわたる自宅学習期間が有り、授業時間の確保のために作文指導の時間が十分に確保できなかったなどのことが背景にあると考えられます。それぞれの部の選考委員による第一次選考、第二次選考を経て、中学校の部では18作品（最優秀1、優秀2、佳作15）、高等学校・専修学校の部では高等学校が20作品（最優秀1、優秀3、佳作16）、専修学校が1作品（佳作1）、合計で39作品が入選作品として決定しました。

イラストの部は13作品の応募があり、1作品をイラスト賞として決定しました。

入選作品の題名及び入選者は以下のとおりです。

中学校の部

| | | | | |
|--------------------------|--------------|----|-----|-----|
| 最優秀賞 「名もなき家事」 | 新宿区立西早稲田中学校 | 3年 | 實 生 | 葉 |
| 優 秀 賞 AIとの共存 ～私たちの未来と職業～ | 新宿区立新宿西戸山中学校 | 3年 | 牧 野 | 萌 音 |
| 優 秀 賞 「ものづくりの喜び」とは | 北区立稲付中学校 | 2年 | 杉 浦 | 碧 |
| 佳 作 家族で作る料理は私の生きがい | 中央区立佃中学校 | 3年 | 岩 元 | 優 佳 |
| 佳 作 今日も元気にいただきます | 中央区立佃中学校 | 2年 | 岸 本 | 一 紗 |
| 佳 作 職場体験を通して学んだこと | 中央区立佃中学校 | 3年 | 田 中 | 碧 |
| 佳 作 笑顔の種 | 中央区立佃中学校 | 2年 | 塚 本 | み か |
| 佳 作 より良い世界へ、一歩ずつ | 中央区立佃中学校 | 3年 | 長 尾 | 桜 |
| 佳 作 苦手だった事を大好きな事に | 北区立稲付中学校 | 1年 | 滝 沢 | 佳 央 |
| 佳 作 自分自身への気付き | 北区立赤羽岩淵中学校 | 3年 | 佐 竹 | 満里奈 |
| 佳 作 夢のきっかけ | 北区立赤羽岩淵中学校 | 3年 | 高 橋 | 理 那 |
| 佳 作 将来の夢 | 北区立赤羽岩淵中学校 | 3年 | 三 浦 | 日向子 |
| 佳 作 授業を通して | 葛飾区立堀切中学校 | 3年 | 五十嵐 | 蓮 |
| 佳 作 職場体験で学んだこと | 葛飾区立堀切中学校 | 3年 | 梅 林 | めぐみ |
| 佳 作 職場体験で気づいた仕事に対する価値観 | 葛飾区立堀切中学校 | 3年 | 古 晒 | 真 緒 |

| | | | | |
|-----|----------------|--------------|----|------|
| 佳 作 | 受け取り手との関わり | 葛飾区立四ツ木中学校 | 3年 | 佐藤史織 |
| 佳 作 | 職場体験が教えてくれた私の夢 | 江戸川区立松江第四中学校 | 3年 | 内田妃咲 |
| 佳 作 | 自分は何をしたいのか | 江戸川区立松江第五中学校 | 3年 | 小川恵加 |

高等学校の部

| | | | | |
|-------|------------------------------------|------------------|----|---------|
| 最優秀賞 | 生命(いのち)と個性 | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | 3年 | 武田博乃 |
| 優 秀 賞 | 農業をして変わったこと | 東京都立農業高等学校 | 2年 | 芦沢かりん |
| 優 秀 賞 | 看護師としてどうあるべきか | 愛国高等学校 | 3年 | 松本百合子 |
| 優 秀 賞 | 実習から得たもの | 愛国高等学校 | 3年 | 山本結子 |
| 佳 作 | 今生きる私達に出来ること | 東京都立農芸高等学校 | 3年 | 岩本有未 |
| 佳 作 | 都市緑化の発達 | 東京都立農芸高等学校 | 3年 | 仲山祐未 |
| 佳 作 | 世界で活躍できる日本料理人をめざして | 東京都立農業高等学校 | 2年 | 阪口和紀 |
| 佳 作 | 視点が変わると | 東京都立農業高等学校 | 2年 | 高松美琴 |
| 佳 作 | 私が私になるまで | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | 1年 | 町 妃菜子 |
| 佳 作 | 食品を作ることもまた、楽しいことなのだ | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | 1年 | 村田彩羽 |
| 佳 作 | 私にできること | 東京都立町田工業高等学校 | 3年 | 山本 爽 |
| 佳 作 | 日本の工業高校に進学するぞ！ ～ネパールカトマンズからの挑戦～ | 東京都立六郷工科高等学校 | 3年 | サキャ アシス |
| 佳 作 | 開発途上国発展への私の挑戦 | 東京都立第三商業高等学校 | 3年 | 橋本咲良 |
| 佳 作 | 将来のために | 東京都立忍岡高等学校 | 3年 | 桐谷海月 |
| 佳 作 | 将来の夢 | 東京都立忍岡高等学校 | 3年 | 牧 京香 |
| 佳 作 | 病棟保育士への夢に向かって | 東京都立忍岡高等学校 | 3年 | 槇西寧々花 |
| 佳 作 | 新たに知る | 愛国高等学校 | 1年 | 構野瑠奈 |
| 佳 作 | 看護師と人 | 愛国高等学校 | 2年 | 杉本未来 |
| 佳 作 | 折り合いをつける | 東京工業大学附属科学技術高等学校 | 3年 | 高杉真由子 |
| 佳 作 | 私の未来設計図 | 日本工業大学駒場高等学校 | 2年 | 野口俊輔 |

専修学校の部

| | | | | |
|-----|------------|-------|----|------|
| 佳 作 | 二つの夢を追いかける | 中央工学校 | 1年 | 今野玲奈 |
|-----|------------|-------|----|------|

イラストの部

| | | | | |
|-------|--|------------|----|------|
| イラスト賞 | | 中央区立日本橋中学校 | 3年 | 土肥優生 |
|-------|--|------------|----|------|

(2) 最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

「名もなき家事」

新宿区立西早稲田中学校 3年 實生 葉

家庭においても、社会においても、私たちの生活は、多くの働く人によって支えられている。しかし私たちは、身近に働く人の工夫や努力をしっかりと見る事ができているだろうか。

「家事といえばどんな仕事がありますか。」こう聞かれたとき、多くの人が調理・洗濯・掃除などをあげるだろう。しかし、それだけでは私たちの家庭生活は成り立たない。家庭科の学習を通じて、私は「名もなき家事」の大切さを知った。

「名もなき家事」とは、調理や洗濯のように一定の呼び名がついているわけではなく、そしてあまり目立った家事として扱われない小さな仕事のことだ。

三年生になり、家庭科の授業で、ある一つの課題が出された。それは家の中で行われている家事を衣生活、食生活、住生活、家族に関するものの四つに分類し、全て書き出すことだった。私はとりあえず、思いつく限りの家事を順番に挙げていった。

日常の中で、家族の行動を見ていればもっと見つかるのではないかと思った私は、毎日注意して母の仕事を見るようになった。すると、毎日見れば見るほど課題のプリントに書き連ねる家事の個数は多くなっていくのだ。ゴミ箱に袋を掛ける、洗濯用ハンガーを片付ける、古新聞をまとめる。普段気付かないところでこんなにも多くの仕事があり、その一つ一つは小さなことだけれど、それが積み重なって膨大な量になっていることに気付いた。私たちの生活はそれらの積み重ねのおかげで成り立っていると感じた。

提出した課題プリントを使った授業で、よく調べられていた人のプリントが紹介された。先生がプロジェクトに映し出したプリントには、私が挙げた倍くらいの数の家事が記されていた。それを見ると私の気付かなかったものが多く、私の調べた「名もなき家事」は、ほんの一部に過ぎなかったのだ。だがおそらくその人が挙げたものも、「名もなき家事」の全てではない。生活の中には、無数の家事が隠れており、実際にやってみなければわからないこと、簡単に見えることでも実際にやってみると難しいことが多くあるということを知った。

また、実際に体験しないと気付かないものが多くある、ということ、私はコーヒーショップでの職業体験でも感じた。二年生の秋に行われた職業体験の初日、最初に学んだことは、コーヒーについて勉強することだった。私は、飲み物をつくり提供することやテーブルを掃除することが仕事だと思っていたが、それ以前にコーヒーの知識がそのお店で働く上でとても重要だったのだ。また、コーヒーショップでは、アルバイトの大学生も多く働いていたが、その人たちも社員さんと同様にコーヒーについて勉強していた。コーヒーショップでの職業体験は、そこに携わる全ての人が利用者の見えないところで努力や工夫をしている、ということに気付けた三日間だった。体験したからこそ、多くのことを発見できたのだ。

街は様々なお店であふれており、私たちが普段利用しているいずれのお店でも、私たちに見えない努力があるのだろう。職業体験を終えて、私はこう思うようになった。私たちは、観察をして、体験をして、初めて見えないものに気付くのだ。

家庭科での「名もなき家事」調べや職業体験での経験からも、私たちの生活は様々な人の見えない仕事で成り立っていると言える。そして、その一つ一つの内容を普段の生活で発見することは難しいだろ

う。だからこそ私は、多くの経験をして少しでも私たちの生活を支えているものを見つけていきたい。まずは家庭での生活から、少しでも家族の代わりに役割が果たせるように。また、社会に出て働くようになったときに見えない所でも誰かの役に立てるように。機会があれば、できるだけ多くの体験をし、多くの人の意見を聞いていきたい。そして、どんな些細なことでもその向こうに多くの人の努力や仕事があって成り立っているということを忘れずにいたい。

高等学校の部 最優秀賞

生命（いのち）と個性

東京都立瑞穂農芸高等学校 3年 武田 博乃

私は時折、首から血を流したまま「助けて」と私の目を見つめる鶏の夢を見る。そして、隣の家が飼っている鶏の鳴き声で目を覚ます。こんな日は目覚めが悪い。でもこれは、私が生きていく中で絶対に意味のあることだと思っている。

私の将来の夢は東京都の農業科教員になることだ。それは、農業科の先生に「あなたは教員になったら？」と言われたことがきっかけだった。しかし、その時には現実的なことではないと思い、真剣に考えてはいなかった。「私は農業科の教員になる！」そう強く思ったのは、高校2年生の、と畜実習の授業を受けたときからだった。

本校食品科では、2年生の2学期に総合実習の一環として、と畜実習の授業が行われる。私はこの授業で、『生命（いのち）』と向き合うとはどういうことなのかを心の底から思い知った。授業前日からソワソワとした気持ちがおさまらなかった。当日の授業は3班に分かれて実施された。私は2班だった。既に実習室の床は血に染まっていた。そして、小さく「コッコ、コ」と鳴く鶏の鳴き声の実習室に響いていた。実習が始まった。鶏を押さえつけ、先生が鶏の頸動脈を切った。その時私は、鶏と目があった気がした。それと同時に「助けて。」そんな声が聞こえた気がした。その光景を今でも鮮明に覚えている。それから少し鶏は暴れたが、そのまま頭を下にして放血器に入れられ、私は血が抜けるのを待った。放血器で暴れる鶏を見て、とても大きなショックを受けた。私は初めて、目の前で『生命（いのち）』が奪われるところを目にした。私にはこれから先の授業の記憶が無い。血が流れていく実習室の床、先生の手付いた鶏の血。とても衝撃的だった。忘れたくても忘れられない。いつまで経ってもその記憶が消えてくれない。そして実習が終わり、控室に戻った。そこには一部の生徒のにぎやかな話し声が響いていた。それを見た先生は、とても苦しそうな声で、「私の気持ちも考えてくれ。」「こんなことなら君たちに切っけ欲しかった。」と言った。先生はその日、計3羽の鶏の首をナイフで切っていた。

この日の夜、私は血まみれの実習室と首から血を流している鶏が私の目を見て、ずっとずっと「助けて！助けて。」と訴えてくる夢を見た。それから何日か、私はこの夢を見続けた。それでも私は「食卓に並ぶお肉から絶対に逃げてはいけない。」そう強く思った。私が食べられなくなれば、毎日と畜されていく家畜たちは報われない気がした。私はこの日から何かが変わった。『生命（いのち）』と向き合うとはこういうことなのか。改めて強く感じた。私たち人間は、できるだけ苦しめずに、一息にとどめを刺さなくてはならない。少しでも躊躇すれば急所を外れ、家畜たちは痛みにもがき暴れまわる。苦しめないように、そして無駄をつくらない。それが、家畜の『生命（いのち）』をいただく私たち人間が、唯一できる精一杯のことだと私は思う。

私たち人間は生きていくために食事をする。そのような中で、沢山の『生命（いのち）』の「生と死」

に向き合わなくてはいけないのだ。それを多くの人に知ってもらい、『生命（いのち）』の大切さを改めて感じてもらえるように、私は農業科の教員になり、多くの人に発信していきたい。

もう一つ、私が教員になりたいと思った理由がある。それは、一人一人の『個性』を「大切」に、「理解」してくれる先生と出会ったことだ。私には苦手なことが多い。何度やっても上手くいかず、親や周りの人には「そういうところが足りないんだ。」「そういうところが駄目なんだよ。」と言われることばかりだった。それを気にしていた私は、「完璧でなくてはいけない」。そう思っていた。そのような中、私の苦手なことやミスを、その先生は「あなたらしいね。」と言ってくれた。何度も「駄目だ」「足りない」そう言われてきた私の苦手なことを「私の『個性』だ。」と、そう言ってもらえた気がした。その時、私の中にあった苦しかったものが、楽になった気がした。「完璧ではない私」はずっと駄目だと思っていたが、全てを「完璧にしなくてもいい」のだと、初めて思うことができた。それからは、私の駄目なところは、逆に長所だとも思えるようになった。何度も失敗してどんなことを言われても、諦めずに何度もやり直し、結果を出すことができた。周りの人とどんなに差をつけられても、諦めずに続けることができた。今では私の長所になった。

高校生になって苦手なことを続けられたのはこの先生が「あなたらしいね。」と言ってくれたからだ。私は高校3年間で何度この言葉に救われただろう。「私は教員になりたい。」そう強く思うようになった。

私は、人それぞれの『個性』を大切にしたい。『個性』と向き合い、長所としてとらえられるように生徒を支え、伸ばせるような教育をしたい。そしてその先生のように、「一人一人の『個性』を尊重できる教師」になりたい。

私たち農業系高校の生徒は、普通科高校では経験できない貴重な体験を授業で学ぶことができる。2年生のと畜実習も、決してそう簡単に体験できることではない。こういった農業系高校の生徒にしかできない経験を、農業系高校に入学してくる多くの生徒に経験して欲しいと思っている。私が高校で経験した多くのこと、経験できなかったことを含めて、教員になって教えていきたい。『生命（いのち）』と向き合い、生徒の『個性』を尊重できる、そんな教育ができる農業科の教員に私はなりたい。

(3) 応募校一覧

< 中学校の部 >

| 番号 | 区分 | 学校名 | 応募人数 | 入選者数 |
|----|------|----------|------|------|
| 1 | 中央区 | 佃中学校 | 10 | 5 |
| 2 | 新宿区 | 新宿西戸山中学校 | 1 | 1 |
| 3 | | 西早稲田中学校 | 4 | 1 |
| 4 | 台東区 | 駒形中学校 | 1 | |
| 5 | 墨田区 | 寺島中学校 | 6 | |
| 6 | 大田区 | 大森第六中学校 | 10 | |
| 7 | 北区 | 赤羽岩淵中学校 | 9 | 3 |
| 8 | | 稲付中学校 | 7 | 2 |
| 9 | 荒川区 | 第一中学校 | 1 | |
| 10 | 足立区 | 西新井中学校 | 10 | |
| 11 | 葛飾区 | 堀切中学校 | 10 | 3 |
| 12 | | 四ツ木中学校 | 10 | 1 |
| 13 | 江戸川区 | 松江第四中学校 | 10 | 1 |
| 14 | | 松江第五中学校 | 3 | 1 |
| 15 | 調布市 | 第八中学校 | 9 | |
| 16 | 私立 | 愛国中学校 | 7 | |
| 合計 | | | 108 | 18 |

< イラストの部 >

| 番号 | 区分 | 学校名 | 応募人数 | 入選者数 |
|----|------|----------|------|------|
| 1 | 江東区 | 深川第七中学校 | 5 | |
| 2 | 江戸川区 | 松江第五中学校 | 1 | |
| 3 | 中央区 | 日本橋中学校 | 2 | 1 |
| 4 | 狛江市 | 狛江第四中学校 | 1 | |
| 5 | 小金井市 | 小金井第二中学校 | 4 | |
| 合計 | | | 13 | 1 |

< 高等学校・専修学校の部 >

| 番号 | 学校名 | 応募人数 | 入選者数 |
|----|--------------------|------|------|
| 1 | 東京都立園芸高等学校 (全) | 9 | |
| 2 | 東京都立園芸高等学校 (定) | 3 | |
| 3 | 東京都立農芸高等学校 | 10 | 2 |
| 4 | 東京都立農産高等学校 | 3 | |
| 5 | 東京都立農業高等学校 (全) | 10 | 3 |
| 6 | 東京都立農業高等学校 (定) | 1 | |
| 7 | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | 8 | 3 |
| 8 | 東京都立総合工科高等学校 | 6 | |
| 9 | 東京都立六郷工科高等学校 | 1 | 1 |
| 10 | 東京都立町田工業高等学校 | 4 | 1 |
| 11 | 東京都立葛飾商業高等学校 | 10 | |
| 12 | 東京都立第三商業高等学校 | 9 | 1 |
| 13 | 東京都立忍岡高等学校 | 10 | 3 |
| 14 | 東京都立東久留米総合高等学校 (定) | 3 | |
| 15 | 東京都立大島高等学校 | 3 | |
| 16 | 愛国高等学校 | 10 | 4 |
| 17 | 京華商業高等学校 | 3 | |
| 18 | 東京工業大学附属科学技術高等学校 | 2 | 1 |
| 19 | 日本工業大学駒場高等学校 | 5 | 1 |
| 20 | 国際共立学園高等専修学校 | 10 | |
| 21 | 国際理容美容専門学校 | 10 | |
| 小計 | | 130 | 20 |
| 1 | 中央工学校 | 1 | 1 |
| 小計 | | 1 | 1 |
| 合計 | | 131 | 21 |

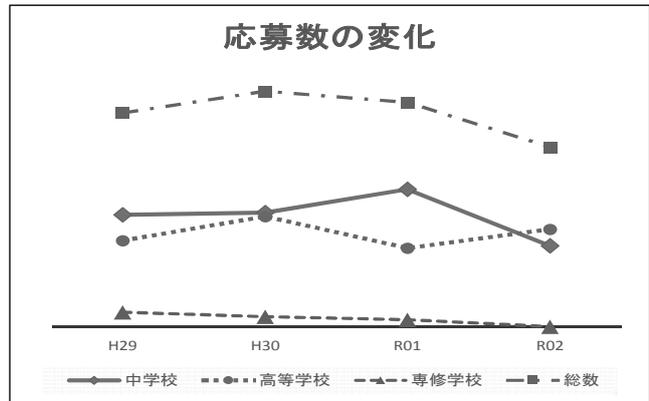
< まとめ >

| 番号 | 区分 | 応募校数 | 応募人数 | 入選数 |
|----|------|------|------|-----|
| 1 | 中学校 | 16 | 108 | 18 |
| 2 | 高等学校 | 21 | 130 | 20 |
| 3 | 専修学校 | 1 | 1 | 1 |
| 総計 | | 38 | 239 | 39 |

(4) 応募数・学校数・入選数の変化

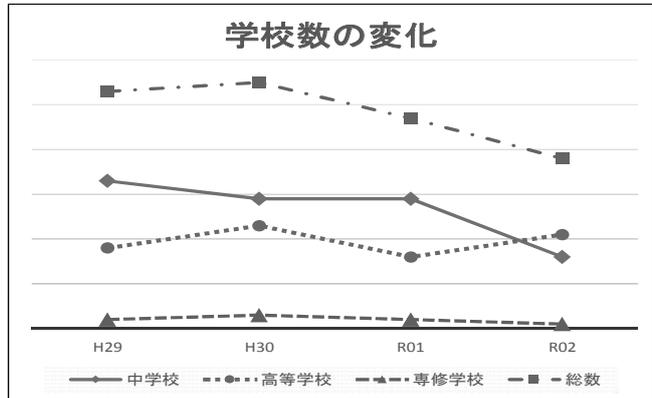
① 応募数の変化

| 校種 | H29 | H30 | R01 | R02 | 平均 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 中学校 | 149 | 152 | 183 | 108 | 148 |
| 高等学校 | 115 | 147 | 105 | 130 | 124 |
| 専修学校 | 20 | 14 | 10 | 1 | 11 |
| 総数 | 284 | 313 | 298 | 239 | 284 |



② 学校数の変化

| 校種 | H29 | H30 | R01 | R02 | 平均 |
|------|-----|-----|-----|-----|----|
| 中学校 | 33 | 29 | 29 | 16 | 27 |
| 高等学校 | 18 | 23 | 16 | 21 | 20 |
| 専修学校 | 2 | 3 | 2 | 1 | 2 |
| 総数 | 53 | 55 | 47 | 38 | 48 |



③ 入選数の変化

| 校種 | 平成29年度(2017) | | | 平成30年度(2018) | | | 令和元年度(2019) | | | 令和2年度(2020) | | | 平均% |
|------|--------------|-----|----|--------------|-----|----|-------------|-----|----|-------------|-----|-----|-----|
| | 応募数 | 入選数 | % | 応募数 | 入選数 | % | 応募数 | 入選数 | % | 応募数 | 入選数 | % | |
| 中学校 | 149 | 23 | 15 | 152 | 22 | 14 | 183 | 19 | 10 | 108 | 18 | 17 | 14 |
| 高等学校 | 115 | 18 | 16 | 147 | 22 | 15 | 105 | 16 | 15 | 130 | 20 | 15 | 15 |
| 専修学校 | 20 | 4 | 20 | 14 | 2 | 14 | 10 | 2 | 20 | 1 | 1 | 100 | 39 |
| 総数 | 284 | 45 | 16 | 313 | 46 | 15 | 298 | 37 | 12 | 239 | 39 | 16 | 15 |

(5) 作文のテーマ別応募数一覧

①作文の内容

次に示す学習を通して体験したことを踏まえて、そこから得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの。

- ・中学校における技術・家庭科の学習
- ・高等学校、専修学校、高等専門学校又は短期大学における専門教科の学習
- ・勤労に関わる体験的な学習

②テーマ

作文の内容について、次のテーマ番号(①～⑩)から関係するものを選択して応募票の欄に記入する。

- ①授業等を通して学び得たこと
- ②インターンシップ(就業体験)や現場実習等によって学び得たこと
- ③職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと
- ④つくることの喜び、ものづくりの喜び
- ⑤働くことの喜び
- ⑥学習に対する心構え
- ⑦私の生きがい
- ⑧私の進路、将来の夢
- ⑨私の職業観
- ⑩その他

③テーマ別選択肢とその割合

| テーマ 番号 | 中学校の部 | | | | | | 高等学校の部 | | | | | | 専修学校の部 | | | | | |
|-----------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | H30 | | R01 | | R02 | | H30 | | R01 | | R02 | | H30 | | R01 | | R02 | |
| | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% | 選択肢 | 割合% |
| ① | 19 | 13 | 13 | 7 | 8 | 7 | 29 | 20 | 32 | 30 | 38 | 29 | 2 | 14 | 1 | 10 | 0 | 0 |
| ② | 3 | 2 | 4 | 2 | 21 | 19 | 20 | 14 | 7 | 7 | 6 | 5 | 4 | 29 | 1 | 10 | 0 | 0 |
| ③ | 70 | 46 | 93 | 51 | 16 | 15 | 8 | 5 | 0 | 0 | 11 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ④ | 7 | 5 | 11 | 6 | 5 | 5 | 5 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑤ | 5 | 3 | 8 | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑥ | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 3 | 4 | 3 | 2 | 2 | 4 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑦ | 5 | 3 | 4 | 2 | 2 | 2 | 7 | 5 | 0 | 0 | 10 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ⑧ | 36 | 24 | 35 | 19 | 34 | 31 | 60 | 41 | 45 | 43 | 45 | 35 | 8 | 57 | 3 | 30 | 1 | 100 |
| ⑨ | 4 | 2 | 4 | 2 | 12 | 11 | 4 | 3 | 6 | 6 | 6 | 5 | 0 | 0 | 2 | 20 | 0 | 0 |
| ⑩ | 2 | 1 | 9 | 5 | 6 | 6 | 9 | 6 | 10 | 10 | 7 | 5 | 0 | 0 | 3 | 30 | 0 | 0 |
| 計 | 152 | 100 | 183 | 100 | 108 | 100 | 147 | 100 | 105 | 100 | 130 | 100 | 14 | 100 | 10 | 100 | 1 | 100 |

東京都産業教育振興会ロゴマークの審査結果について

東京都産業教育振興会では、当会のロゴマーク等を会員校の高校・高等専門学校・専修学校から募集し、14校から159作品の応募をいただきました。

このたび、応募作品について東京都産業教育振興会ロゴマーク審査会において厳正に審査し、最優秀賞、優秀賞、学校賞を決定しましたので、お知らせします。

今後、商標等の確認作業を経て当会のホームページやリーフレット、各種広報などで使用していきます。

1 ロゴマーク等の選考及び決定

- (1) 応募資格：東京都産業教育振興会の会員校の高校生・学生
- (2) 公募期間：令和元年7月1日～9月30日
- (3) 選考方法：令和2年1月31日開催の東京都産業教育振興会ロゴマーク審査会（委員長：西澤宏繁会長）により最優秀賞、優秀賞及び学校賞を選考
- (4) 決定方法：令和2年2月10日、最優秀賞作品を原案として、商標等の確認作業を経てロゴマークを決定

2 選考結果

- (1) 最優秀賞（1点）



作品に込めた思い・作品のコンセプト

三者一体となって育てる教育として三つの葉が連なるデザインをイメージしました。また、小さい葉がいずれ大きくなって新しい若葉を育てるようにと人材を育てる環境に見立てました。

黒岩風花さん
(東京都立葛飾商業高等学校)

- (2) 優秀賞（6点）



高瀬友花さん
(町田・デザイン専門学校)



石井一恵さん
(東京都立工芸高等学校定時制)



須崎夏姫さん
(東京都立町田工業高等学校)



須田啓太さん
(東京都立練馬工業高等学校)



川田 和さん
(東京都立練馬工業高等学校)



堀合優花さん
(二葉ファッションアカデミー)

(3) 学校賞 (10 作品以上の応募があった学校：6 校)

| | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 東京都立第四商業高等学校 | 東京都立荒川商業高等学校 | 東京都立葛飾商業高等学校 |
| 東京都立練馬工業高等学校 | 東京都立町田工業高等学校 | 二葉ファッションアカデミー |

3 表彰式

新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年2月27日(木)午後4時からの表彰式は中止になりました。

4 その他

令和2年2月19日(水)特許庁長官に商標登録願を提出



東京都産業振興会ロゴマーク

最優秀賞を受賞して

東京都立葛飾商業高等学校
3年 黒岩 風花



私は、東京都産業教育振興会がロゴマークを募集していることを先生からお聞きし、学校でデザインを学んできたことから、ぜひとも応募したいと思いました。募集要項には、東京都産業教育振興会は、学校と企業と行政が三者一体となって産業教育の振興を図る団体であると書いてありました。

そこで、まず、三つの葉が連なるデザインをイメージしました。次に、小さい葉がいずれ大きくなって新しい若葉を育てるように、人材を育てる環境に見立てました。さらに、「明るめの緑色」を基調として、三つの葉で未来へはばたく姿をあらわすようにしました。

このような思いでこの作品を仕上げましたが、159点の中の最優秀賞に選んでいただき、大変ありがたく思います。そして、この作品は、東京都産業教育振興会のロゴマークの原案になると伺っておりますが、できあがる東京都産業教育振興会のロゴマークには159名の高校生や学生の思いが込められていると思います。

この作品が親しみやすいロゴマークとして色々な方々の目に入り、少しでも役に立っていただければ大変嬉しいです。

報告書「東京の産業教育の変革に向けた提言」について

東京都産業教育振興会では、令和2年6月30日に報告書「東京の産業教育の変革に向けた提言」を発行しました。

1 提言策定の経緯

令和元年度の理事会や、産学懇談会（会員校の視察や会員相互の情報交換など）において、建設的な意見や教育現場の課題、産業界からの要望などが議論され、昨今の専門高校の倍率の低下傾向などへの懸念も踏まえ、産業教育の活性化に向けて、提言を策定し、公表することで支援を充実させていくため会長の提案により策定することとしました。

2 公表までの過程



3 提言の概要

(1) 1つの重点提言と重点提言を実現するための5つの実現目標

重点提言として、都産振でも推進している外部の活力を活用した取組の充実を提言

実現目標には現場の意見を踏まえた具体的な解決策を記載することで関係機関等での取組を支援

重点提言：多様な学校外の力を積極的に教育に取り入れる有効な仕組みの構築

実現目標1 退職教員や退職技術者等を積極的に活用できる仕組みの構築

実現目標2 産業界が積極的に学校教育に協力できる仕組みの構築

実現目標3 教育界と産業界を結ぶ連携推進コーディネーターの導入

実現目標4 産業界が率先して教育連携を進めていく気運の醸成

実現目標5 東京都産業教育振興会と他団体等との積極的な連携の推進

(2) 5つの一般提言と一般提言を実現するための16の実現目標選考結果

一般提言1：産業教育の重要性の理解促進を進める提言

実現目標 専門高校、専修学校についての生徒・教員への理解促進

実現目標 教員と新たな発想を持つ様々な産業界との交流の場の創出

実現目標 東京都産業教育振興会と連携した積極的なPR活動の展開

実現目標 東京都産業教育フェアの開催

一般提言2：産業教育の充実を進める提言

実現目標 変化に対応した産業教育を実践できる計画的な施設・設備の更新

実現目標 最先端の技術や企業活動を生徒が学ぶことができる機会の確保

実現目標 東京の地の利を生かした地域企業との連携による学校特色化の推進

一般提言 3：学校間、学校と企業との連携を進める提言

実現目標 中学校技術分野への高校からの積極的な連携の推進

実現目標 専門高校、専修学校、企業との相互連携の強化

実現目標 企業による学校の活用などの新たな連携の構築

一般提言 4：産業教育に関わる教員の確保や育成を進める提言

実現目標 産業界の人材の柔軟な活用の実現

実現目標 専門学科教員の研究・研修機会の創出や充実

一般提言 5：新たな社会の到来を見据えた提言

実現目標 Society 5.0 の到来などを見据えた新しい教育システムなどの検討

実現目標 課題先進国の首都・東京ならではの教育改革の検討

実現目標 専門性の高い中学生の特別選抜の実施の検討

実現目標 東京都産業教育審議会の開催



本会の概要

令和 2 年度 事業経過報告

(令和 3 年 2 月 20 日現在)

1 会計監査

4 月 20 日 (月) 午後 3 時～5 時 都庁第二本庁舎 15 階会議室を会場として、常任監事及び監事 2 名による各種帳簿類等の監査を実施 (本会事務局長立合い)。

2 理事会

5 月 19 日 (火) 書面による開催

3 総会・講演会

6 月 30 日 (木)

- ・総会 書面による開催
- ・講演会 会誌「東京の産業教育」第 58 号で紙上開催
演題：興味と関心を原動力にみずから学ぶ力を育む—博物館で新たな学びを—
講師：岡部 幹彦 氏 (公益財団法人江川文庫理事 (元文化庁主任文化財調査官))
(総会・講演会の報告は会報第 158 号、会誌第 58 号に掲載)

4 委員会

- (1) 企画推進委員会 (第 1 回) 7 月 10 日 (金) 全商会館 3 階中会議室で開催
企画推進委員会 (第 2 回) 11 月 13 日 (金) 書面による開催 (オンライン会議併用)
企画推進委員会 (第 3 回) 1 月 14 日 (木) 書面による開催 (オンライン会議併用)
- (2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会 9 月 18 日 (金) 教育委員会室で開催
- (3) 作文選考委員会
全体会 5 月 22 日 (金) 書面による開催
分科会 (高等学校・専修学校の部) 10 月 20 日 (火) 都庁第二本庁舎 16 階 16C 会議室で開催
分科会 (中学校の部) 10 月 22 日 (木) 都庁第二本庁舎 16 階 16C 会議室で開催

5 振興奨励事業

- (1) 教育功労者表彰：表彰式を 11 月 13 日 (金) に予定していたが新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止とした。
- (2) 研究団体助成：産業教育関係の教育研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、総合学科、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。
- (3) 作文コンクール：中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は 239 点であった。その中から最優秀賞 2 名 (中学校 1 名、高校 1 名)、優秀賞 5 名 (中学校 2 名、高校 3 名)、佳作 32 名 (中学校 15 名、高校 16 名、専修学校 1 名) 計 39 名の入選者を選定した。
表彰式は 12 月 18 日 (金) に予定していたが新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止とした。なお、入選者及び「明日に生きる 第 31 号 —作文コンクール入選作品集—」の表紙デザイン作成者に賞状と賞品を授与した。また、入選者以外の応募者全員及び表紙デザイン応募者全員に記念品を贈呈した。入選作品は「明日に生きる 第 31 号 —作文コンクール入選作品集—」として令和 3 年 3 月上旬に発行予定
- (4) 優良卒業生選奨：優良卒業生に対し、各学校の校長・学長を通じ、本会会長及び公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行う。

○東京都産業教育振興会会長表彰

| | | | |
|------|---------|---------------|--------|
| 中学校 | 約 892 名 | 中等教育学校 (前期課程) | 約 13 名 |
| 高等学校 | 約 206 名 | 専修学校 | 約 83 名 |

高専・短大 約 14 名 計 約 1,208 名
 ○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰
 高等学校及び高等専門学校 計 約 110 名

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認している。本年度は 4 事業に対して後援名義の使用を承認した。

6 産学連携事業

東京商工会議所及びあきる野商工会と連携して都立高校と企業の連携を推進した。

7 産学交流事業

- (1) 産学懇談会（第 1 回）を 7 月上旬に、産学懇談会（第 2 回）を 8 月 7 月上旬に予定していたが、新型コロナウイルスの感染防止の観点から中止とした。
 (2) 産学懇談会（第 3 回）を 11 月 27 日（金）（午後 3 時～ 4 時）に中央工学校を会場としてオンラインで開催した。ホームページの事前閲覧、当日の Zoom による学校説明により、教育内容や産学連携等について話し合った。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等 16 名であった。

8 情報連絡事業

- (1) 会報「東京の産業と教育」第 158 号を 9 月 1 日に発行し全会員及び関係諸機関に配布した。第 159 号は 1 月 15 日に発行した。
 (2) 会誌「東京の産業教育」第 58 号を 3 月上旬に発行予定
 (3) 生徒作文集「明日に生きる」第 31 号を 3 月上旬に発行予定
 (4) 全国産業教育振興連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議は中止となった。
 (5) 文部科学省・大分県教育委員会・公益財団法人産業教育振興中央会他主催の第 30 回全国産業教育フェア大分大会は、参集型開催が 10 月 24 日（土）別府ビーコンプラザで、インターネット開催が 10 月中旬から 3 月末日まで開催された。本会から会長及び都立商業高校 7 校が参加した。
 第 62 回全国産業教育振興大会（大分大会）は参集型での開催を中止し、書面による決議を行った。
 (6) 東京都産業教育振興会のホームページを月 1 回更新した。

9 会員増加運動の推進

今年度中に産業界会員 1 社が退会した。また、新たに学校会員 3 校が入会した。

10 広報活動の推進

新たに会報電子版を 9 回発行し、会員に送信した。

11 報告書「東京の産業教育の変革に向けた提言」の発行

6 月 30 日（火）に 700 部発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。

令和元年度 決算

総収入額 ¥3,249,577
 総支出額 ¥2,957,929
 差引額 ¥291,648

[収入の部]

(単位:円)

| 科 目 | 予算額 | 決算額 | 差額 | 摘 要 |
|----------------------------|-----------|-----------|----------|------------------------------|
| 会 費 | 2,381,000 | 2,344,875 | △ 36,125 | 1 学校関係 会費 校数・口数 1,607,000 |
| | | | | ① 国公立中学校 2,000 429 校 854,000 |
| | | | | ② 都立高校 全 6,000 53 校 318,000 |
| | | | | 定 3,000 31 校 93,000 |
| | | | | ③ 国私立高校 全 6,000 14 校 84,000 |
| | | | | 通 3,000 2 校 6,000 |
| | | | | ④ 短大・高専 3校 6,000 3 校 18,000 |
| | | | | ⑤ 専修学 37校 6,000 39 口 234,000 |
| | | | | 2 産業界関係 737,875 |
| | | | | ① 企業 50社 10,000 70 口 699,875 |
| ② 個人 15人 2,000 19 口 38,000 | | | | |
| 会誌広告料 | 165,000 | 285,000 | 120,000 | 「東京の産業教育」第57号広告費 全20社(校) |
| 雑収入 | 639 | 19,341 | 18,702 | 文教出版掲載 銀行利子 |
| 繰越金 | 600,361 | 600,361 | 0 | 前年度繰越 |
| 合 計 | 3,147,000 | 3,249,577 | 102,577 | |

[支出の部]

(単位:円)

| 科 目 | 予算額 | 決算額 | 差額 | 摘 要 | |
|------------|------------|-----------|-----------|--------------------|-----------------------|
| 事務費 | 480,000 | 559,391 | △ 79,391 | | |
| 項 目 | 需用費 | 20,000 | 3,000 | 17,000 | 総会資料印刷、消耗品費等、資料管理費 |
| | 役務費 | 420,000 | 556,391 | △ 136,391 | 配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費 |
| | 旅 費 | 40,000 | 0 | 40,000 | 全国産業教育フェア(新潟大会) |
| | 会議費 | 80,000 | 15,017 | 64,983 | 理事会、総会、講演会、各種委員会 |
| 事業費 | 2,474,000 | 2,318,521 | 155,479 | | |
| 項 目 | 振 興 奨励費 | 1,139,000 | 1,073,842 | 65,158 | ①教育功労者表彰 191,330 |
| | | | | | ②研究奨励助成 122,000 |
| | | | | | ③作文表彰等 369,614 |
| | | | | | ④永年会員表彰 15,228 |
| | | | | | ⑤表彰状印刷等 247,230 |
| | | | | | ⑥表彰状筆耕料 41,340 |
| | | | | | ⑦ロゴマーク募集 87,100 |
| 情 報 連絡費 | 1,320,000 | 1,233,259 | 86,741 | ①会報発行(2回分) 192,276 | |
| | | | | ②会誌第57号発行 458,150 | |
| | | | | ③作文集第30号発行 388,025 | |
| | | | | ④HP更新費 191,808 | |
| | | | | ⑤全産協参加費 3,000 | |
| | | | | ⑥中央会図書費 0 | |
| | | | | ⑦作文集・会誌合本費 0 | |
| 産学交流費 | 15,000 | 11,420 | 3,580 | 産学懇談会 | |
| 分担金 | 65,000 | 65,000 | 0 | 全国産業教育振興会連絡協議会 | |
| 予備費 | 48,000 | 0 | 48,000 | 緊急対応 | |
| 合 計 | 3,147,000 | 2,957,929 | 189,071 | | |

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

令和2年度 予算

総収入額 ¥2,813,000
 総支出額 ¥2,813,000
 差引額 ¥0

[収入の部]

(単位：円)

| 科目 | 本年度 予算額(A) | 前年度 予算額(B) | 増△減 (A-B) | 摘 要 |
|---------------------------|---------------|---------------|--------------|------------------------------|
| 会 費 | 2,321,000 | 2,381,000 | △ 60,000 | 1 学校関係 会費 校数・口数 1,605,000 |
| | | | | ① 国公立中学校 2,000 429校 858,000 |
| | | | | ② 都立高校 全 6,000 52校 312,000 |
| | | | | 定 3,000 31校 93,000 |
| | | | | ③ 私立・国立高校 全 6,000 14校 84,000 |
| | | | | 通 3,000 2校 6,000 |
| | | | | ④ 高専・短大 3校 6,000 3校 18,000 |
| | | | | ⑤ 専修学校 37校 6,000 39口 234,000 |
| | | | | 2 産業界関係 会費 口数 716,000 |
| | | | | ① 企業 49社 10,000 68口 680,000 |
| ② 個人 14名 2,000 18口 36,000 | | | | |
| 会誌広告料 | 200,000 | 165,000 | 35,000 | |
| 雑収入 | 352 | 639 | △ 287 | 預金利息等 |
| 繰越金 | 291,648 | 600,361 | △ 308,713 | 前年度繰越 |
| 合 計 | 2,813,000 | 3,147,000 | △ 334,000 | |

[支出の部]

(単位：円)

| 科目 | 本年度 予算額(A) | 前年度 予算額(B) | 増△減 (A-B) | 摘 要 | |
|------------|---------------|---------------|--------------|--------------------|-----------------------|
| 事務費 | 476,000 | 480,000 | △ 4,000 | | |
| 項 目 | 需用費 | 5,000 | 20,000 | △ 15,000 | 消耗品費等、資料管理費 |
| | 役務費 | 470,000 | 420,000 | 50,000 | 配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費 |
| | 旅 費 | 1,000 | 40,000 | △ 39,000 | 全国産業教育フェア（大分大会） |
| 会議費 | 60,000 | 80,000 | △ 20,000 | 理事会、総会、講演会、各種委員会 | |
| 事業費 | 1,972,000 | 2,474,000 | △ 502,000 | | |
| 項 目 | 振 興 奨励費 | 871,000 | 1,139,000 | △ 268,000 | ①教育功労者表彰 150,000 |
| | | | | | ②研究奨励助成 122,000 |
| | | | | | ③作文表彰等 300,000 |
| | | | | | ④永年会員表彰 24,000 |
| | | | | | ⑤表彰状印刷 200,000 |
| | | | | | ⑥表彰状筆耕料 45,000 |
| | | | | | ⑦ロゴマーク登録 30,000 |
| 情 報 連絡費 | 1,091,000 | 1,320,000 | △ 229,000 | ①会報発行(2回分) 180,000 | |
| | | | | ②会誌第58号発行 360,000 | |
| | | | | ③作文集第31号発行 324,000 | |
| | | | | ④HP更新費 220,000 | |
| | | | | ⑤全産協参加費 3,000 | |
| | | | | ⑥中央会図書費 2,000 | |
| | | | | ⑦作文集・会誌合本費 2,000 | |
| 産学交流費 | 10,000 | 15,000 | △ 5,000 | 産学懇談会 10,000 | |
| 分担金 | 65,000 | 65,000 | 0 | 全国産業教育振興会連絡協議会 | |
| 予備費 | 240,000 | 48,000 | 192,000 | 緊急対応 | |
| 合 計 | 2,813,000 | 3,147,000 | △ 334,000 | | |

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

令和2年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

(☆印：新任)

| | | |
|---------|--|---------|
| 会 長 | ForeVision 株式会社 取締役 監査等委員会委員長 (元・株式会社企業再生支援機構 代表取締役社長、元・株式会社東京都民銀行 頭取) | 西 澤 宏 繁 |
| 副 会 長 | 株式会社カナック企画相談役 | 金 子 昌 男 |
| 〃 | 東京商工会議所理事・事務局長 | 小 林 治 彦 |
| 〃 | ☆ 東京都立農芸高等学校長 | 小 堀 卓 二 |
| 理 事 長 | 東京都教育委員会教育長 | 藤 田 裕 司 |
| 常 任 理 事 | ☆ 東京都教育庁都立学校教育部長 | 谷 理 恵 子 |
| 〃 | 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長 | 落 合 真 人 |
| 理 事 | 公益社団法人経済同友会常務理事 | 菅 原 晶 子 |
| 〃 | ☆ 一般社団法人東京経営者協会人材開発事業部長 | 海老澤 大 造 |
| 〃 | 株式会社日刊工業新聞社代表取締役社長 | 井 水 治 博 |
| 〃 | 三和電気工業株式会社代表取締役会長 | 石 井 卓 爾 |
| 〃 | ☆ 株式会社昭和製作所取締役会長 | 舟久保 利 明 |
| 〃 | ☆ 文京区教育委員会教育長 | 加 藤 裕 一 |
| 〃 | ☆ 荒川区教育委員会教育長 | 高 梨 博 和 |
| 〃 | 武蔵野市教育委員会教育長 | 竹 内 道 則 |
| 〃 | ☆ 江東区教育委員会事務局学務課長 | 大 町 里 砂 |
| 〃 | ☆ 練馬区教育委員会事務局学務課長 | 清 水 輝 一 |
| 〃 | 東京誠心調理師専門学校長 | 廣 瀬 道 |
| 〃 | 学校法人小山学園理事長 | 山 本 匡 |
| 〃 | 岩倉高等学校長 | 浅 井 千 英 |
| 〃 | 安部学院高等学校長 | 安 部 元 彦 |
| 〃 | ☆ 東京都立農芸高等学校長 (副会長兼任) | 小 堀 卓 二 |
| 〃 | ☆ 東京都立練馬工業高等学校長 | 守 屋 文 俊 |
| 〃 | 東京都立第四商業高等学校長 | 高 石 公 一 |
| 〃 | ☆ 東京都立赤羽北桜高等学校長 | 富 川 麗 子 |
| 〃 | 東京都立つばさ総合高等学校長 | 小 山 公 央 |
| 〃 | 中央区立銀座中学校長 | 平 松 功 治 |
| 〃 | ☆ 墨田区立墨田中学校長 | 杉 浦 伸 一 |
| 〃 | 東京都教育庁指導部長 | 増 田 正 弘 |
| 〃 | 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長 | 佐 藤 聖 一 |
| 〃 | ☆ 東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当) | 平 林 信 彦 |
| 〃 | 東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長 | 小 川 謙 二 |
| 理事・事務局長 | 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (計画担当) | 多 田 緑 |
| 常 任 監 事 | ☆ 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (管理担当) | 長 沢 太 士 |
| 監 事 | 株式会社ツバサ・翼学院グループ代表取締役 学院長 | 芹 澤 唯 志 |
| 〃 | 世田谷区立上祖師谷中学校長 | 柄 澤 茂 之 |

令和2年度 東京都産業教育振興会各委員会委員 (敬称略・順不同)

企画推進委員会

| | |
|------------------------|-------|
| 東京都立農芸高等学校長 | 小堀卓二 |
| 東京都立練馬工業高等学校長 | 守屋文俊 |
| 東京都立第三商業高等学校長 | 皆川貢治郎 |
| 東京都立大江戸高等学校長 | 金澤正美 |
| 東京都立晴海総合高等学校長 | 玉川弘文 |
| 東京実業高等学校長 | 國分達夫 |
| 安部学院高等学校長 | 安部元彦 |
| マリールイズ美容専門学校顧問 | 江原美規子 |
| 東京都立産業技術高等専門学校副校長 | 吉澤昌純 |
| 大田区立蒲田中学校副校長 | 保谷満 |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 | 佐竹晶博 |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事 | 宮西真 |

作文選考委員会

| | |
|----------------------------|-------|
| 東京都立農産高等学校長 (高校・専修学校の部委員長) | 伊達崎 広 |
| 東京都立墨田工業高等学校長 | 杉浦文俊 |
| 東京都立荒川商業高等学校長 | 新井智恵子 |
| 東京都立大崎高等学校副校長 | 小川直哉 |
| 東京都立杉並総合高等学校長 | 西村伸二 |
| 日本工業大学附属駒場高等学校教諭 | 友利麻衣 |
| 京華商業高等学校広報主任 | 小口浩史 |
| ハリウッド美容専門学校広報室業務推進主任 | 橋田 修 |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 | 小野寺伸樹 |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 | 佐伯徳秀 |
| 荒川区立第五峽田小学校長 (中学校の部委員長) | 出井玲子 |
| 江東区立深川第七中学校長 | 佐川明夫 |
| 狛江市立狛江第四中学校長 | 猪瀬政幸 |
| 中央区立日本橋中学校副校長 | 磯田耕司 |
| 江戸川区立松江第五中学校副校長 | 濱川一彦 |
| 世田谷区立上祖師谷中学校副校長 | 毛利慎治 |
| 町田市立真光寺中学校長 | 矢島加都美 |
| 稲城市立稲城第一中学校長 | 跡邊昭枝 |
| 小金井市立小金井第二中学校長 | 川井まさよ |
| 足立区立伊興中学校副校長 | 千葉千登勢 |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課統括指導主事 | 鈴木太郎 |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事 | 宮西真 |

東京都産業教育振興会会則

第 1 章 総 則

第 1 条 この会は、東京都産業教育振興会といふ事務所を東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課（東京都新宿区西新宿 2-8-1）内におく。

第 2 条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第 3 条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第 2 章 会 員

第 4 条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

第 3 章 役員及び職員

第 5 条 この会に会長 1 名、副会長 3 名、理事 25 名以上 35 名以内及び監事 3 名をおく。

第 6 条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第 7 条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第 8 条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち 1 名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある監事をもって充てる。
3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、20年度、22年度、27年度、28年度

産 業 界 会 員 名 簿

50 音順

| | 企業会員名 | 所在地 / 電話 / URL | 過去5年間の採用実績 | 企業の概要・特色 |
|---|-------------------------------|---|---------------------------|--|
| 1 | 株式会社 明石スクールユニ フォームカンパニー | 〒 103-0006 中央区日本橋富沢町 5-5 03-5695-5300 http://www.akashi-suc.jp | 専修卒 四大卒 | 富士ヨット詰襟学生服及び、別注学校制服・体育着・実習服・企業ユニフォームを製造している制服メーカーです。 学校オリジナル制服としては、50校超の都立高校制服や、私立学校制服、公立中学校・小学校の標準服を製造しております。またデザート体育着も好評をいただいております。 |
| 2 | 株式会社 秋月電子通商 | 〒 158-0095 世田谷区瀬田 5-35-6 | 四大卒 | 電子部品（主としてコンピュータパーツ）、及び制御コンピュータ用応用機器製品の販売、電子工作用各種製品開発セット、製作、直接販売。 世界各国の最新機器の日本への紹介。 |
| 3 | あきる野商工会 | 〒 197-0804 あきる野市秋川 1-8 あきる野ルビア 3階 | 短大卒 四大卒 | 商工会は、地域の事業者が業種に関わりなく会員となって、お互いの事業の発展や地域の発展のために総合的な活動を行う団体です。 |
| 4 | 有限会社 飯吉製作所 | 〒 124-0023 葛飾区東新小岩 5-14-22 03-3697-5645 | — | 金属プレス加工業を昭和 24 年創業、昭和 37 年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス加工分野に進出、傍ら自社ブランドのキャストを開発、製造販売を始め、現在に至る。 |
| 5 | 株式会社 エイコー | 〒 124-0024 葛飾区新小岩 2-7-4 サンシティ新小岩 | 高校卒 | 昭和 35 年にビルメンテナンス業を創業。平成 13 年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。 |
| 6 | エス・イー・シー エレベーター株式会社 | 〒 110-0016 台東区台東 3-18-3 03-5256-1171 https://secev.co.jp | 高校卒 専修卒 短大卒 四大卒 | エレベーター・エスカレーターの保守点検、新設・リニューアル工事・LED・サイネージ・環境事業等を行っております。 |
| 7 | 株式会社 開倫塾 | 〒 326-8505 栃木県足利市堀込町 145 0284-72-5945 http://www.kairin.co.jp | 四大卒 大学院卒 | 創業 40 周年の学習塾。小学生・中学生・高校生を対象とします。北関東 3 県（栃木・群馬・茨城県）と東京都川の手地区（墨田・荒川・葛飾・足立区）に展開。自己学習能力の育成を教育目標とします。毎年 5 月、全国模擬授業大会を開催。NIE に力を入れています。 |
| 8 | 株式会社 カナック企画 | 〒 125-0054 葛飾区高砂 1-21-4 | 高校卒 短大卒 四大卒 大学院卒 | 弊社はメイン事業であるカー AV 取付キットビジネスで市場シェア約 6 割を占めており、オールインワン企業としてカーライフ事業を開拓し続けるリーディングカンパニーです。最近ではカーナビの大画面化が進み、益々弊社の重要性が高まり AV メーカーと車メーカー、それとユーザーの皆様のニーズに応えるべき商品開発に力を入れています。もう一つの事業である鉄道グッズ事業では、大人でも使える新幹線をモチーフにした USB メモリや子供用のリュックサック、自転車ヘルメットなど色々な商品ラインナップを繰り広げ、事業を展開しております。 |
| 9 | 亀有信用金庫 | 〒 125-8508 葛飾区亀有 3-13-1 03-3603-0185 http://www.shinkin.co.jp/ kameari/ | 短大卒 四大卒 | 信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に 23 店舗を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。 |

| | 企業会員名 | 所在地 / 電話 / URL | 過去5年間の採用実績 | 企業の概要・特色 |
|----|-----------------|--|---|--|
| 10 | 株式会社 川邑研究所 | 〒153-0063 目黒区目黒 1-5-6 | 専修卒 四大卒 | 固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売。 |
| 11 | 株式会社 キクチ | 〒140-0013 品川区南大井 6-11-7 キクチビル 03-3767-0673 http://kikuchi-corp.com/ | 高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒 大学院卒 | ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス、設備管理サービス、電気計装工事、内装・補修工事、省エネソリューションビジネス。 キクチは、『人と地球と建物のより良い未来を切り拓く』ため、建物環境がいつでも安全・快適で省エネルギーであること、すなわち、『ビルの明日をまもる』ことを、企業使命と考えライフサイクルソリューションビジネスを展開しています。 |
| 12 | 株式会社 きらぼし銀行 | 〒106-0062 港区南青山 3-10-43 | 四大卒 | きらぼし銀行は、2018年5月に東京都民銀行、八千代銀行、新銀行東京の3行が合併し、新たなスタートを切りました。 「首都圏における中小企業と個人のお客様のための金融グループとして、総合金融サービスを通じて、地域社会の発展に貢献します。」という経営理念を掲げ、首都圏においてお客様から真に愛される地域 No.1 の都市型地銀グループを目指します。 |
| 13 | 株式会社 興銀不動産開発 | 〒125-0041 葛飾区東金町 5-7-6 https://www.kougin-fudousankaihatsu.co.jp | 四大卒 | 平成2年創業以来30年、地元へ根を下ろし不動産に精通したスタッフが信用第一をモットーに営業活動しております。尚若い力を注入して活気ある会社運営を目指します。 |
| 14 | 株式会社 小薬印刷所 | 〒104-0042 中央区入船 2-7-4 | — | 創業90年の印刷会社。学術学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディトリアルデザインやWeb用のデータ作成業務に力を入れている。 |
| 15 | 国光施設工業 株式会社 | 〒144-0041 大田区羽田空港 1-7-1 http://www.kokko-shisetsu.co.jp/ | 専修卒 高専卒 | 創立100周年を目指し、顧客の施設（電気・計装・空調・通信・太陽光）を計画段階から建設、メンテ及び設備取り壊しまで長期に亘り担当するエンジニアリング集団です。 |
| 16 | 三和電気計器 株式会社 | 〒101-0021 千代田区外神田 2-4-4 | 高校卒 | 1941年創業、従業員70名の現場用電子計測器の専門メーカーです。高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。 |
| 17 | 三和電気工業 株式会社 | 〒164-8522 中野区中野 4-15-9 03-5213-3035 http://www.snwd.co.jp/ | 専修卒 四大卒 大学院卒 | 1947年に電気通信部品メーカーとして発足しました。光コネクタのバイオニアメーカーのひとつです。光コネクタのメーカーとしては日本及び海外のお客様に製品を提供しており、5G用製品など、現代社会の高度情報化の発展に寄与しています。近年は信頼性の高さから、通信分野以外（新幹線等）で光トランシーバーが好評を博しております。今後も通信技術の革新が進んでいく中で、当社のコアコンピタンスを活かして、色々な業界で世界中のお客様のニーズに寄り添う形で、時代をリードする製品を開発・提供していきます。 |
| 18 | 実教出版株式会社 | 〒102-8377 千代田区五番町 5 03-3238-7777 https://www.jikkyo.co.jp/ | 四大卒 大学院卒 | 高等学校用教科書・教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。 |

| | 企業会員名 | 所在地 / 電話 / URL | 過去5年間の採用実績 | 企業の概要・特色 |
|----|----------------------|--|---------------------------|---|
| 19 | 株式会社 昭和製作所 | 〒 143-0015 東京都大田区大森西 2-17-8 03-3764-1621 http://www.showa-ss.jp | 高校卒 四大卒 | 弊社は、昭和 27 年創立、現社長は 3 代目になります。インフラ等で用いられる材料の性質を調べるために様々な工作機械を用いて製作する「材料試験片」と、インフラそのものを壊さないで調べるための「非破壊試験片」を主として製作しています。その他に、工作機械加工以外の様々な社外技術を利用する試作品や特殊部品の製作も行います。2015 年に ISO9000、JISQ9100 の資格を取得し、2020 年に基準適合事業主（ユースエール）認定を受けています。 |
| 20 | 株式会社 昭和理化 | 〒 171-0022 豊島区南池袋 2-41-12 03-3987-0731 | 高校卒 | 消防用設備（自動火災報知設備、消火設備、避難設備）、弱電設備（インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯）の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。 |
| 21 | 株式会社 鈴木塗装工務店 | 〒 120-0022 足立区柳原 2-30-14 03-3882-2828 http://www.suzukitosou.com | 高校卒 専修卒 短大卒 四大卒 | 鉄道橋梁の塗装工事を発祥とし、創業 85 年以上の歴史があります。現在は、全国主要都市に支店・営業所を構え、ビル・マンションや工場等のリフォーム工事から橋梁などの大型構造物の塗装工事まで、様々な建造物の改修工事を行っております。また、安全・品質・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、お客様のご要望にお応えしております。 |
| 22 | 青和信用組合 | 〒 125-0054 葛飾区高砂 2-40-4 | 高校卒 四大卒 | 「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の八町、江戸川区の二町、足立区の五町に居住される皆様と、地域内で事業を営まれる中小企業、並びにそこに勤務される方々を対象に営業しております。 |
| 23 | 第一科学株式会社 | 〒 113-0021 文京区本駒込 5-28-5 | 高校卒 | 高校、大学、官公庁（都内）への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売。 |
| 24 | 株式会社 第一成和事務所 | 〒 103-8214 中央区日本橋久松町 11-6 日本橋 TS ビル 8F 03-3669-2831 http://www.d-seiwa.co.jp | 四大卒 | 1957 年創業以来保険代理店として、お客様に適切な保険の提供を通して「安心と安全」な生活と経営の実現に貢献することを目指しています。皆様に安心してキャリア形成いただけるよう「インターンシップ・ボランティア等体験活動保険」を提供させていただいております。 |
| 25 | 株式会社 竹尾 | 〒 101-0054 千代田区神田錦町 3-12-6 03-3292-3622 http://www.takeo.co.jp/ | 高校卒 短大卒 四大卒 大学院卒 | 1899 年の創業以来、「紙の専門商社」として、一般印刷用紙とファインペーパーの販売を通して環境と文化に貢献してきました。特にファインペーパーでは、メーカーと共同開発し、国内市場の 60% をシェアし市場を牽引してきました。ファインペーパーとは色合いや風合いで人間の五感に訴える紙であり、書籍、パッケージ、カタログ、カレンダーやタグ等数多くの場面で使われております。また、神田の見本帖本店、青山見本帖、銀座の竹尾見本帖 at Itoya、大阪の淀屋橋見本帖、福岡見本帖にて紙の販売の他、紙、デザインとテクノロジーに関する情報を発信しています。 |
| 26 | 株式会社 チバダイス | 〒 125-0054 葛飾区高砂 1-26-2 03-3696-4441 http://www.chibadies.co.jp | 高校卒 高専卒 専修卒 四大卒 | プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの 3 割は海外との取引です。 |
| 27 | 株式会社 ツバサ・ 翼学院グループ | 〒 125-0054 葛飾区高砂 8-28-12 | 短大卒 四大卒 大学院卒 | 学習障がい、不登校等を含め約 400 名の塾生が在籍（青砥駅前校、青砥北口校、青砥西口校、高砂校、水元校）。児童発達支援・放課後等デイサービスつばさクラブを併設して、生活訓練や SST などを行っています。また第一薬科大学附属高校学習センターとして高校卒業のサポート事業やベネッセと連携した英語教室などを行っています。「学校でさじをなげた子を何とかしてくれる機関」として文部科学省や各地域の教育委員会からの視察、著書やメディアからの取材も多数あります。第 7 回日本でいちばん大切にしたい会社実行委員会特別賞、平成 28 年東京都経営革新奨励賞受賞。 |

| | 企業会員名 | 所在地 / 電話 / URL | 過去5年間の採用実績 | 企業の概要・特色 |
|----|-----------------------------|--|---------------------------|---|
| 28 | 鉄道機器株式会社 | 〒103-0027 中央区日本橋 2-3-6 03-3271-5341 | 高校卒 高専卒 四大卒 | 大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に東北新幹線、九州新幹線、北陸新幹線（金沢以西の新幹線の延長）、北海道新幹線用の高速分岐器の納入実績があり、海外にも輸出をしております。 |
| 29 | 東京ガス株式会社 | 〒105-8527 港区海岸 1-5-20 | 高校卒 高専卒 四大卒 大学院卒 | 東京ガスグループは、1885年の創立以来、130年余にわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客さまの豊かな暮らしや社会の発展を支えてまいりました。2017年には電力小売り事業にも参入し「豊かで潤いのある暮らし、活力に溢れ競争力のある産業、環境に優しい安心できる社会」の実現に貢献してまいります。 |
| 30 | 東京商工会議所 | 〒100-0005 千代田区丸の内 3-2-2 6F https://www.tokyo-cci.or.jp/ | 四大卒 大学院卒 | 東京商工会議所は東京23区内の会員（商工業者）で構成される民間の総合経済団体です。1878年に設立され、商工業の総合的な発達と社会一般の福祉の増進を目的に、経営支援活動、政策活動、地域振興活動の3つを柱として活動しています。 |
| 31 | 東京書籍株式会社 | 〒114-8524 北区堀船 2-17-1 https://www.tokyo-shoseki.co.jp/ | 四大卒 大学院卒 | 1909（明治42）年創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小・中・高校教科書発行部数は業界首位。学習教材・指導用教材・学習参考書も発行。デジタル教科書やアプリなどのデジタルコンテンツの開発・販売、教育総合ポータルサイト運営などのインターネットサービス、学力・体力テストなどの各種評価事業、一般書籍・辞典等の出版に加え、日本語検定関連業務も行っている。 |
| 32 | 公益社団法人 東京都専修学校 各種学校協会 | 〒151-0053 渋谷区代々木 1-58-1 石山ビル 6F 03-3378-9601 https://tsk.or.jp | — | 東京都内の専修学校各種学校を代表する唯一の団体です。会員校の連携、協力のもと専修・各種学校教育の改善発展に貢献し、職業教育の振興普及を図ることを目的としています。1961年に設立され2012年に公益法人認定を受けました。会員校数は333校（2020年11月現在）。 |
| 33 | 有限会社 東京プリンテック | 〒154-0023 世田谷区若林 1-23-4 | — | “信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。 |
| 34 | ドリームガーデンズ 株式会社 | 〒114-0003 北区豊島 8-1-1 03-3927-1123 http://www.dream-gardens.co.jp | 短大卒 四大卒 大学院卒 | 1965年創業、「永遠に未完成の給食づくり」を企業理念として、未来を担う子供たちの健康と幸せのためのサポートをさせて頂いております。幼稚園給食のリーディングカンパニーとして日本一の生産食数を誇っており、東京、埼玉、千葉の一都二県において、一日3万食を提供しております。 |
| 35 | 株式会社 日刊工業新聞社 | 〒103-8548 中央区日本橋小網町 14-1 | 四大卒 大学院卒 | 「モノづくり立国」「技術立国」「中小企業振興」を理念とする我が国唯一の産業総合紙。創刊は1915年（大正4）。国際ロボット展をはじめとするイベント事業も大きく展開する。 |
| 36 | 日本広告株式会社 | 〒170-0001 豊島区西巢鴨 4-19-1 03-3918-3161 http://nihon-ad.c.ooco.jp | 高校卒 専修卒 四大卒 | 昭和20年創業。以来、電柱広告、交通広告をはじめとする屋外広告物の販売代理店として、永年にわたり地域の病院、質店、各種企業、商店等、幅広い業種の皆様の宣伝、誘導案内のお手伝いをしてきた会社です。 |

| | 企業会員名 | 所在地 / 電話 / URL | 過去5年間の採用実績 | 企業の概要・特色 |
|----|-----------------|---|---------------------------------|--|
| 37 | 日本自動ドア株式会社 | 〒165-0031 中野区上鷲宮 3-16-5 | 高校卒 専修卒 高専卒 短大卒 四大卒 | 日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。 |
| 38 | 信川化学工業株式会社 | 〒124-0022 葛飾区奥戸 2-20-18 | — | 超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、JA 機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機 2,700t、2,200t、1,600t×2、1,200t、850t×4、650t×2 他計 21 台。クレーン 20t、10t 他。 |
| 39 | 株式会社 箸勝本店 | 〒101-0021 千代田区外神田 3-1-15 | — | 明治 43 年創業の割箸専門店です。国内、海外へ業務用から家庭用、粗品用を含め 300 種類以上の特徴あるお箸を揃えております。昭和 25 年より宮内庁に白木のお箸を納め始め、今も園遊会など各種行事に納入しております。 |
| 40 | 株式会社 ハチオウ (八嬰) | 〒130-0004 墨田区本所 4-29-2 | 四大卒 大学院卒 | 産業廃棄物処理業として多品種の廃液や化学薬品の特殊な廃棄物の処理を行っています。これらの廃棄物処理は化学的知識や専門性を必要とします。都内では処理業者の数が少なく、各種研究機関や大学、民間企業の工場より評価・受注を頂いております。外国人の博士課程卒業生も採用しております。 |
| 41 | 日野自動車株式会社 | 〒191-8660 日野市日野台 3-1-1 | 中学卒 | 「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。 |
| 42 | 株式会社 Five Rings | 〒105-0004 港区新橋 3-9-10 5F 03-6402-4402 | — | 資産形成コンサルタント業。100 年時代という言葉をよく目にしますが、弊社では 10 年以上前から「人生計画」「資産計画」の必要性を感じ、会社の将来、また家庭や人生のコンサルティングを行ってきました。 【経営支援事業】 ①経営計画：理念、目的、方針、PDCA ②人材：組織研修、パートナー③リスクマネジメント：人、金、生損保、融資④マーケティング⑤社会貢献 【資金形成事業】 仕事、家庭、お金、知識、健康を豊かなものにしていく 【エクスペリエンス事業】 人生を豊かにする活動すべて |
| 43 | ベストワールド株式会社 | 〒101-0047 千代田区内神田 1-7-4 03-3295-4111 | 四大卒 | 海外視察・研修旅行をお世話して 50 年。各教職員派遣をはじめ、業界別視察旅行、中高生対象の英語研修・ホームステイ、企業の社員旅行等を多数主催しております。また、オーダーメイド旅行も承ります。 |
| 44 | 山崎教育システム株式会社 | 〒189-0003 東村山市久米川町 5-33-24 | 四大卒 | 全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売（全国代理店 350 社）。 |
| 45 | ヤマ産業株式会社 | 〒112-0015 文京区目白台 3-26-8 | — | 教育備品を販売して 50 年。学校より信用を得て、安定している。 |

| | 企業会員名 | 所在地 / 電話 / URL | 過去5年間の採用実績 | 企業の概要・特色 |
|----|------------------------|--|-------------|--|
| 46 | 株式会社 読売新聞東京本社 | 〒100-8055 千代田区大手町1-7-1 | 四大卒 大学院卒 | 「読売新聞」は1874年（明治7年）11月の創刊。全国紙として成長し、1994年に発行1000万部を達成した。発行部数は世界一。2011年に「読売KODOMO新聞」、2014年に「読売中高生新聞」を創刊した。 |
| 47 | 涼和綜合法律事務所 弁護士 飯田 豊浩 | 〒105-0001 港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9階 03-3568-2418 http://www.ryowa-law.com/ | — | 2003年に弁護士登録し、18年目を迎えました。 2011年以降、埼玉県内の地方自治体の教育委員会顧問として、学校や教育委員会からの様々なご依頼に対応すると共に、学校の法的対応に関する研修の講師も務めています。 学校で起きる諸問題への対応のほかにも、企業からのご依頼（契約書の作成・確認、債権回収、労務対応等）、個人からのご依頼（遺言・相続、離婚、不動産取引等）に幅広く対応すると共に、遺言や相続に関する講演も行っています。 |

私立高等学校会員名簿

50音順

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|---|---|----|---|---|
| 1 | 愛国高等学校 〒133-8585 江戸川区西小岩 5-7-1 http://www.aikokugakuen.ac.jp/senior-high/ | 全 | 普通科 (160) 商業科 (80) 家政科 (80) 衛生看護科 (40) 衛生看護専攻科 (40) | 昭和13年創立以来、「親切正直」の校訓の下で女子教育を行っている。普通科はA(一般教養)・B(進学)の2コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の2コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科(上級2年課程)は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学(人間文化学部)・短期大学(家政科・栄養士資格)・保育専門学校(幼児教育科幼稚園教諭免許・保育士資格)がある。 |
| 2 | 安部学院高等学校 〒114-0005 北区栄町 35-4 | 全 | 商業科 (200) | 1940年(昭和15年)に創立して以来、一貫して「商業科のみの女子高校」として歩み続け、今年、満78年を迎えました。在校生には、「5つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。2年次よりコース制になり、簿記1級の取得を目指す「会計コース」と、パソコン等の実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の2コースに分かれて授業を行っています。卒業後の進路は、就職希望者よりも進学希望者が多く占めています。 |
| 3 | 岩倉高等学校 〒110-0005 台東区上野 7-8-8 | 全 | 普通科 (330) S特コース (50) 特進コース (60) 総進コース (160) L特コース (60) 運輸科 (120) | 我が国初の鉄道学校として明治30年に創立。多くの卒業生が鉄道・運輸業界で活躍している。平成26年度の入学生から「男女共学化」、「普通科・運輸科の2科システム」を実施し、学校の改革を進めている。普通科にはS特・特進・L特・総進の4コースを設置し、進学教育に注力している。電子黒板を全ホームルーム教室に導入するなど、充実した環境の中で、特色ある教育内容や様々な進路指導を通じて、生徒の夢を具現化するカリキュラムで学力の向上に取り組んでいる。 |
| 4 | NHK学園高等学校 〒186-8001 国立市富士見台 2-36-2 https://www.n-gaku.jp/sch/ | 通 | 普通科 (3475) | 昭和38年(1963年)にわが国で初めての広域通信制高等学校として開校。学習に放送(NHK高校講座)を全面的に取り入れ、どこでも学べる学校として多様な生徒への学びを提供している。月に1~2回登校するスタンダードコース、不登校経験を持つ生徒に向けた登校回数の少ないライフデザインコース、週3日登校する登校コースと生徒の個に応じた学び方を用意している。また、海外在住の方は海外にいなながら放送視聴により学習を進め、帰国は最小限で済むよう工夫されている。 |
| 5 | 大森学園高等学校 〒143-0015 大田区大森西 3-2-12 https://www.omori-gakuen.ed.jp | 全 | 普通科 (280) 国立コース (40) 選抜コース (80) 総進コース (120) 英語コース (40) 工業科 (80) 機械技術コース 電気技術コース 情報技術コース | 昭和14年大森地区中小機械業者62工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。平成17年に普通科を設置し大森学園高等学校と現在の校名に変更。現在普通科は4コース。国立コースは5教科7科目に対応するカリキュラムで国公立大学、選抜コースは難関私立大学、総進コースは有名私立大学への進学を目指す。また英語コースはグローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す。工業科は1年次に工業各分野の基礎を学び、2年次より機械・電気・情報の3コースに分かれ、各種資格も取得しながら専門的技術と知識の習得を目指す。 |
| 6 | 科学技術学園高等学校 〒157-8562 世田谷区成城 1-11-1 https://tsushin.kagiko.ed.jp/ | 通 | 普通科 (2,750) 電気科 (900) 機械科 (600) | 昭和39年に広域通信制工業高等学校として創立し、昭和52年現校名に変更する。企業内訓練校を中心とした技能連携コースと個人を対象とした単位制コースがあり、単位制コースは、登校日数を選んで登校する「通学型クラス」、インターネットでスクーリングを受ける「eラーニングコース」があり、生徒個々人のライフスタイルに合わせた学習環境を選べるコースを設置している。また、様々な分野で海外へ留学する生徒も多数在籍している。 |
| 7 | 蒲田女子高等学校 〒144-8544 東京都大田区本羽田 1-4-1 https://www.kanno.ac.jp/ | 全 | 普通科 特別進学コース (25) キャリアコース (145) 幼児教育コース (80) | 漢学者・教育者である学祖簡野道明の「子どもの教育にとって最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本である」「人間生活を律する根本の筋金は道徳なり」との教育理念に基づき昭和16年に夫人の信衛によって設立。特別進学コースは、生徒一人ひとりに的確な学習計画を提供し、合格まで担当教員全員でサポート。個別指導でわかるまで徹底的に指導。キャリアコースは、14パターンのカリキュラムの中から学びたい授業展開を選択可能。幼児教育コースは、保育者に必要な知識・技術を学び幼稚園教諭と保育士資格の同時取得を目指す。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|--|----|---|--|
| 8 | <p>京華商業高等学校</p> <p>〒112-8612 文京区白山5-6-6</p> <p>https://www.keika-c.ed.jp/</p> | 全 | 商業科 (150) | <p>創立者磯江潤が「豊かな実務知識をそなえた経済人の養成」を目的として1901年に設立された学校です。その精神を永きにわたり実践し、多くの優秀な人材を輩出してきました。生徒個々の可能性を大切に個性を伸ばすことはもちろん、資格取得に対応したカリキュラムの編成や放課後講習の実施。自己肯定感を育てながら、進学実績も年々増加しています。</p> <p>実学教育を中心として人間形成に重きを置き、長い人生の宝物を獲得することに主眼を置いた三年間は、卒業生たちの高い満足感に繋がっています。</p> |
| 9 | <p>昭和第一学園高等学校</p> <p>〒190-0003 立川市栄町2-45-8</p> <p>https://www.sdg.ed.jp</p> | 全 | 普通科 (456) 特別選抜コース (16) 選抜進学コース (120) 総合進学コース (320) 工学科 (120) | <p>1940(昭和15)年昭和第一工業学校として創立。1989(平成元)年より昭和第一学園高等学校と改称し、男女共学、普通科・工学科の総合学園となる。2018(平成30)年4月より普通科に新たなコースを設置、グローバル化に対応できる人材の育成を目指す。工学科は2017(平成29)年度よりコースを統合。他分野を総合的に学びつつ進路希望に合わせて履修科目を選択できる。高大専連携により大学等の実習機材でデジタルなもののづくりを学ぶ。進学支援センターによる学習支援、キャリアカウンセラーによる相談、資格取得支援により「確かな学力と豊かな人間性に支えられた人間力の育成」を目指す。</p> |
| 10 | <p>昭和鉄道高等学校</p> <p>〒170-0011 豊島区池袋本町2-10-1</p> | 全 | 鉄道科 (200) | <p>校名に「鉄道」を冠した、日本で唯一の高校である。昭和3年(1928年)創立、以来一貫して、鉄道・交通を中心とする産業教育をすすめる、現在まで20,000名以上の卒業生を鉄道界を中心に送り出している。社会情勢に鑑み、平成16年(2004年)に男女共学とした。鉄道科のみを設置している。</p> |
| 11 | <p>大成高等学校</p> <p>〒181-0012 三鷹市上連雀6-7-5</p> <p>https://www.taisei.ed.jp/</p> | 全 | 普通科： 特別進学コース (75) 文理進学コース (290) 情報進学コース (40) | <p>1897年大成学館尋常中学校として創立以来、校名由来である「大器晩成」を教育理念とし、生徒の個性や可能性をさらに磨き、将来社会に役立つ人間として大きく成長するように、一人ひとりを丁寧に育てる教育方針のもと発展している高等学校です。特に学んだことを活かすための知力を育て、人としての徳を重んじ、課題発見力、問題解決力を身につける教育および何事にも積極的にチャレンジしていく心の教育により、時代に合った人材育成を行っています。情報進学コースは時代を先取りしたカリキュラムが組み込まれているコースです。</p> |
| 12 | <p>中央学院大学中央高等学校</p> <p>〒136-0071 江東区亀戸7-65-12</p> <p>http://www.cguch.ed.jp/index.php</p> | 全 | 普通科 (50) 商業科 (50) | <p>本校は1900年(明治33年)に創立し、令和2年に120周年を迎えました。永い歴史と伝統の中で、「誠実に謙虚に生きよ 温かい心で人に接し 奉仕と感謝の心を忘れるな 常に身を慎み 反省と研鑽を忘れるな」の建学の精神の下「倫理観」を持った誠実な人間の育成を指導理念として、人格教育を実施しています。生徒一人ひとりの興味・関心・能力を見極め、秘めた可能性を引き出すことに力を注いだ教育活動に励んでいます。全生徒がタブレットを持ち、電子黒板兼用プロジェクターを活用したICT教育を実施し、進学においても中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導を行っています。</p> |
| 13 | <p>東京実業高等学校</p> <p>〒144-0051 大田区西蒲田8-18-1</p> | 全 | 機械科 (135) 電気科： 電気コース (45) ゲームITコース (45) 普通科： ビジネスコース (180) 文理コース (90) | <p>1922年創立の総合学園として各科・コースの生徒は目的を持って学校生活を送っており、特に各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定にも役立てています。また、1967年より国際理解教育の一環として、米国コロラド州ボルダー地区の公立高校との交換留学生制度を設けています。電気科ゲームITコースと文理コースの生徒は土曜日に特別授業を実施しています。</p> |
| 14 | <p>日本工業大学駒場高等学校</p> <p>〒153-8508 目黒区駒場1-35-32</p> <p>http://nit-komaba.ed.jp/</p> | 全 | 普通科： 特進コース (60) 理数特進コース (30) 総合進学コース (200) 文理未来コース (70) | <p>明治40年創立の本校は、当初中堅技術者の育成を掲げて工業教育一筋に運営して来ました。平成20年に普通科3コース(特進・理数特進・総合進学)を併設して中堅進学校を目指す方途を選びました。この10年間の普通科運営の成果を基礎に3コースに加え「つくる喜びの体験」を大切に「文理未来コース」を設け、普通科専一校として新たな目標に向かってスタートします。「高い自己目標の実現と楽しい学校生活の調和」を目指すこと、周りには優しく、自己には厳しく律する勁い心を育む努力を続けること、を掲げ教育運営にあたっています。</p> |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和 3 年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|---|----|---|---|
| 15 | 日野工業高等学園 〒 191-8660 日野市日野台 3-1-1 http://www.hino.co.jp/ hinogakuen/ | 通 | (60) | 日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダーの育成を目指す企業内訓練校です。科学技術学園高等学校と連携し、高等学校教育を学びながら専門技能の習得を行います。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があり、生産職場での実習も行います。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。 |
| 16 | 広尾学園小石川高等学校 〒 113-8665 文京区本駒込 2-29-1 https://hiroo-koishikawa.ed.jp/ | 全 | インターナショナル (AG) (40) インターナショナル (SG) (40) 本科 (40) | 2021 年 4 月より校名を広尾学園小石川高等学校と変更し、新しい一歩をスタートします。現代のグローバル化が進み多様性が求められる時代を生きる、これからの生徒たちのために、知識だけではなく、ものごとの本質を追求する学びを提供します。インターナショナルコースは、各分野の外国人教員が英語で授業を行う AG と、入学してから英語力を伸ばしていく SG が融合してクラスを構成。お互いに刺激しあいながら成長します。本科コースは、1 年から本格的キャリア教育プログラムを経験して視野を広げ、学習習慣を確立します。 |

都立高等学校会員名簿

農業に関する学科

| | | | | |
|---|---|------------|--|---|
| 1 | 都立園芸高等学校 〒 158-8566 世田谷区深沢 5-38-1 【全日制】 https://www.metro.ed.jp/engei-h/ 【定時制】 http://www.engei-h.metro.tokyo.jp/ | 全 定 | 園芸科 (70) 食品科 (35) 動物科 (35) 園芸科 (30) | 1908 年 (明治 41 年) に創立し 112 年の歴史を有する、全国農業系高校の中心校です。100 年前に日本からサクラを送ったお礼に米国から頂いた「ハナミズキ」が我が国で唯一現存しており、105 年の樹齢を重ねています。さらに、徳川三代将軍家光公遺愛の松の盆栽など歴史的財産が校内随所にあります。全日制は園芸科、食品科、動物科があり、「体験・体感」を重視し、生徒の多様な進路を実現しています。進学が 7 割、就職が 3 割です。定時制園芸科では農業に関する資格取得に取組むとともに、大人を対象とした園芸技術専修生制度もあり、夜間 2 年間の専門学習で卒業ができます。 |
| 2 | 都立農業高等学校 〒 183-0056 府中市寿町 1-10-2 http://www.nogyo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 定 | 【農業に関する学科】 都市園芸科 (35) 緑地計画科 (35) 食品科学科 (35) 【家庭に関する学科】 服飾科 (35) 食物科 (35) 食品化学科 (30) 普通科 (30) | 全日制課程の農業に関する学科 (都市園芸科、緑地計画科、食品科学科) では、都立高校初の東京都 GAP 認証取得や、府中市と連携した環境保全活動に取り組んでいる。都立高校唯一の学科である家庭に関する学科の服飾科と食物科 (調理師免許が取得できる) では、ファッションクリエイターや食生活の充実に貢献する調理師を育成している。定時制課程では、「他者への思いやりをもって、未来を切り拓く人間の育成」の教育目標を達成するため、食品化学科と普通科において特色ある教育活動を実践し、生徒たちの進路実現を図っている。 |
| 3 | 都立農芸高等学校 〒 167-0035 杉並区今川 3-25-1 http://www.nogei-h.metro.tokyo.jp/ | 全 定 | 園芸科学科 (35) 食品科学科 (70) 緑地環境科 (35) 農芸科 (30) | 明治 33 年 (1900 年) 創立。都立農業系高校の中で一番歴史のある学校です。都心の住宅地において、緑に囲まれた校舎と実習棟や農場など広大な校地を有し、生徒は夢の実現に向けて伸び伸びと学習しています。「環境教育実践宣言校」として、都市及び自然環境、食環境などの創造とゴミの減量・節電等に取り組む、持続可能な産業社会を担う人材の育成を目指しています。全日制課程では都庁前広場や地元阿佐ヶ谷駅前の花壇作り、保育園・小学校等の児童との農場体験活動、定時制課程では日本点字図書館の植栽など、普段の学習を生かせる場も多く、生徒は主体性と自己有用感を育んでいます。都立高校唯一の馬術部を設置。東京都 GAP、JGAP 認証取得。 |
| 4 | 都立農産高等学校 〒 124-0002 葛飾区西亀有 1-28-1 | 全 定 | 園芸デザイン科 (70) 食品科 (70) 農産科 (30) | 東京都東部にある唯一の農業高校で、「食と緑と農を創造する学校」として地域に根ざした教育活動が行われている。全日制では、2 学科 4 類型を設置している。園芸デザイン科では、草花や野菜の栽培、バイオテクノロジー、フラワーデザイン、造園など、食品科では食品の原材料の栽培から加工・流通、食品化学実験、食品デザインまで幅広く関連分野を体験・体感しながら学んでいる。定時制は、農産科として園芸系と食品系の両方を学ぶことができる農業高校として、生徒は落ち着いた環境の中で生き生きと学習や部活動に取り組んでいる。全日制・定時制ともに、キャリア教育の充実や農業の 6 次産業化を踏まえた実践的な経営学習、学校農業クラブ活動の充実、FPJ 検定の実施、アグリマイスター顕彰制度への取り組みなどをとおして自己の可能性を伸長させるとともに、農業関連分野を中心とした生徒の第一志望の実現を図る教育活動を展開している。 |
| 5 | 都立瑞穂農芸高等学校 〒 190-1211 西多摩郡瑞穂町石畑 2027 http://www.mizuho-h.metro.tokyo.jp/ | 全 定 | 畜産科学科 (35) 園芸科学科 (35) 食品科 (35) 生活デザイン科 (70) 併合科 (普通・農業) (30) | 生命 (いのち) に学ぶ学校～生命 (いのち) に学び夢を叶える～をキャッチコピーに、地域密着型の教育を推進している。園芸科学科の駅や町をはじめ都民広場での花壇作り。畜産科学科の移動動物園や動物ふれあい体験活動。食品科の江戸東京野菜を用いた「七色唐辛子」による地域活性化プロジェクト。生活デザイン科の高齢者施設や保育所等への訪問とボランティア活動。また、定時制課程の里山保全への取組や瑞穂町ボランティア、農業ボランティアなど、グローバル校としての活動は、地域の方々から感謝されるとともに大きな期待をもたれている。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|-----------------|---|----|---|---|
| 工業に関する学科 | | | | |
| 6 | 都立足立工業高等学校 〒123-0841 足立区西新井 4-30-1 | 全 | 総合技術科 (140) | 本校は、昭和38年に開校した工業高等学校で、平成9年に学科改編し総合技術科となった。 平成30年度より教育課程を見直し、機械加工コース・生産技術コース・電気システムコース・制御システムコース・情報コミュニケーションコースの5コースを2年生から選択します。2年生全員のインターンシップでは足立区内の企業限定で実施し、地域密着と地域連携を推進している。 |
| 7 | 都立荒川工業高等学校 〒116-0003 荒川区南千住 6-42-1 http://www.arakawakogyo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 電気科 (35) 電子科 (35) 情報技術科 (70) | 「ものづくりは、ひとづくりから」を教育理念に、人間力の育成を目指している。電気工事士などの資格取得など、産業社会を支える人材として活躍するためにも、ものづくりに関する技術・技能はもちろんのこと、社会人としての常識やマナーを確実に身に付ける取組を行っている。特に、運動系部活動や学校行事への積極的な参加を推奨し、仲間とともに目標に向かって努力することの大切さを体感させる充実した高校生活へと導く生徒支援体制を強化している。就職希望者の決定率は、例年100%である。 |
| | | 定 | 電気・電子科 (30) | |
| 8 | 都立葛西工業高等学校 〒134-0024 江戸川区一之江 7-68-1 | 全 | 機械科 (35) 電子科 (35) 建築科 (70) デュアルシステム科 (35) | 昭和38年に開校した本校は、東京都教育委員会よりデュアルシステム科設置の指定を受け平成30年度より新しくなりました。機械科・電子科・建築科・デュアルシステム科の4科5クラスの学校になりました。 ①地域産業会と連携した授業を行っています。②施設が充実しており、設備拠点校実習を行っています。③地元の「ねぶた祭」とおして、小中学校と連携しています。④防災教育として地域の消防関係と連携しています。また、幼稚園の避難訓練をサポート等、様々な機関と連携し地域貢献をおとした、工業人・職業人の育成を目指しています。 |
| 9 | 都立北豊島工業高等学校 〒174-0062 板橋区富士見町 28-1 https://www.metro.ed.jp/kitatoshimakogyo-h/ http://www.kitatoshimakogyo-h.metro.tokyo.jp/site/tei/ | 全 | 総合技術科 (140) | 大正9年に創立され、令和2年に100周年を迎えた。社会に有用な人材育成を行い、約2万名の卒業生を社会に送り出している。機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を広く学び、社会に貢献出来る人材育成に取組み、電気工事士、危険物取扱者、工事担任者などの社会で役立つ資格取得に力を入れ、確かな進路実現を図り、就職決定100%を保持している。東京都教育委員会より、デュアルシステム推進校として指定を受け、企業と連携したデュアルシステムを取り入れた教育課程を編成している。さらに今年度よりPBL推進校として指定を受け新しい取組みを始めた。また、工業実習の設備拠点校としての指定を受けており、施設設備を整え、近隣の工業高校と連携し、ものづくりの技術・技能の習得と継承に力を入れている。 定時制課程は機械科の単科であり、各学年一学級30人定員で、ものづくりの加工技術・技能を習得し、確かな進路実現を目指し、人材育成に取り組んでいる。 |
| | | 定 | 機械科 (30) | |
| 10 | 都立蔵前工業高等学校 〒111-0051 台東区蔵前 1-3-57 | 全 | 機械科 (70) 建築科 (35) 電気科 (35) 設備工業科 (35) | 創立90年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only Oneのものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。 開校以来2万人を超える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。 卒業後の進路は、進学との割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野へ進学しています。 |
| | | 定 | 建築工学科 (30) | |
| 11 | 都立工芸高等学校 〒113-0033 文京区本郷 1-3-9 http://www.kogei-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | マシクラフト科 (35) アートクラフト科 (35) インテリア科 (35) デザイン科 (35) グラフィックアーツ科 (35) | 本校は、100年を超える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。Only Oneのものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、心豊かな人間性のある生徒を育てています。 開校以来2万人を超える卒業生の中には、人間国宝の方・文化勲章受章者も多く、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアなど社会で幅広く活躍しています。また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種の競技で常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の実力、教育実践は全国のトップクラスで内外から高く評価されています。 卒業後の進路は、進学との割合が多く美術系の国公私立大学を中心に幅広い分野へ進学しています。 |
| | | 定 | マシクラフト科 (30) アートクラフト科 (30) インテリア科 (30) グラフィックアーツ科 (30) | |
| 12 | 都立小金井工業高等学校 〒184-0004 小金井市本町 6-8-9 | 定 | 機械科 (30) 電気科・電子科 (30) | 平成22年3月に全日制課程が閉課程となり、平成22年度から定時制単独校になる。施設・設備が充実していて、多摩地区唯一の定時制工業高校である。校舎の改築・改修工事が進み、新校舎が平成23年8月に完成した。平成23年9月から座学の授業は新校舎で、実習の授業などは改修した新しい実験・実習棟で行っている。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|---|----|---|---|
| 13 | 都立杉並工業高等学校 〒167-0023 杉並区上井草 4-13-31 | 全 | 機械科 (70) 電子科 (35) 理工環境科 (35) | 本校は、「学ぶ・創る・考える 未来のスペシャリストを目指して」「ものづくりの心をもって 将来を切り拓く、無限なる可能性」2つのスローガンを掲げ、58年の伝統の上に新しい伝統の上に新しい取り組みを重ね一人一人の夢の実現に向けた教育活動を行っています。「課題研究」を柱に普通教科と専門教科を融合体系化した教育課程を実践し、授業を通じて生徒の学力を伸ばしています。そして、部活動・特別活動を通じて、心身を鍛え、思考力・判断力・表現力を磨き、人間力を磨いています。 |
| 14 | 都立墨田工業高等学校 〒135-0004 江東区森下 5-1-7 http://www.sumida-th.metro.tokyo.jp/ | 全 | 機械科 (35) 自動車科 (35) 電気科 (70) 建築科 (35) | 令和2年に創立120年を迎えた伝統校である。全日制は、4学科をもつ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組み、進路希望達成率100%を維持している。創立119年を迎える歴史と伝統があり、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。定時制においても全日制と同じく進路希望達成率100%を実現しており、生徒一人一人に応じた実践的教育に取り組んでいる。 |
| | | 定 | 総合技術科 (30) | |
| 15 | 都立総合工科高等学校 〒157-0066 世田谷区成城 9-25-1 http://www.sougou-kouka-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 機械・自動車科 (35) 電気・情報デザイン科(70) 建築・都市工学科 (70) | 平成18年4月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校した。全日制では、理工系大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、約40科目の自由選択科目を設定することで、さまざまな進路希望に対応している。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動の振興を図っている。定時制では、資格取得を中心に、2年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの3コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3年間での卒業が可能な三修制を実施している。 |
| | | 定 | 総合技術科 (30) | |
| 16 | 都立田無工業高等学校 〒188-0013 西東京市向台町 1-9-1 http://www.tanashikougyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/ | 全 | 機械科 (70) 建築科 (70) 都市工学科 (35) | 本校は昭和37年4月に開校し、創立57年目を迎える工業高校である。設置学科は機械科、建築科、都市工学科の三科からなり、都市工学科は全国でも数少ない学科である。また建築科は多摩地区の工業高校では本校のみに設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの学科も地域に根差した技術者の育成を目標としている。またデュアルシステムを導入し、三年間を通して体系的にキャリア教育を実践している。令和元年度、2年度は東京都西部学校経営支援センター特別指定校として指定され「ものづくり」を通じた障害者・高齢者理解教育の推進に取り組んでいる。 |
| 17 | 都立多摩工業高等学校 〒197-0003 福生市熊川 215 http://www.tamakogyo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 機械科 (70) 電気科 (35) 環境化学 (35) デュアルシステム科 (35) | 本校は、都立工業高校モデル校として、平成30年度より機械・電気・環境化学の3科すべてを学べるデュアルシステム科を開設した。地域企業の求める人材の育成につながり、産業界から評価されている。都立で唯一の「環境省認定エコアクション21」認証校であり、環境化学科は都内唯一の学科である。各科目とも資格取得に向けて積極的に指導が実践され成果を出している。多くの部活動で本校が会場校になるなど、活発に活動し大きな成果をあげている。 |
| 18 | 都立中野工業高等学校 〒165-0027 中野区野方 3-5-5 | 全 | キャリア技術科 (140) | 全日制課程は、工業高校として2校目のエンカレッジスクールであり、可能性はありながら力を発揮しきれずにいる生徒が、3年間を通して社会人として必要な基礎・基本を身に付けるとともに、ものづくりを通して自己の在り方生き方を見つめ、社会人として自立していく力を培うために自らの可能性を信じてチャレンジする学校です。また、定時制課程では、1年次後半から機械類型、食品工業類型のいずれかを選択し、専門性を深めることができます。 |
| | | 定 | 総合技術科 (30) | |
| 19 | 都立練馬工業高等学校 〒179-8909 練馬区早宮 2-9-18 https://www.metro.ed.jp/nerimakogyo-h/ | 全 | キャリア技術科 (175) | 平成18年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3年生では6系列（機械加工技術、オートメカニック技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP技術、インテリア技術）から選択して、より専門的な学習を行います。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|--|----|--|---|
| 20 | 都立府中工業高等学校 〒183-0005 府中市若松町2-19-1 https://www.metro.ed.jp/fuchukogyo-h/ | 全 | 機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35) | <ul style="list-style-type: none"> 「ものづくり人材育成プログラム」の指定を受け、電気工事士、DD3などの各種資格取得に向けた指導に積極的に取り組んでいる。 インターハイ出場の陸上競技部をはじめ、硬式野球部、バスケットボール部、軽音楽部、自動車整備部など活発に活動し、実績を上げている。 |
| 21 | 都立本所工業高等学校 〒125-0035 葛飾区南水元4-21-1 | 定 | 総合技術科 (30) | <ul style="list-style-type: none"> 本校は、80年以上の伝統ある夜間定時制の工業高校として機械・電気・電子の有能な技術者を育成することを目的としています。 総合技術科として、1学年では工業の基礎全般を学び、2学年からは機械・電気・電子の各類型に希望で分かれて、専門知識や技術を学習します。 特色ある教育活動を通して4年間にわたるキャリア教育を充実させ、生徒の意欲を引き出し進路実現に繋げる「面倒見のよい学校」です。 基礎学力の充実ともものづくりの技術力向上を推進し、きめ細かい専門教育や生活指導、資格取得の推奨、オリパラ学習、校外学習、奉仕体験活動、文化祭、防災活動、インターンシップなど、地域連携を行いながら交流を深めていく学校です。 |
| 22 | 都立町田工業高等学校 〒194-0035 町田市忠生1-20-2 | 全 | 総合情報科 (175) | 本校は、きめ細かな指導体制と充実した施設・設備（特にPC台数やネットワーク環境）を備えた都立で唯一の「総合情報科」の工業高校です。1年では全系列に関連する工業基礎科目を学習し、2・3年では興味・関心、進路希望に基づき、情報デザイン、情報テクノロジー、電気システム、機械システムの4系列の中から一つに所属し、企業等との連携を通して専門性を深めるとともに社会人基礎力を高め、「Society5.0」で活躍できる技術者の育成を目指しています。 |

工業に関する学科（単位制）

| | | | | |
|----|--|------------|--|--|
| 23 | 都立六郷工科高等学校 〒144-0046 大田区東六郷2-18-2 http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/ | 全 定 | プロダクト工学科 (35) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35) デュアルシステム科 (35) ※在京外国人生徒選抜全学科 (各3名) | 平成16年4月に開校し、全国初の東京版デュアルシステム、夜間定時制課程を設置しています。将来のものづくりを担う人材育成に向けて、地域企業と連携を行いながら取り組んでいます。令和3年度4月から日本工学院との教育連携によるAIシステム・eスポーツ等の先端技術を学べる新規講座を開設します。また、令和3年度より在京外国人入学選抜枠を全学科で各3名の募集を行います。 定時制では、3修制を取り入れた生産工学科と普通科がある。地域商店街や他校と連携した“ねぶた祭り”は14年の伝統を持つ。 |
|----|--|------------|--|--|

科学技術科

| | | | | |
|----|--|---|-------------|---|
| 24 | 都立科学技術高等学校 〒136-0072 江東区大島1-2-31 | 全 | 科学技術科 (210) | 平成13年に都立高校で初めて「科学技術科」を設置した新しいタイプの進学型専門高校です。開校以来、科学技術教育を通じて、創造性、問題解決能力、コミュニケーション能力を養い、将来の科学技術者・研究者として工学系、理学系、農学系、薬学系、医療系などの分野で活躍できる人材の育成を目指しています。材料・流体・力学系、電子・情報系、化学・バイオ系などの科学技術の基礎的な知識や基本的な技能に関する幅広い学習と、理系大学進学に必要な数学、英語、理科などの普通教科の学習、自ら深く考え他者と対話しながらまとめ外部に発表する力を身に付ける特色ある教育活動に力を入れています。 |
| 25 | 都立多摩科学技術高等学校 〒184-8581 小金井市本町6-8-9 | 全 | 科学技術科 (210) | 理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高める。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。 |

商業に関する学科

| | | | | |
|----|---------------------------------------|---|----------------------|--|
| 26 | 都立足立高等学校 〒120-0011 足立区中央本町1-3-9 | 定 | 普通科 (30) 商業科 (30) | 学級数11、在籍生徒数約200名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は4学級（各学年1学級）である。学校規模を生かした定時制単独の文化祭やスポーツ大会など、数多くの学校行事が行われている。運動部を中心に部活動も盛んであり、定通の全国大会にも出場している。定時制専用の情報処理教室があり、令和2年度に更新された。コンピュータ会計の資格取得の指導等もやっている。 |
|----|---------------------------------------|---|----------------------|--|

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和 3 年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|---|--------|--|--|
| 27 | 都立荒川商業高等学校 〒 120-8528 足立区小台 2-1-31 | 全 定 | 募集停止 | 本校は生徒が運営するレガロ工房模倣株式会社による、地域に根ざした取り組みが高く評価されている。平成 30 年度と令和元年度は東京都生徒商業研究発表大会にて活動を発表、「最優秀賞」を受賞し全国大会に 2 年連続で出場した。平成 30 年度には夕張メロンカップを開催した。毎年全国産業教育フェアにも参加している。デザイン系列の生徒は地元商店会の PR フラグのデザインを考案（年 4 回更新）したり、情報系列の生徒は企業からの注文を受け Web 制作をしている。会計系列の生徒は平成 29 年度全国高等学校簿記コンクールで最優秀賞を受賞し、全国大会に出場した。学習活動では「生活英語」の生徒が平成 30 年度イングリッシュビジネスプランコンテストで準優勝を獲得した。部活動ではダンス部が平成 28 年度と 29 年度に全国大会に出場した。 |
| 28 | 都立五日市高等学校 〒 190-0164 あきる野市五日市 894 http://www.itsukaichi-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 普通科 ことばと情報コース (159) 商業科 令和 2 年度から募集停止 | 本校は東京の最西部に位置し、全日制は令和 3 年度まで「ことばと情報コース」を継続します。今年度入学生から普通科のみとなり、教育課程も大学進学もできる科目を学びます。2 年生からはアウトドア、マネジメント、アドバンスの 3 類型となり地域の特色を活かした教育活動を行います。入学者選抜では、野球、サッカー、男子テニス、剣道、女子バスケットボール部で特別推薦を実施します。なお、定時制課程は平成 31 年度入学生から普通科のみとなり、全日制同様地域と連携した取組をこれまで以上に実践していきます。 |
| | | 定 | 普通科 (30) | |
| 29 | 都立葛飾商業高等学校 〒 125-0051 葛飾区新宿 3-14-1 http://www.katsushikashogyo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | ビジネス科 (210) | 全日制は、令和 3 年に創立 60 周年を迎える、地域に根ざした専門高校として、キャリア教育を推進し、生徒一人ひとりの進路実現に取り組んでいる。また、健全育成に努めるとともに、資格取得指導と実学のビジネス教育の充実を図り、商品開発や店舗販売実習などを実施し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。29～31 年度アクティブ・ラーニング推進校、30～31 年度 NIE 実践校、31～令和 3 年度 ALCM コミュニティ参加校の指定を受けて、あらゆる機会を通して生徒の資質向上と学校生活の充実に取り組んでいる。なお、29 年度より、JRC 学校加盟校として、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。定時制では進路実現を目指し、基礎学力〔葛商ミニマム〕の定着、資格取得の支援をしている。また、かつしか元気野菜の販売等を通じて社会体験を積ませている。 |
| | | 定 | 普通科 (30) 商業科 (30) | |
| 30 | 都立江東商業高等学校 〒 136-0071 江東区亀戸 4-50-1 http://www.kotoshogyo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | ビジネス科 (175) | 今年創立 115 年を迎え、都立商業高校の伝統校としての役割を担っています。ビジネス三言語 (IT、会計、英語) に力点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでおり、社会人としての必須のマナーを身に付け学んで楽しい学校作りを目指しています。生徒に愛され、地域から親しまれ、都民の皆様信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動を推進しています。 |
| 31 | 都立芝商業高等学校 〒 105-0022 港区海岸 1-8-25 http://www.shibashogyo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | ビジネス科 (175) | 創立 96 周年を迎えた東京都の商業高校の拠点校です。これからの社会で必要とされる「創造的な力」と「実践的な態度」を育成するために、1 年生全員のインターンシップ、浜松町・竹芝地区の企業等との連携、福井県池田町との交流等、特色ある教育活動を展開しています。また、資格取得やマナー指導にも定評があり、これらの取組が評価され平成 30 年度にはキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰を受賞しました。JR 浜松町駅・都営地下鉄大門駅・ゆりかもめ竹芝駅徒歩 5 分に位置する、ビジネス教育には最適な環境にある伝統校です。 |
| 32 | 都立第一商業高等学校 〒 150-0035 渋谷区鉢山町 8-1 | 全 | ビジネス科 (210) | 学校創立 100 年を迎える商業の伝統校である。東京都の商業高校のリーダーとして、生徒から「第一商業に入学してよかった」、地域から「第一商業があってよかった」、職員から「第一商業に勤務して良かった」と言われる学校を目指している。大学進学・企業就職の両方に対応した教育課程と進路指導が充実している。進学では、商業科目等での学びの成果として取得した高度な資格等を活用し、指定校推薦や公募推薦等で多くの大学に現役合格している。部活動では、ソフトボール部や女子バレー部、簿記部、軽音楽部などが盛んであり、地域連携では、学校開放事業、地域の行事への参加、公開講座や出前授業等「地域に学び、地域に貢献する学校」として高い評価を得ている。 |
| 33 | 都立第三商業高等学校 〒 135-0044 江東区越中島 3-3-1 http://www.daisanshogyo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | ビジネス科 (210) | 全・定ともに、多くの卒業生が実業界や経済界の中枢で活躍しています。まさに校歌に謳われるように「日本の富を担う」学校です。「生徒一人ひとりが光り輝く学校『SUN 商』というコンセプトに基づき、生徒の思いや願いを実現するため、次の Mission Statement (使命宣言) を約束します。 ①充実した商業科目の学習により、将来に役立つ資格取得を応援します。 ②習熟度別による丁寧な指導により、国語・数学・英語の基礎学力を向上させます。 ③卒業後の進路実現 100% を目指します。 ④地域と連携し、地域から愛される学校を目指します。 |
| | | 定 | 商業科 (30) | |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|-----------------------|---|----|-------------------------|---|
| 34 | 都立第四商業高等学校 〒176-0021 練馬区貫井 3-45-19 http://www.daiyonshogyo-h.metro.tokyo.jp/site/zen/ | 全 | ビジネス科 (175) | 「マナーの四商、資格の四商、実学の四商、社会人基礎力を養成する学校」として、昭和15年の開設から今日に至るまで、80年の伝統と歴史の中で、一貫して産業界で活躍する多くの有為な人材を育成してきました。平成30年度より、商業科と情報処理科が統合されビジネス科となりましたが、情報処理科の知識・技術は、選択科目を通じて、系統的に学ぶことができ、ITパスポートや各種検定取得などで、着実に身に付けることができます。また、大学や企業などの外部機関と連携して、調査・研究や商品開発を行うなど、実学のビジネス教育を推進しています。部活動でも、関東大会出場のアーチェリー部の他、硬式野球部、サッカー部、女子バスケットボール部、女子ソフトボール部、吹奏楽部などが、活躍しています。 |
| 35 | 都立第五商業高等学校 〒186-0004 国立市中 3-4-1 http://www.daigoshogyo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | ビジネス科 (210) | 全日制課程は、創立78年を迎えた多摩地区唯一の伝統ある商業高校です。平成30年度から都教育委員会の施策による商業科からビジネス科への改編にあたり、教育課程を変更し、7時限45分授業をスタートしました。これまで取り組んできた高度資格指導に加えて、高大連携や地域連携等の充実を図り、新しいビジネス教育を推進します。また、大学進学指導と都立高校屈指の就職実績についてもさらに磨きをかけていきます。定時制課程は、「基礎・基本の学習を徹底」「楽しい行事」「部活動がさかん」「夢が実現する進路」「充実した施設設備」を特色とする伝統校です。平成28年度から標準服を制定しました。過去にパソコン部が全商ワープロ全国大会に4年連続出場しています。 |
| | | 定 | 商業科 (30) | |
| ビジネスコミュニケーション科 | | | | |
| 36 | 都立千早高等学校 〒171-0044 豊島区千早 3-46-21 http://www.chihaya-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | ビジネスコミュニケーション科 (210) | <ul style="list-style-type: none"> 英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 「使える英語」を目指して学校設定科目「多読と発表」を授業に取り入れている。英会話もイングリッシュキャンプ(1年)、海外修学旅行(2年)、海外ビジネス研修(希望者)などの学校行事で実践。 新しいビジネス教育分野にNPO/NGOを学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学指導が特色。今後は、SDGsを柱とする授業を展開していく。 |
| 37 | 都立大田桜台高等学校 〒143-0027 大田区中馬込 3-11-10 http://www.oota-sakuradai-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | ビジネスコミュニケーション科 (175) | 「使える英語」教育と「役立つビジネス」教育を学校教育の2本柱とした進学型専門高校です。13,000冊以上の英語図書を活用した「多読・多聴」の授業や、1年生英語合宿「イングリッシュ・サマーキャンプ」、2年生海外修学旅行、海外からの交流生受け入れなどを通して、「使える英語」を楽しく学びます。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「プレゼンテーション」等のビジネス科の特色ある授業や、各種コンテストへの出場、企業と連携したビジネスに関する研究活動などを通して、「役立つビジネス」を社会から学びます。さらに、ブックトーク・フェスティバル、百人一首大会などを行い、生徒の言語活動を推進しています。 |
| 家庭に関する学科 | | | | |
| 38 | 都立忍岡高等学校 〒111-0053 台東区浅草橋 5-1-24 http://www.shinobugaoka-h.metro.tokyo.jp | 全 | 普通科 (160) 生活科学科 (70) | 普通科と生活科学科を併置する全日制・単位制の学校として、平成18年度に改編され、14年目を迎える。生活科学科の目標は、「大学進学希望の実現」と「将来のスペシャリストとして必要な資質・能力の育成」である。単位制を活用した、多様な選択科目を設置するとともに、大学や専門学校と連携した模擬授業や大学教授・市民講師による専門性の高い授業を展開している。7・8限の自由選択科目では、茶道、華道、将棋、日本舞踊などの「日本の伝統文化」、中国語、フランス語、韓国語などの「語学」、「自己表現」力を高める朗読、モダンバレエなどの特色ある講座を設置している。 |
| 福祉に関する学科 | | | | |
| 39 | 都立野津田高等学校 〒195-0063 町田市野津田町 2001 http://www.nozuta-h.metro.tokyo.jp/site/zen/ | 全 | 福祉科 (35) | <p>【福祉科の概要】平成8年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成18年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。現在、介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。</p> <p>【特色】・介護、福祉、医療などの専門的な知識・技術の習得。</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動による地域との交流。 福祉施設実習を通しての実践的な学習。 |
| 国際関係に関する学科 | | | | |
| 40 | 都立大島海洋国際高等学校 〒100-0211 大島町差木地字下原 996-1 http://www.osima-kaiyokokusai-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 海洋国際科 (80) | 「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験的な国際教育・海洋教育により、21世紀の課題を発見・探求するとともに、これに貢献する高い志と国際化社会に対応する優れたコミュニケーション能力、良識、学力、逞しさをもつ国際人を育成します。2年生からは「国際系」と「海洋系」に分かれ、前者は国際的な視野を持ち4年制大学を目指し、後者は海洋系大学進学向けに海洋のスペシャリストを目指します。また、都立高校唯一の実習船大島丸による航海学習を行い、寄宿舎においては自律的な生活習慣を育て、「宅習3時間」による学習習慣により、生徒の進路実現を図ります。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|------------------|---|----|---|---|
| 併合科 | | | | |
| 41 | 都立大島高等学校 〒100-0101 大島町元町字八重の水127 http://www.osima-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 普通科 (80) 併合科 (農林・家政) (35) | 併合科では、専門科目の基礎から応用まで実習を通して実践力を身に付けます。農林では野菜・畜産・草花・森林分野で地域産業振興を重視した学習活動を行います。特産のツバキに関しては、世界水準の学校椿園(平成28年ICS優秀つばき園認定)での研究も可能です。家政はスペシャリストの育成に向けて、ものづくりマイスターの招聘等、教科書にはない専門技術、知識を習得できるようにしています。その他、グローバル化や地域社会貢献に向けた体験的活動や奉仕活動もあり、大島の自然環境の調査、地元産業との共同研究なども実施しています。 |
| | | 定 | 普通科 (30) | |
| 42 | 都立八丈高等学校 〒100-1401 八丈町大賀郷3020 http://www.hachijo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 普通科 (80) 併合科 (園芸・家政) (35) | 教育目標は全日制課程「誠実」「慈愛」「自立」、定時制課程「自主」「健康」「民主」で70年の歴史のある伝統校です。八丈町はハワイと姉妹都市で、黄八丈、八丈太鼓と歌や踊り、海洋文化など、歴史と伝統、文化の町です。全・定ともに鳥留学生を受入れています。町や小・中学校との連携を大切にした系統的な学習を行う少人数授業が特色で、国公立大学等の受験から基礎基本の習得を目指す生徒まで、きめ細かく丁寧指導します。「わかりやすい授業」から「生徒が自ら学びたくなる授業」を学校全体を目指しています。生徒の卒業後の進路は、国公立大学をはじめとする進学や、公務員を含む就職と多様です。生徒会活動や、全・定合同の八高祭などの学校行事も盛んです。詳細は本校ホームページやTwitterを御覧ください。 |
| | | 定 | 普通科 (30) | |
| 43 | 都立三宅高等学校 〒100-1211 三宅村坪田4586 http://www.miyake-h.metro.tokyo.jp/site/zen/ | 全 | 普通科 (40) 併合科 (農業・家政) (35) | 併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。 |
| 産業科 | | | | |
| 44 | 都立橋高等学校 〒131-0043 墨田区立花4-29-7 https://www.metro.ed.jp/tachibana-h/ | 全 | 産業科 (210) | 本校は、都立向島工業高校と都立向島商業高校を発展的に統合し、平成19年4月に開校しました。生産から流通・消費までを総合的かつ実践的に学ばせる、わが国初の産業科高校です。今日の高度に発展した産業社会においては、専門的なスキルが求められる一方で、工業や商業という産業が融合する中に、新たなニーズや可能性があると考えています。従来の工業、商業という枠を超えた幅広い専門教育を展開することで、多様化・複雑化する産業社会に対応して活躍する人材の育成を目指しています。 |
| | | 定 | 産業科 (30) | |
| 45 | 都立八王子桑志高等学校 〒193-0835 八王子市千人町4-8-1 http://www.hachioji-soushi-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 産業科 ：デザイン分野 (70) ：クラフト分野 (35) ：システム情報分野 (35) ：ビジネス情報分野 (70) | 日本初の産業科高校として、高度な資格取得や検定合格及び大学等への進学に力を入れ、「未来の産業人」を育てる学校です。教育課程は45分授業7時間授業により、専門教科の学習とともに、普通教科の学習を充実させることで大学進学にも対応しています。大学等への進学者は約80%で、令和元年度卒業生の現役合格者は国公立1名、早慶7名、MARCH17名、日東駒専15名、多摩美術大学18名等です。就職希望者は全員合格しています。産業界との連携にも力を入れ、八王子商工会議所等と連携した企業展示会の開催をはじめ、八王子織物工業組合、八王子青年会議所、地元八王子市の商店等と連携した事業を展開しています。 |
| 情報科 (単位制) | | | | |
| 46 | 都立新宿山吹高等学校 〒162-8612 新宿区山吹町81 http://www.yamabuki-hs.metro.tokyo.jp | 定 | 普通科 (100) 情報科 (65) | 各自が興味・関心・進路等に基づき科目を選び、幅広く、深く、学習するので、基本的に一人一人時間割が異なります(単位制)。定時制(普通科・情報科)と通信制(普通科)があり、どちらも、努力次第で3年間で卒業ができます(三修制)。定時制は、朝から夜まで、四つの部に分かれます(4部制)。情報科は、東京都唯一の「情報」の専門学科です。29～31年度はSPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール)に指定されました。通信制は、自宅でレポート作成を行い、土曜日はスクーリングで本校に登校し授業を受けます。教員相互の授業見学を全教員で行い授業力高め、夏期講習等も行っていきます。昨年度は、国公立大や、早慶上理大・GMARCH等の難関私大に定通合わせて現役で30名以上が合格しています。 |
| | | 通 | 普通科 (50) | |
| 総合学科 | | | | |
| 47 | 都立王子総合高等学校 〒114-0023 北区滝野川3-54-7 | 全 | 総合学科 (236) | 平成23年度開校、全日制総合学科高校 ○“Design your Dream”(自分らしく生きるために)をキャッチフレーズとしている。自己の進路への自覚を深め、自ら夢を描き、その実現に向けて意欲的に計画し、実行する行動力と態度を身に付けます。 ○「国際・ビジネス」「文化・芸術」「メディア・ネットワーク」「サイエンス・テクノロジー」「スポーツ・健康」の5つの系列があります。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|---|----|---------------------|--|
| 48 | 都立青梅総合高等学校 〒198-0041 青梅市勝沼 1-60-1 https://www.metro.ed.jp/omesogo-h/ | 全 | 総合学科 (236) | 平成18年旧都立農林高等学校跡地に、全・定併置の総合学科高校として開校した。豊かな自然に恵まれ、都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を活用して食・農・環境等の様々な体験活動を通して学ぶ特色ある総合学科高校である。全日制課程は文科・理科、国際・文化、生命・環境、食品・生活、人間・健康の5系列を、定時制課程は生命・自然、生活・福祉の2系列を設けている。 |
| | | 定 | 総合学科 (90) | |
| 49 | 都立葛飾総合高等学校 〒125-0035 葛飾区南水元 4-21-1 http://www.katsushikasogo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 総合学科 (196) | 平成19年度に東京東部地区に開校した全日制総合学科高校。平成29年度入学生から、国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、サイエンス・テクノロジーの4系列を配置している。ゼミナールと同様の講座を開設して課題研究に取組ませ、卒業生全員に2万字の論文作成を課している。生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目から「自分だけの時間割」を作成させる指導など系統的なキャリア教育により、社会で有用となる基礎的汎用的能力を育成し、生徒個々の進路実現を目指している。 |
| 50 | 都立杉並総合高等学校 〒168-0073 杉並区下高井戸 5-17-1 | 全 | 総合学科 (236) | 平成16年4月に、東京都で3番目の総合学科高校として開校。学校のキャッチフレーズは、「志を世界に繋ごう 自己実現・国際人・生涯学習」。国際理解教育に特に力を注いでおり、第二外国語の必修化(1年次で中国語かハンガール)、台湾修学旅行、姉妹校交流(オーストラリアのフォートストリート高校、台湾の内思高級職業高等学校、韓国の美林女子情報科学高等学校)、年間5回程度の海外訪問団受け入れ、年間5名程度の留学生の受け入れ、交換留学(オーストラリアとフランス)等の実施、トビタテ留学ジャパンで海外に派遣、次世代リーダー育成道場で毎年2人程度が1年間の海外留学をしている。個人で留学する生徒は年々増えている「人間・社会、科学・環境、メディア・文化、ビジネス、国際コミュニケーション」の5系列を持つ。 |
| 51 | 都立世田谷総合高等学校 〒157-0076 世田谷区岡本 2-9-1 | 全 | 総合学科 (196) | ○平成20年4月開校。 ○幅広い6系列(社会・教養・環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり)に魅力ある様々な選択科目を配置し、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー(身だしなみ、頭髪等)を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視。 |
| 52 | 都立つばさ総合高等学校 〒144-8533 大田区本羽田 3-11-5 http://www.tsubasa-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 総合学科 (236) | 平成14年に開校した都立2校目の総合学科高校である。美術・デザイン系列、科学・技術系列、国際・コミュニケーション系列、スポーツ・健康系列、生活・福祉系列の5系列を配備し、生徒が適性・能力・興味・関心・進路希望等に応じて『自分だけの時間割』を編成して学習を進め、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001(国際環境認証)を取得し、環境教育に力を入れ、平成21年度「文部科学大臣賞」、平成30年度「都教委オリンピック・パラリンピック教育・環境部門アワード」等を受賞している。恵まれた施設のもと部活動も盛んであり、様々な地域連携活動を通して地域に愛され親しまれている学校である。 |
| 53 | 都立晴海総合高等学校 〒104-0053 中央区晴海 1-2-1 http://www.harumisogo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 総合学科 (276) | 東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成8年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会・経済の6系列に多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図れる学校である。「青い海 潮風の中 自分探しの旅に出よう!」のキャッチフレーズのとおり、「自分だけの時間割」を作成しながら夢の実現方法を学んでいる。「令和2年度海外学校間交流推進校」に指定されました。 |
| 54 | 都立東久留米総合高等学校 〒203-0052 東久留米市幸町 5-8-46 http://www.higashikurume-sogo-h.metro.tokyo.jp/ | 全 | 総合学科 (196) | 平成19年度開校、全日制・定時制併置の総合学科高校 全日制では、「25歳の自分創り」をスローガンに、生徒の夢の実現に向けキャリア教育の充実を図っている。国際・人文社会、自然科学探求、スポーツ、芸術・表現、看護・保育の5系列を設置。 定時制では、教養、情報・ビジネスの2系列を設置するとともに、三修制を実施。 |
| | | 定 | 総合学科 (60) | |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和 3 年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|-------------------------|--|----|-----------------------|---|
| 55 | 都立若葉総合高等学校 〒 206-0822 稲城市坂浜 1434-3 https://www.metro.ed.jp/wakabasogo-h/ | 全 | 総合学科 (236) | 平成 17 年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の 4 系列を持つ。開校以来、「原石を宝石に、君の個性に輝きを！」をスローガンとして掲げ、生徒一人ひとりの個性を伸ばす教育活動に取り組んでいる。 |
| 56 | 都立町田総合高等学校 〒 194-0037 町田市木曾西 3-5-1 http://www.machida-sogo-h.metro.tokyo.jp | 全 | 総合学科 (196) | ○平成 22 年度 4 月開校、全日制総合学科高等学校。 ○校訓「創」;「自分創り」に取り組み、「社会創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の 4 つの系列、国際理解教育の基礎を成す「日本文化」の授業、社会と連携した体験を重視した教育活動。 ○「キャリア教育」を根幹に据えた進路指導、探究活動の推進。 ○海外修学旅行及び海外研修旅行の実施。 ○東京都教育委員会指定「学力向上研究校」 |
| 総合学科 (チャレンジスクール) | | | | |
| 57 | 都立大江戸高等学校 〒 135-0015 江東区千石 3-2-11 | 定 | 総合学科 (180) | 平成 16 年 4 月開校の三部制・単位制・総合学科の高校です。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行っています。体験学習や実習、行事などを重視し、少人数の授業で、丁寧な指導に取り組んでいます。「チャレンジする人間」「創造的な人間」「信頼される人間」の教育目標の下、様々な専門家の支援を受け、一人一人の自立を支えています。 |
| 58 | 都立桐ヶ丘高等学校 〒 115-0052 北区赤羽北 3-5-22 | 定 | 総合学科 (180) | 平成 12 年度に開校した、最初のチャレンジスクール（総合学科、単位制、昼夜間開講三部制の定時制）です。『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の 3 系列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教育活動を展開しています。 |
| 59 | 都立世田谷泉高等学校 〒 157-0061 世田谷区北鳥山 9-22-1 | 定 | 総合学科 (180) | 「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「である」「みがく」「いきる」を教育目標として、生徒ひとりひとりを大切に、個々の生徒の能力や個性、適性を生かした教育課程を編成しています。「製作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。 |
| 60 | 都立稔ヶ丘高等学校 〒 165-0031 中野区上鷺宮 5-11-1 https://www.metro.ed.jp/minorigaoka-he/ | 定 | 総合学科 (240) | 三部制のチャレンジスクールで、静かな学習環境の中で学んでいます。学校設定科目「コーピング」でコミュニケーション能力の向上を図るとともに、商業科目では簿記やマーケティングなどを開設しています。 |
| 61 | 都立六本木高等学校 〒 106-0032 港区六本木 6-16-36 http://www.roppongi-h.metro.tokyo.jp | 定 | 総合学科 (180) | 平成 17 年 4 月に開校したチャレンジスクール。小中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしています。教育目標は“見つけて 磨いて 未来を拓く”です。基礎力を身に付けさせる普通科目と 3 つの系列に属する特色のある学校設定科目で生徒の見つけて磨く力をサポートしています。丁寧な進路指導により生徒の未来を拓く力を伸ばし、進路実現を図っています。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|-------------------------|---------------------------------------|----|---------------------|--|
| 普通教育を主とする学科（単位制） | | | | |
| 62 | 都立浅草高等学校 〒111-0024 台東区今戸 1-8-13 | 定 | 普通科（240） | 平成18年4月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9階建ての校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと地域の伝統工芸や稲作体験のできる「体験学習」などを特色とする。 |

国立高等学校会員名簿

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|---|--|----|------------------------|---|
| 1 | 東京工業大学附属科学技術 高等学校 〒108-0023 港区芝浦 3-3-6 http://www.hst.titech.ac.jp/ | 全 | 科学・技術科 (推薦60、一般140) | 科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2年次から、材料科学・環境科学・バイオ技術（応用化学）、情報・コンピュータサイエンス（情報システム）、システムデザイン・ロボット（機械システム）、エレクトロニクス・エネルギー・通信（電気電子）、立体造形・デジタルデザイン（建築デザイン）の5分野に分かれる。 |

高等専門学校会員名簿

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科 及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|---|--|----|-----------------------------|---|
| 1 | 都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス 〒140-0011 品川区東大井 1-10-40 荒川キャンパス 〒116-8523 荒川区南千住 8-17-1 https://www.metro-cit.ac.jp | 全 | ものづくり工学科（320） 創造工学専攻（32） | 平成18年に都立工業高等専門学校（工業高専）と都立航空工業高等専門学校（航空高専）の再編統合を行い、本科の“ものづくり工学科”に8つの工学コースを設置し、更にその上に専攻科を設置した東京都立産業技術高等専門学校を開校しました。平成20年には公立大学法人首都大学東京の一員となり、文字どおり都が設置した高等教育機関として再スタートを切りました。平成28年から首都東京の課題解決に貢献するため、新たに「情報セキュリティ技術者育成プログラム」と「航空技術者育成プログラム」をスタートさせています。 |

専修学校会員名簿

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|---|---|------------------|---|--|
| 1 | 愛国学園保育専門学校 〒133-8585 江戸川区西小岩 5-7-1 http://www.aikokuhosen.ac.jp | 昼 | 幼児教育科 (50) 介護福祉士専攻科 (募集停止中) | 本校は、昭和44年に設立された伝統のある専門学校です。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭2種免許状が取得できます。学生は、完備された学園において、少人数制の中、現代社会のニーズに合った専門的な学びを楽しく熱心に修得しています。就職においても幼児教育科は毎年ほぼ100%の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職しています。勤務先から専門に精通して明るく元気で、礼儀正しいと評判を得ています。今後も職業に直結した学びが深められるような教育を展開して行きます。 |
| 2 | 青山製図専門学校 〒150-0032 渋谷区鶯谷町 7-9 | 昼 夜 | 建築工学科 (35)、建築設計デザイン科 (72)、住宅設計デザイン科 (35)、建築インテリア工学科 (35)、商空間デザイン科 (35)、建築インテリアデザイン科 (40)、建築設計研究科 (120) 建築科 (70) インテリア工学科 (30) | 昭和52年に設立以来、設計・製図・デザイン・CADの技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の9学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。 |
| 3 | 御茶の水美術専門学校 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-3 https://senmon.ochabi.ac.jp | 昼 夜 | デザイン・アート科3年制 (100) 高度デザイン・アート科4年制 (15) デザインアートコース (夜間 / 社会人・学生対象) ・デザインアート思考 [®] 講座 (15) ・ロジカルデッサン TM 講座 (15) ・グラフィックススキル講座 Photoshop クラス (15) ・グラフィックススキル講座 Illustrator クラス (15) | ゼロからはじめてプロになる [®] 。「産学連携」課題にプロジェクトベースドラーニングで挑む、実学中心の美術専門学校。御茶の水美術専門学校 (OCHABI) は、全学科が文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定を受けており、必修科目である「産学連携授業」では、ゼロから「SDGs」に貢献する商品やサービスを考え、実際に企業へプレゼンテーションしていきます。こうして繰り返しクリエイティブを軸としたプロジェクトベースドラーニングを行うことで、効果的に自分のクリエイティブティーを実社会で活かせるビジネススキルへと変換していきます。 |
| 4 | 香川調理製菓専門学校 〒170-8481 豊島区駒込 3-24-3 | 昼 | 調理マイスター科 (40) 調理師科 (120) 製菓科 (120) | 女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部を併設する香川調理製菓専門学校は1959年、調理師学校として東京都で最初に認可を受けた伝統校です。校内には、一般のお客様を対象とした営業店を設置し実際の現場で実際のお客様を対象に仕事を学ぶという独自のカリキュラムに取り入れている。調理マイスター科は職業実践専門課程の認定を受けました。 |
| 5 | 窪田理容美容専門学校 中野区中野 4-11-1 https://www.kubota.ac.jp/ | 昼 夜 昼 通 | 美容学科 (200) 美容学科トライチェンジコース (40) 理容学科 (40) テクニカルスタイリスト科ビューティーコース (40) テクニカルスタイリスト科アーティストコース (40) 美容学科 (160) 理容学科 (40) | 昭和25年開校以来、「忍耐・創造・独立」を校訓に、理容師・美容師となるための専門知識、技術を習得させる事を縦軸、人としてマナーや接客方法などのサービス業従事者としての心構えを習得させる事を横軸とし教育を行なっています。 新たに理容師と美容師、両方の国家資格を取得できるダブルライセンスコースが開講し、「まつ毛エクステンション」のできる理容師、「シェービング」のできる美容師を養成しています。 |
| 6 | 国際デュアルビジネス専門学校 〒111-0052 台東区柳橋 2-20-14 | 昼 | 国際観光学科 (80) 国際ホテル学科 (160) | 「人間教育」「実践教育」「国際人教育」の3つの教育理念を掲げ、空港・ホテルへの業界人の育成に取り組んでいます。専門知識と一般教養だけでなく、空港やホテルでの企業実習・インターンシップといった業界での現場経験を当校は重視しています。学生一人一人の将来を見据えた企業実習は北海道から沖縄まで多岐に渡り、真に実力が身につくプログラムになっています。企業と連携を深めながら、真に社会に貢献できる人材育成に引き続き取り組んで参ります。 |
| 7 | 国際理容美容専門学校 〒116-0014 荒川区東日暮里 5-17-12 http://www.kokusai-kyouritsu.ac.jp/ | 昼 通 | 理容科 (2年・60) 美容科 (2年・160) ビジネス美容科 (2年・40) ビューティアーティスト科 (2年・40) 理容科 (3年・30) 理容科 美容修得者コース (1.5年・10) 美容科 (3年・60) 美容科 理容修得者コース (1.5年・20) | 職業実践専門課程美容科では、奨学金ではなく産業界連携により在学中に校納金返済が可能となるコースを運営しております。技能だけではなく人間性を高める「躰」教育を本学園は育成する学校であります。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|---|--|-----------------|--|
| 8 | <p>新東京歯科技工士学校</p> <p>〒143-0016 大田区大森北 1-18-2</p> <p>https://www.dt.ntdent.ac.jp/</p> | <p>昼</p> <p>歯科技工士科 I 部 (90) 歯科技術予備教育科 (35)</p> <p>夜</p> <p>歯科技工士科 II 部 (35)</p> | | <p>新東京歯科技工士学校は、1980年開校以来、厚生労働省指定養成所として歯科医療の国家資格「歯科技工士」を取得した専門職を養成してきました。また、企業や医療関連団体と連携した教育が特長であることから、文部科学省から職業実践専門課程として認定され、職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとしています。</p> |
| 9 | <p>中央工学校</p> <p>〒114-8543 北区王子本町 1-26-17</p> <p>http://chuoko.ac.jp</p> | <p>昼</p> <p>建築学科、建築工学科、建築設計科、木造建築科、建築設備設計科 (315)、建築室内設計科、インテリアデザイン科、エンターテインメント科 (95) 土木建設科、造園デザイン科、測量科、地理空間情報科 (165)、機械設計科、3D-CAD 科 (30)</p> <p>夜</p> <p>建築科 (80) 土木測量科 (30)</p> | | <p>中央工学校は1909年(明治42年)に創立され、校歴112年を数えます。卒業生総数は10万人を超え、それぞれの分野で活躍しています。教育理念を『厳しい実務教育』と『人間涵養教育』とし、本格派の技術者の育成をしています。資格についても、建築系の学科では建築士の受験資格、土木・測量系の学科では測量士補が取得できるなどのカリキュラムを備えています。就職指導においては、クラス担任と就職指導の担当職員が、希望職種に就職できるようサポートしています。『就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。</p> |
| 10 | <p>東京ITプログラミング & 会計専門学校</p> <p>〒130-8565 墨田区錦糸 1-2-1</p> | <p>昼</p> <p>会計士学科 (2年・51) 税理士学科 (2年・40) 情報処理科 (2年・40) ITビジネス学科 (2年・40) 情報メディア学科 (2年・40)</p> | | <p>本校の最大の特色は、大学生でも現役合格がむずかしい公認会計士試験・税理士試験や高度情報処理試験に高校卒業生対象の専門課程から毎年多くの現役合格者を輩出していることです。その理由は、開学からずっと実施している楽しく学んで実力が身につく「ゼミ学習」にあります。</p> |
| 11 | <p>東京エアトラベル・ ホテル専門学校</p> <p>〒184-8543 小金井市前原町 5-1-29</p> <p>https://technosac.jp/air/</p> | <p>昼</p> <p>エアライン科 (60)、エアポートサービス科 (20)、英語キャリア科 (40)、ホテル科 (60)、ブライダル科 (60)、ビジネスマナー・秘書科 (10)、観光旅行科 (30)、鉄道交通科 (40)、研究科 (40)、大学併修学科 (20)</p> | | <p>昭和48年の設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、エアライン、ホテル、観光、ブライダル、鉄道の各分野に優秀な人材を送り出している。本学ではテクノスならではのゼミをスタートしました。このゼミは学んだ専門知識を早速実践するという授業。学生が実際の社会問題に主体的に取り組み、課題を見つけ、それを解決していくという、実践力、協同力、企画・提案力も養われます。また、独自のWスクールシステムによって専門教育と大学の通信教育を併修。「高度専門士」と「学士」を同時に取得できます。</p> |
| 12 | <p>専門学校東京工科 自動車大学校</p> <p>〒164-0001 中野区中野 6-21-16</p> <p>https://car.ttc.ac.jp/</p> | <p>昼</p> <p>1級自動車整備科 (4年・50名) 自動車整備科 (2年・100名) エンジンメンテナンス科 (2年・50名)</p> | | <p>日本の基幹産業である自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した特徴ある学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラムと安心して学べる独自の授業システムにより「解る・出来る・取る」教育をしています。二級課程は短大卒と同等の専門士、一級課程は四大卒と同等の高度専門士の称号が付与され、大学院入学資格も与えられます。企業からの信頼も厚く、就職は毎年ほぼ100%を達成。平成26年度より「職業実践専門課程」の文部科学省大臣認定を受けている学校です。</p> |
| 13 | <p>東京工学院専門学校</p> <p>〒184-8543 小金井市前原町 5-1-29</p> <p>https://technosac.jp/eng/</p> | <p>昼</p> <p>コンサート・イベント科 (60)、音響芸術科 (40)、ミュージック科 (30)、放送芸術科 (30)、声優・演劇科 (40)、ゲームクリエイター科 (40)、CGクリエイター科 (30)、Webデザイン科 (30)、マンガ科 (40)、アニメーション科 (30)、グラフィックデザイン科 (20)、スポーツビジネス科 (60)、幼児教育学科 (40)、こども学科 (40)、教育専攻科 (40)、公務員科 (20)、建築学科 (40)、インテリアデザイン科 (20)、情報システム科 (40)、電気電子学科 (40)、航空学科 (20)、法律情報科 (30)、経営情報科 (30)、大学併修学科 (40)、研究科 (40)</p> | | <p>昭和34年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。オックスフォード大学をはじめとする海外10大学との提携や一流企業の現場でのインターンシップ体験、各業界で活躍している講師陣による徹底指導など、時代のニーズに応える高度な専門性や広い視野を持つ人材を50年以上社会に送りだしている。本学ではテクノスならではのゼミをスタート。このゼミは学んだ専門知識を早速実践するという授業。学生が実際の社会問題に主体的に取り組み、課題を見つけ、それを解決していくという、実践力、協同力、企画・提案力も養われます。また、独自のWスクールシステムによって専門教育と大学の通信教育を併修。「高度専門士」と「学士」を同時に取得できます。</p> |
| 14 | <p>東京誠心調理師 専門学校</p> <p>〒144-0052 大田区蒲田 3-21-4</p> | <p>専門</p> <p>調理師科2年制 (120) シェフパティシエ科2年制 (40) 調理師科1年制 (40) [調理技術・福祉調理]</p> <p>高等</p> <p>調理師科夜間部2年制 (40)</p> | | <p>1970年創立。2007年8月京急蒲田駅西口すぐそばに HACCP や ISO22000 に適用した、全く新しいコンセプトの基、新校舎が完成。調理師科2年制には、学内レストランにて、一般の方々を対象に専門学校生レストランを運営。メニュー開発から運営までをトータルに学ぶことができます。この他、毎年2月に開催されている全国調理技術コンクールでは、数々の大臣賞を受賞しており、技術教育についてもその質の高さを誇っています。2012年からは、週3日制の夜間部2年制を開校。社会人や大学生の方々にも入学しやすい学科を設立。</p> |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|--|--------|--|---|
| 15 | 専門学校 東京テクニカルカレッジ 〒164-8787 中野区東中野 4-2-3 https://tec.ttc.ac.jp/ | 昼 夜 | 建築監督科 (40) 建築科 (80) インテリア科 (40) ゲームプログラミング科 (40) 情報処理科 (40) Web 動画クリエイター科 (30) 環境テクノロジー科 (30) バイオテクノロジー科 (30) 建築科 (40) | 本校は 1987 年に国立市に開校し、2009 年に現在の東中野校舎へ移転しました。学園理念に「技術者を目指す全ての人の夢を受けとめ、高い技術力と豊かな人間性を備えたプロフェッショナルを育成し、社会に貢献します。」を掲げ、2014 年には全学科が職業実践専門課程に認定され、企業や地域の皆様とともに専門人材の育成に尽力してまいりました。授業シートとカルテを使い学習成果を確認しながら専門性を高める「ステップクリア授業」と仲間と仕事を進める力を養う問題解決型授業「リアルジョブプロジェクト」が大きな特長です。 |
| 16 | 東京デザインテクノロジーセンター専門学校 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-11-10 https://www.tech.ac.jp/ | 昼 | スーパー IT 科 (120) IT・デザイン科 (120) | 本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。学科は、IT を核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。 |
| 17 | 東京美容専門学校 〒161-8557 新宿区下落合 1-2-4 | 昼 通 | 美容総合科ヘアスタイリストコース (80) (専門課程) 美容総合科トータルビューティーコース (40) (専門課程) 美容通信科 (通信課程) (80) エステティック通信講座 (16) | 本校は 1947 年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に 70 年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約 80 店舗のヘア & プライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。 |
| 18 | 東京法律公務員専門学校 〒130-8565 墨田区錦糸 1-2-1 | 昼 | 法律学科 (4 年・40)、法律学科 (2 年・40)、法律ビジネス学科 (2 年・40)、法律社会学科 (2 年・40)、不動産ビジネス学科 (2 年・37)、行政学科 (1 年・72) | 1983 年日本の専門学校で最初の公務員学科をつくった伝統が今も十分に発揮されています。最大の特長である「ゼミ学習」は、学生同士がお互いに教えあうことにより、楽しい雰囲気の中で理解がすすみます。さらにはコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。 |
| 19 | 東京 YMCA 医療福祉専門学校 〒186-0003 東京都国立市富士見台 2-35-11 | 昼 | 社会福祉専門課程 介護福祉科 (2 年) (80) 医療専門課程 作業療法学科 (3 年) (30) | 世界の YMCA に共通の精神である「平和で優しい社会の実現に貢献する」に基づいて、学校法人東京 YMCA 学院によって 1996 年に設立されました。学生一人ひとりに合わせた指導で「人に向き合い、人を支える専門家」として豊かな人間性を持つスペシャリストを養成し業界に送り出しています。 |
| 20 | 日本ウェルネススポーツ専門学校 〒179-0071 練馬区旭町 3-23-22 | 昼 夜 | アスレティックトレーナー科 (40) 健康スポーツ科 (40) ライフプロモーション科 (37) ウェルネス IT 科 A (4 月入学) (30) ウェルネス IT 科 B (10 月入学) (30) アスリート研究科 (40) | 1998 年 (平成 10 年) 4 月に開校した、社会体育及び、情報技術に関する知識・技能を習得する専門教育を行い、その分野のスペシャリストを養成する学校です。競技スポーツ、トレーナー養成そして幼児体育指導者養成で顕著な実績を挙げ、また卒業後は内部推薦で系列大学の 3 年次に進級することもできます。 |
| 21 | 日本工学院専門学校 〒144-8655 大田区西蒲田 5-23-22 | 昼 | 放送芸術科 (120)、声優・演劇科 (120)、演劇スタッフ科 (80)、マンガ・アニメーション科四年制 (40)、マンガ・アニメーション科 (200)、ゲームクリエイター科四年制 (120)、ゲームクリエイター科 (120)、CG 映像科 (80)、グラフィックデザイン科 (40)、Web クリエイター科 (40)、インテリアデザイン科 (40)、プロダクトデザイン科 (40)、ミュージックアーティスト科 (80)、コンサート・イベント科 (320)、音響芸術科 (120)、ダンスパフォーマンス科 (80)、IT スペシャリスト科 (80)、情報処理科 (160)、パソコン・ネットワーク科 (40)、情報ビジネス科 (80)、電子・電気科 (120)、環境・バイオ科 (40)、建築学科 (40)、建築設計科 (80)、機械設計科 (40) | 1947 年の創立以来、「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、最先端の学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、実践的で質の高い専門教育を行っております。これまでに多くの卒業生を社会に送り出し、各分野の第一線で活躍していることが本校の教育の何よりの実績と自負しております。多彩なスペシャリストを育てるカレッジ制長い歴史のなかで培ってきた総合専門学校としてのノウハウとグレードの高い専門教育の実現のため、「総合性」+「専門性」のカレッジ制専門学校として生まれ変わり、より専門性を追求する学習環境を実現しました。「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」の 5 つのカレッジは、専門領域を深く掘り下げながら相互に関わりあい、連携することで新たなスペシャリスト教育の創造に貢献しています。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|---|------------------|---|---|
| 22 | <p>日本工学院八王子専門学校</p> <p>〒192-0983 八王子市片倉町1404-1</p> <p>https://www.neec.ac.jp/hachioji/</p> | 昼 | 放送芸術科(80)、声優・演劇科(80)、マンガ・アニメーション科四年制(40)、マンガ・アニメーション科(120)、ゲームクリエイター科四年制(80)、ゲームクリエイター科(80)、CG映像科(80)、デザイン科(80)、ミュージックアーティスト科(40)、コンサート・イベント科(160)、音響芸術科(40)、ITスペシャリスト科(80)、AIシステム科(80)、情報処理科(160)、ネットワークセキュリティ科(40)、情報ビジネス科(40)、ロボティクス科(40)、電子・電気科(120)、一級自動車整備科(25)、自動車整備科(75)、応用生物学科(40)、建築学科(80)、建築設計科(120)、土木・造園科(40)、機械設計科(40)、スポーツトレーナー科三年制(80)、スポーツトレーナー科(40)、スポーツ健康学科三年制(40)、スポーツ健康学科(80)、鍼灸科(30)、柔道整復科(30)、医療事務科(40)、診療情報管理士専攻科(20) | 1947年に大田区蒲田に創立した創実学園を母体とし、1987年に八王子市に開校。「理想的教育は理想的環境にあり」という教育理念のもと、約38万㎡の広大な敷地に最先端の学習・研究施設を整備しています。 充実した学習環境と各分野の第一線で活躍するプロの講師陣が、質の高い専門教育を実践。現在では、「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「スポーツ・医療」の6つのカレッジに計33学科を設置し、専門力と人間力を併せ持った、社会に役立つ人材を育成しています。 |
| 23 | <p>専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ</p> <p>〒166-8567 杉並区高円寺南5-32-10</p> | 昼 | 鉄道・トラベル学科(2年・68) ビジネス総合学科(2年・28) スポーツ学科(2年・40) | 本学の特色である「ゼミ学習」では、学生同士がお互いにおしえあうことにより学習意欲がわき、楽しい雰囲気の中で理解がすすみ、さらにはコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。資格を取って知識と技術、実習をとって実践力を養っていきます。 |
| 24 | <p>日本電子専門学校</p> <p>〒169-8522 東京都新宿区百人町1-25-4</p> <p>https://www.jec.ac.jp/</p> | 昼 夜 | コンピュータグラフィックス科(160)、CG映像制作科(80)、コンピュータグラフィックス研究科(40)、ゲーム制作研究科(100)、ゲーム制作科(160)、ゲーム企画科(40)、アニメーション科(50)、アニメーション研究科(30)、グラフィックデザイン科(30)、AIシステム科(70)、Webデザイン科(30)、ケータイ・アプリケーション科(40)、情報ビジネスライセンスク(30)、情報処理科(140)、情報システム開発科(80)、高度情報処理科(40)、ネットワークセキュリティ科(80)、高度電気工学科(30)、電気工学科(50)、電気工事技術科(50)、電子応用工学科(40) 電気工学科(50)、電気工事士科(50)、情報処理科(40)、ネットワークセキュリティ科(40) | 1951年創立。CG・映像、ゲーム、アニメ、デザイン、AI、Web・モバイル、ビジネス、情報処理、ネットワーク・セキュリティ、電気・電子の10分野に昼夜25学科を設置。創立時から続く『コンピュータ・電気・電子』教育を通して、産業界での知名度が非常に高く「伝統」「信頼」「実績」のある専門学校です。情報処理・CG・ゲーム・モバイルアプリ開発など、日本初の学科を多数開設。「職業教育」と「キャリア教育」を教育方針の2本柱として、世界で活躍できるスペシャリストを育成しています。 |
| 25 | <p>日本動物専門学校</p> <p>〒166-8567 杉並区高円寺南4-6-8</p> | 昼 | 動物管理学科(2年・160) | 動物に関する知識と就職に役立つ幅広いビジネス知識を習得し、動物たちとふれあいながら、実践力を身につけます。インターンシップでは、実際の現場で実践することにより、より一層成長することができます。「ゼミ学習」により楽しく学びながら実力をアップしていきます。 |
| 26 | <p>専門学校 日本ホテルスクール</p> <p>〒164-0003 中野区東中野3-15-14</p> <p>https://www.jhs.ac.jp</p> | 昼 夜 | 国際ホテル学科 ホテル科・英語専攻科・プライダグ科(300) カナダ・オーストラリア留学制度(希望者全員) 国際ホテル学科 ホテル科・プライダグ科(160) カナダ・オーストラリア留学制度(希望者全員) | 1972年に旧赤坂プリンスホテルの敷地に開校した「プリンスホテルスクール」が始まり。これまでにホテル・プライダグ分野における人材育成において日本を代表する教育機関として1万3千人の卒業生を輩出してきました。そして2021年に創立50周年を迎えます。 「理論と実技の一体化によるサービスの創造」を具体化し、理論教育と実務教育、そして企業実習を行い、サービスから経営まで一貫した教育内容を備えています。 職業実践専門課程認定校、高等教育の修学支援新制度「高等教育無償化」対象機関として承認されています。 |
| 27 | <p>日本美容専門学校</p> <p>〒169-0075 新宿区高田馬場1-21-12</p> | 昼 夜 昼 通 | 専門科(400) 専門科(120) 総合美容科(30) 春生(4月入学)・秋生(10月入学) (計200) | 本校は昭和29年、美容師の全国組織である「日本美容師会」を母体として優秀な美容師を世に送り出し美容業の安定・質的充実と美容師の地位向上をめざし、全国会員の協力により設立されました。以来、「美容を通じて近代の叡智を築く」という建学の精神に基づき豊かな教養と自由な発想を持った理想的な「美の実践者」を育成しています。 |
| 28 | <p>ハリウッド美容専門学校</p> <p>〒106-8541 港区六本木6-4-1</p> <p>https://www.hollywood.ac.jp</p> | 昼 通 | 高度美容総合科 ・高度ビューティーコース(4年) 美容総合科 ・ヘアメイクビューティーコース(2年) ・トータルビューティコース(2年) ・コスメビューティコース(2年) ・ベーシックビューティコース(1年) ・美容師通信教育コース(通信課程3年) | 96年前、日本の女性をハリウッドスターのように美しくすることをめざして美容学校・美容室・化粧品会社のハリウッドビューティグループを創立したトータルビューティのパイオニア校です。ビューティの最先端をリードする六本木ヒルズで、美容のすべてを学びます。90年以上の歴史と伝統の成果を結集した充実のカリキュラムと最新の設備で、夢を実現するための美容のプロフェッショナルを育成します。国内はもちろん海外でも活躍できる実践力をめざします。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|--|------------|---|--|
| 29 | 二葉栄養専門学校 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 2-11-2 | 昼 | 管理栄養士学科 (4年・40) 栄養士科 (2年・120) 調理師科 (1年・76) 調理実践科 (2年・38) | 学校法人古屋学園は1937年に開校し、ファッション、調理、栄養、製菓分野に数多くの職業人を輩出してまいりました。2002年に東日本地区の専門学校では1番目に管理栄養士学科を設置しました。2015年には管理栄養士学科と栄養士科が、2017年には調理実践科が『職業実践専門課程』として認定され、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するために企業などと連携し実習や実技の授業を重視した学園として文部科学省より認可を受けました。今後も、社会に役立つ人間性豊かな専門家の養成をめざし、社会のニーズに応えられる幅広い教養・コミュニケーション能力・豊かな技量を身につけた実践的な栄養士・管理栄養士・調理師を養成いたします。 |
| 30 | 二葉ファッションアカデミー 〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町 1-3-2 http://www.furuya.ac.jp | 昼 | 職業実践専門課程 ファッション総合学科 (100) 専門課程 ファッション専攻科 (10) 高等課程 ファッションデザイン科 (40) | 1937年の創立以来、ファッションデザイナーの森英恵先生をはじめとする、多くのファッションスペシャリストを産業界に送り出してきました。「涵養の精神と職業人としての自立」という建学の精神のもと、学内ショップ及びブランドを有し、専門学校で唯一「東京コレクション」に参加する等、常にファッション界と連携した教育活動を展開しています。少人数制のきめ細やかな教育と産業界と直結した最先端教育が特徴です。 |
| 31 | マリールイズ美容専門学校 〒160-0018 新宿区須賀町3番地 http://www.marie-louise.ac.jp | 昼 通 | 美容本科 (40) 美容通信科 (40) | 「日本の美容の歴史は、常にマリールイズと共にありました。」109年を迎える本校は、歴史を踏まえ「一に人格・二に技術」を教育の根幹に捉え「1学年40人」少人数による指導の下で一人ひとりの学生と向き合い「美容のプロ」を本気で育てたいと日々授業に取り組んでいます。美容師免許合格率5年平均95%、就職では約800社からの求人があり就職指導も手厚くサポートしております。授業内容は、入学後の6か月間はカットやメイクの美容基礎を学びその後は、自らの個性を重視し希望する「将来像」に合わせたセレクトできる授業を行っています。 |
| 32 | 町田・デザイン専門学校 〒194-0022 東京都町田市森野 1-26-8 http://www.mdc.ac.jp | 昼 通 | 建築デザイン科 (2年・40) インテリアデザイン科 (2年・40) グラフィックデザイン科 (3年・40) イラストレーション科 (2年・40) Web・CGアニメーション科 (3年・40) まんが科 (2年・40) コミックイラスト科 (2年・40) 二級建築士受験科 (2年・80) 一級建築士受験科 (3年・35) | 都心や横浜へのアクセスが良い町田市に拠点を置き、1978年(昭和53年)創立の本校は、これまで優れたクリエイターを輩出しています。ピア・カウンセリング教育による教育力アップ×人間力の指導、ステップアップ方式による目に見える成果の習得など、本校独自の教育システムを開発しました。これら独自の教育システムは、学生一人ひとりの顔がしっかり見える本学だからこそ実現できる教育システムです。デザインを初めて学ぶことへの不安を安心に変えるために、基礎から応用まで無理なく進めていくステップアップ方式で入学から就職・プロデビューまで、丁寧にサポートしています。また、ピア・カウンセリング教育により、学生同士がふれあい、学びあう『仲間教育』を積極的に進めています。お互いの個性を認めながら、共同して物を創る。このお互いに育ちあう教育で、「思考力」と「人間力」を育み、社会を必要としている人材を育成します。 |
| 33 | 武蔵野栄養専門学校 〒171-0022 豊島区南池袋3-12-5 http://www.musashino-eiyou.ac.jp | 昼 | 栄養科 (240) | 本学は、昭和45年4月武蔵野栄養専門学校を設立、食と栄養に関する技術と知識の両面から「真のプロ」の育成に取組み、以来14,000名を超える卒業生を輩出している。平成26年度には文部科学省より職業実践専門課程に認定され、より一層実践的な職業教育の質の確保に取り組んでいる。また教育の理念として実社会での即戦力を養成するため、体感・体験・体得を重視し、「身体で覚えた技術は一生を貫く」「優れたプロは優れた人格を有する」を踏まえ、「1. 努力 2. 誠実 3. 奉仕」を校訓に専門教育に加え徳育面を重視し情操豊かな人間性を持った栄養士の育成に取り組んでいる。令和元年10月「高等教育の修学支援制度」において無償化の対象校に認定された。 |
| 34 | 武蔵野東高等専修学校 〒180-0013 武蔵野市西久保3-25-3 https://www.musashino-higashi.org/koto.php | 昼 | 総合キャリア学科 (75) | 「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間的成長を図る。また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重視している。 |
| 35 | 専門学校読売自動車大学校 〒136-0071 江東区亀戸2-28-5 https://www.yccm.ac.jp | 昼 | 1級整備学科 (4年・40) 自動車整備学科 (2年・240) | 読売新聞社が1969年に設立。読売グループ各企業がバックアップ。読売新聞社独自の奨学金制度が充実。「高等教育修学支援制度」の文科省認定校でもあり、安心して学べる体制です。国家試験も就職も、毎年ほぼ100%の実績を残しています。自動車エンジニアとしての技術力だけでなく「人間力」の育成にも力を注いでいます。両学科とも「職業実践専門課程」認定校であり、企業連携を重視した実践的な教育体制です。さらに、1級整備学科は大学院入学資格も与えられる「高度専門士」が付与され、大学院進学者も輩出しています。 |

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|----|---|--------|--|---|
| 36 | 読売理工医療福祉専門学校 文京区小石川 1-1 https://www.yomiuririkou.ac.jp | 昼 夜 | 【工業専門課程】 放送映像学科 (2年制:80)、TVディレクター学科 (2年制:40)、建築学科 (2年制:40)、電気電子学科 (2年制:40)、クロスメディア情報学科 (2年制:40) 【医療専門課程】 臨床工学科 (3年制:40) 【社会福祉専門課程】 介護福祉学科 (2年制:40) 【工業専門課程】 建築科 (2年制:40) 【医療専門課程】 臨床工学専攻科 (2年制:40) | 読売新聞社により1970年に創設、開校51年を迎え27,000名を超える卒業生を社会に送り出しています。工業・医療・福祉の3分野に昼間部と夜間部を併せ9学科を設置しており、すべての学科で卒業時に文部科学大臣から専門士の称号が付与されます。さらに7学科については職業実践専門課程の認定を受けております。また、高等教育の修学支援新制度の認定校になっております。 2020年4月、文京区小石川一丁目へ移転しました。最新工法による再開発ビル、実習機器と教育施設を一新し、次の50年に向けて新たなスタートを切りました。 |
| 37 | 早稲田速記医療福祉専門学校 〒171-8543 豊島区高田 3-11-17 https://www.wasedasokki.jp/ | 昼 | 医療秘書科 (120)、医療マネジメント科 (120)、診療情報管理専攻科 (30)、医師事務技術専攻科 (30)、くすり・調剤事務科 (40)、介護福祉科 (30)、看護科 (35)、キャプションライター養成科 (20) | 1935年に創立し、1972年に日本で初めて医療秘書科をスタートさせました。いつも時代の先を読み、社会の変化に対応するスペシャリストを育てています。専門的な学びのほかに、マナーやコミュニケーション能力などの社会性を身につけることで、長く社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。正職員就職率が高いことも本校の特徴の一つです。 |
| 38 | 国際共立学園高等専修学校 〒116-0013 荒川区西日暮里 2-33-23 https://www.koutousensyu.kokusai-kyouritsu.ac.jp/ | 昼 | 美容師科 (3年制・40) 製菓衛生師・調理師科 (3年制・32) | 「学校法人 国際共立学園」は、理容・美容の専門学校として65年の歴史を重ね、令和2年4月より「美容師科」と「製菓衛生師・調理師科」の2つの学科をもつ「国際共立学園高等専修学校」を開校いたしました。 本校は、“夢をかなえる人づくり”を教育テーマに掲げ、生徒一人一人の夢を実現させることを目指しています。「製菓衛生師・調理師科」は1つの学科で製菓衛生師と調理師の2つの資格を取得することができます。また、本校は大学入学資格も取得できます。 |

短期大学 会員名簿

| | 学校名 / 所在地 / URL | 課程 | 令和3年度募集学科及び募集人数 | 学校の概要・特色 |
|---|---|----|--------------------------------------|--|
| 1 | 愛国学園短期大学 〒133-8585 江戸川区西小岩 5-7-1 https://www.aikoku-jc.ac.jp | 全 | 家政科： 生活デザイン専攻 (50) 食物栄養専攻 (50) | 経済的に独立し、一家幸福の源泉となる女性の育成を目的とし、思考力、判断力、表現力を培い、主体性、多様性、協働性を養う教育を行っています。生活デザイン専攻では、家政学の幅広い知識と技能を身につけ、生活全般を自ら企画・創造する実践力を養います。レストランサービス技能検定や医療事務管理士など、衣食住・福祉などに係る様々な資格が取得可能です。食物栄養専攻では、栄養士として、食の専門知識・技能に加え、フードスペシャリストなどの資格も取得できます。他に、介護職員初任者研修終了資格などの取得を支援する講座なども設けています。 |
| 2 | 東京家政大学短期大学部 〒173-8602 板橋区加賀 1-18-1 https://www.tokyo-kasei.ac.jp/ | 全 | 保育科 (120) 栄養科 (80) | 本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。保育科は保育士、幼稚園教諭二種の資格・免許が取得でき、約83%が専門職に進路を決定。公立の保育士合格者多数。栄養科は栄養士、中学校教諭二種(家庭)、栄養教諭二種の免許、フードスペシャリスト(受験資格)が取得でき、栄養士には約47%、その他食品関連企業を中心に一般企業に進路を決定。 |

中 学 校 等 会 員 名 簿

公立中学校

| | | | | | | |
|------|-----|--|---|--|---|--|
| 千代田区 | 2校 | 麹町中学校 | 神田一橋中学校 | | | |
| 中央区 | 4校 | 晴海中学校 | 日本橋中学校 | 銀座中学校 | 佃中学校 | |
| 港区 | 10校 | 御成門中学校 赤坂中学校 | 白金の丘中学校 青山中学校 | 高松中学校 港陽中学校 | 港南中学校 六本木中学校 | 高陵中学校 三田中学校 |
| 新宿区 | 10校 | 牛込第一中学校 西新宿中学校 | 牛込第二中学校 四谷中学校 | 牛込第三中学校 西早稲田中学校 | 落合中学校 新宿中学校 | 落合第二中学校 新宿西戸山中学校 |
| 文京区 | 10校 | 第一中学校 第十中学校 | 第三中学校 文林中学校 | 第六中学校 茗台中学校 | 第八中学校 本郷台中学校 | 第九中学校 音羽中学校 |
| 台東区 | 7校 | 上野中学校 柏葉中学校 | 忍岡中学校 桜橋中学校 | 駒形中学校 | 浅草中学校 | 御徒町台東中学校 |
| 墨田区 | 10校 | 墨田中学校 吾嬬第二中学校 | 本所中学校 寺島中学校 | 両国中学校 文花中学校 | 豎川中学校 桜堤中学校 | 錦糸中学校 吾嬬立花中学校 |
| 江東区 | 23校 | 深川第一中学校 深川第六中学校 第三亀戸中学校 第三砂町中学校 東陽中学校 | 深川第二中学校 深川第七中学校 大島中学校 第四砂町中学校 大島西中学校 | 深川第三中学校 深川第八中学校 第二大島中学校 辰巳中学校 有明中学校 | 深川第四中学校 亀戸中学校 砂町中学校 南砂中学校 | 深川第五中学校 第二亀戸中学校 第二砂町中学校 第二南砂中学校 |
| 品川区 | 9校 | 東海中学校 荏原第一中学校 | 大崎中学校 荏原第五中学校 | 浜川中学校 荏原第六中学校 | 鈴ヶ森中学校 戸越台中学校 | 富士見台中学校 |
| 目黒区 | 9校 | 第一中学校 第十一中学校 | 第七中学校 東山中学校 | 第八中学校 目黒中央中学校 | 第九中学校 大鳥中学校 | 第十中学校 |
| 大田区 | 28校 | 大森第一中学校 貝塚中学校 大森第七中学校 羽田中学校 南六郷中学校 東蒲中学校 | 大森第二中学校 大森第四中学校 雪谷中学校 糎谷中学校 矢口中学校 蒲田中学校 | 大森第八中学校 大森第三中学校 大森第十中学校 出雲中学校 御園中学校 大森東中学校 | 馬込中学校 東調布中学校 大森第六中学校 六郷中学校 蓮沼中学校 | 馬込東中学校 田園調布中学校 石川台中学校 志茂田中学校 安方中学校 |
| 世田谷区 | 29校 | 太子堂中学校 緑丘中学校 弦巻中学校 深沢中学校 烏山中学校 喜多見中学校 | 桜丘中学校 駒留中学校 奥沢中学校 尾山台中学校 千歳中学校 三宿中学校 | 松沢中学校 梅丘中学校 八幡中学校 用賀中学校 芦花中学校 世田谷中学校 | 駒沢中学校 桜木中学校 玉川中学校 東深沢中学校 上祖師谷中学校 船橋希望中学校 | 北沢中学校 富士中学校 瀬田中学校 砧中学校 砧南中学校 |
| 渋谷区 | 8校 | 広尾中学校 松濤中学校 | 鉢山中学校 渋谷本町学園中学校 | 上原中学校 原宿外苑中学校 | 代々木中学校 | 笹塚中学校 |
| 中野区 | 10校 | 第二中学校 北中野中学校 | 第四中学校 緑野中学校 | 第五中学校 南中野中学校 | 第七中学校 中野中学校 | 第八中学校 中野東中学校 |
| 杉並区 | 23校 | 高円寺中学校 松溪中学校 井草中学校 高井戸中学校 和田中学校 | 高南中学校 天沼中学校 荻窪中学校 向陽中学校 西宮中学校 | 杉森中学校 東原中学校 神明中学校 松ノ木中学校 和泉中学校 | 阿佐ヶ谷中学校 中瀬中学校 宮前中学校 大宮中学校 | 東田中学校 井荻中学校 富士見丘中学校 泉南中学校 |
| 豊島区 | 8校 | 駒込中学校 巢鴨北中学校 | 西巢鴨中学校 明豊中学校 | 池袋中学校 西池袋中学校 | 千川中学校 | 千登世橋中学校 |
| 北区 | 12校 | 掘船中学校 王子桜中学校 滝野川紅葉中学校 | 稲付中学校 桐ヶ丘中学校 赤羽岩淵中学校 | 神谷中学校 明桜中学校 | 浮間中学校 十条富士見中学校 | 飛鳥中学校 田端中学校 |
| 荒川区 | 10校 | 第一中学校 第九中学校 | 第三中学校 尾久八幡中学校 | 第四中学校 南千住第二中学校 | 第五中学校 原中学校 | 第七中学校 諏訪台中学校 |
| 板橋区 | 1校 | 桜川中学校 | | | | |
| 練馬区 | 33校 | 旭丘中学校 開進第二中学校 貫井中学校 石神井東中学校 大泉第二中学校 谷原中学校 光が丘第一中学校 | 豊玉中学校 開進第三中学校 田柄中学校 石神井西中学校 八坂中学校 三原台中学校 光が丘第二中学校 | 豊玉第二中学校 開進第四中学校 豊浜中学校 上石神井中学校 練馬東中学校 大泉北中学校 光が丘第三中学校 | 中村中学校 北町中学校 石神井中学校 大泉中学校 大泉西中学校 南が丘中学校 | 開進第一中学校 練馬中学校 石神井南中学校 大泉学園中学校 関中学校 大泉学園桜中学校 |

| | | | | | | |
|------|-----|---|---|---|--|--|
| 足立区 | 35校 | 第一中学校 第九中学校 第十四中学校 竹の塚中学校 西新井中学校 谷中中学校 入谷南中学校 | 第四中学校 第十中学校 江南中学校 東綾瀬中学校 入谷中学校 花保中学校 六月中学校 | 第五中学校 第十一中学校 新田中学校 花畑中学校 江北桜中学校 栗島中学校 千寿青葉中学校 | 第六中学校 第十二中学校 東島根中学校 蒲原中学校 伊興中学校 扇中学校 千寿桜堤中学校 | 第七中学校 第十三中学校 洲江中学校 青井中学校 花畑北中学校 加賀中学校 鹿浜菜の花中学校 |
| 葛飾区 | 24校 | 本田中学校 綾瀬中学校 双葉中学校 立石中学校 高砂中学校 | 金町中学校 上平井中学校 大道中学校 常盤中学校 東金町中学校 | 水元中学校 中川中学校 四ツ木中学校 一之台中学校 葛美中学校 | 新宿中学校 桜道中学校 小松中学校 青戸中学校 新小岩中学校 | 奥戸中学校 堀切中学校 亀有中学校 青葉中学校 |
| 江戸川区 | 33校 | 小松川第一中学校 松江第三中学校 瑞江中学校 小岩第二中学校 瑞江第三中学校 二之江中学校 清新第一中学校 | 小松川第二中学校 松江第四中学校 瑞江第二中学校 小岩第三中学校 葛西第三中学校 鹿骨中学校 南葛西第二中学校 | 小松川第三中学校 松江第五中学校 鹿本中学校 小岩第四中学校 松江第六中学校 南葛西中学校 清新第二中学校 | 松江第一中学校 葛西中学校 篠崎中学校 小岩第五中学校 篠崎第二中学校 西葛西中学校 | 松江第二中学校 葛西第二中学校 小岩第一中学校 上一色中学校 春江中学校 東葛西中学校 |
| 武蔵野市 | 6校 | 第一中学校 第六中学校 | 第二中学校 | 第三中学校 | 第四中学校 | 第五中学校 |
| 青梅市 | 10校 | 第一中学校 第七中学校 | 第二中学校 霞台中学校 | 第三中学校 吹上中学校 | 西中学校 新町中学校 | 第六中学校 泉中学校 |
| 府中市 | 11校 | 府中第一中学校 府中第六中学校 浅間中学校 | 府中第二中学校 府中第七中学校 | 府中第三中学校 府中第八中学校 | 府中第四中学校 府中第九中学校 | 府中第五中学校 府中第十中学校 |
| 調布市 | 8校 | 調布中学校 第六中学校 | 神代中学校 第七中学校 | 第三中学校 第八中学校 | 第四中学校 | 第五中学校 |
| 町田市 | 1校 | 真光寺中学校 | | | | |
| 国分寺市 | 5校 | 第一中学校 | 第二中学校 | 第三中学校 | 第四中学校 | 第五中学校 |
| 狛江市 | 4校 | 狛江第一中学校 | 狛江第二中学校 | 狛江第三中学校 | 狛江第四中学校 | |
| 東大和市 | 5校 | 第一中学校 | 第二中学校 | 第三中学校 | 第四中学校 | 第五中学校 |
| 多摩市 | 1校 | 鶴牧中学校 | | | | |
| 羽村市 | 3校 | 羽村第一中学校 | 羽村第二中学校 | 羽村第三中学校 | | |
| 大島町 | 1校 | 第一中学校 | | | | |
| 三宅村 | 1校 | 三宅中学校 | | | | |
| 新島村 | 2校 | 新島中学校 | 式根島中学校 | | | |
| 神津島村 | 1校 | 神津中学校 | | | | |

区立中等教育学校

| | | |
|------|----|----------|
| 千代田区 | 1校 | 九段中等教育学校 |
|------|----|----------|

区立義務教育学校

| | | | | | | |
|-----|----|----------------|------|------|--------|------|
| 品川区 | 6校 | 日野学園 豊葉の杜学園 | 伊藤学園 | 八潮学園 | 荏原平塚学園 | 品川学園 |
| 江東区 | 1校 | 有明西学園 | | | | |

都立中学校

| | | | | | |
|----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 5校 | 白鷗高等学校附属中学校 | 両国高等学校附属中学校 | 武蔵高等学校附属中学校 | 富士高等学校附属中学校 | 大泉高等学校附属中学校 |
|----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|

都立中等教育学校

| | | | | | |
|----|-----------|-----------|------------|-----------|----------|
| 5校 | 小石川中等教育学校 | 桜修館中等教育学校 | 立川国際中等教育学校 | 南多摩中等教育学校 | 三鷹中等教育学校 |
|----|-----------|-----------|------------|-----------|----------|

私立中学校

| | | | | |
|----|-------|-----------|----------|---------|
| 4校 | 愛国中学校 | 鷗友学園女子中学校 | 恵泉女学園中学校 | 武蔵野東中学校 |
|----|-------|-----------|----------|---------|

国立大学法人

| | | |
|----|-----------|----------------|
| 2校 | 筑波大学附属中学校 | 東京学芸大学附属小金井中学校 |
|----|-----------|----------------|

個人会員名簿

| | | | | |
|-----------|------------|-----------|-----------|----------|
| 1. 堀居 英治 | 2. 齋藤 武捷 | 3. 倉持 俊義 | 4. 梶谷 正義 | 5. 内川 武雄 |
| 6. 中村 浩 | 7. 松井 章朗 | 8. 花野 耕一 | 9. 富岡 逸郎 | 10. 森 健 |
| 11. 福島 正幸 | 12. 佐々木 健一 | 13. 手打 和明 | 14. 大塚 健一 | |

本会への入会の御案内

本会は、「産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与すること」を目的としています。

産業教育に関心のある企業・学校・個人で入会希望の方または新会員を御紹介いただける方は、本会事務局まで御連絡ください。

(連絡先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
東京都産業教育振興会事務局
TEL 03(5320)6729 FAX 03(5388)1727

編集後記

令和2年度は新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延し、社会生活や経済活動に重大な影響を及ぼしました。産業教育も大きな影響を受け、感染拡大防止のため生徒・学生が学校に通えないという状況も発生しました。

この間、学校は新型コロナウイルス感染症対策を徹底して教育活動を工夫して行いましたが、問題点や課題も明らかになりました。そこで、本年度は特集テーマを「『新しい日常』における産業教育の推進—各学校・学科の取組—」とし、コロナ禍における会員校の実践事例を紹介いたしました。

「新しい日常」において、産業界と教育界、教育行政が連携して産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要となります。産業教育の充実・発展のために本誌が幾許かの参考になればと願っております。

御多用にも拘わらず、原稿を御執筆いただきました皆様に感謝申し上げるとともに、今後も本会への更なる御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

ホームページアドレス <https://www.tosanshin.org/>

表紙デザイン (平成24年度本誌第50号記念表紙デザインコンクール最優秀作品)
製作者 川口彩花さん (東京都立工芸高等学校 グラフィックアーツ科3年:当時)

ロゴマークデザイン (令和元年度東京都産業振興会ロゴマークコンクール最優秀作品)
製作者 黒岩風花さん (東京都立葛飾商業高等学校3年:当時)

東京の産業教育 第58号

発行 令和3年(2021年)3月5日 発行

東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03(5320)6729 FAX 03(5388)1727

印刷 株式会社小葉印刷所

再生紙を使用しています